第2章 内部質保証

(1) 現状説明

点検・評価項目①:内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。

評価の視点1:下記の要件を備えた内部質保証のための全学的な方針及び手続の設定と その明示

- ・内部質保証に関する大学の基本的な考え方
- ・内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織の権限と役割、当該組織と 内部質保証に関わる学部・研究科その他の組織との役割分担
- ・教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針 (PDCAサイク ルの運用プロセスなど)

本学は、平成 23 年度に受審した大学基準協会の大学評価(認証評価)結果を踏まえて策定した第 1 期 5 年間(平成 24 年度~平成 28 年度)の中期目標・計画において、「理念・目的」「教育研究組織」「教員・教員組織」「教育内容・方法・成果」等に関する 34 項目の中期計画を定めて、教育の質の向上を図るため教育研究活動等の改善・充実に取り組んできた。平成 29 年度からは第 2 期 5 年間(平成 29 年度~平成 33 年度)の中期目標・計画がスタートし、第 1 期での取り組みにおいて明らかにされた課題等を踏まえ、教育の質の向上を図るため、自己点検・評価、情報公開、法令遵守等に関する実施体制等の内部質保証に関するシステムをより適切に実施していくとともに、教育研究活動等について社会へ説明責任を果たすため、以下の基本方針に基づき取り組みを進めている。

〔内部質保証システムの基本方針〕

- a) 建学の精神、理念・目的を踏まえて、教育・研究・社会貢献活動状況について定期的に 自己点検・評価を行い、教育研究の改善・充実を図りその結果をウェブサイト等に公表 する (資料 2-1 http://www.thcu.ac.jp/about/jikotenken/)。
- b) 外部の有識者による検証を行い、検証結果を踏まえて教育研究活動等の改善・充実を 図るとともにその状況を公表する(資料 2-2)。
- c) 理事会・評議員会及び大学経営会議における意見・提言等を踏まえて、管理運営及び 教育研究活動等の適切な実施を図る(資料 2-3)。
- d) 毎年度の決算の状況及び監査報告の内容等財務の状況についてはウェブサイトにおいて 公表する(資料 2-4 http://www.thcu.ac.jp/about/post/)。
- e)保有する教育研究活動等の情報に関する公開請求に対して、学校法人青葉学園情報公開 規程に基づき適切に対応する(資料 2-5)。
- f)教育研究活動等に伴い関係する法令及び本学の服務関係規程等に関しては、教職員への コンプライアンス(法令・モラルの遵守)の徹底を図る。
- g) 教育研究活動等のデータベース化を推進し、東京医療保健大学紀要、年報、教育研究活動状況等についてはウェブサイトに公表する。
- h) 文部科学省に提出する本学の学部・研究科に係る設置計画履行状況報告書については、 社会への説明責任を果たすため速やかにウェブサイトに公表する

(資料 2-6 http://www.thcu.ac.jp/about/rikojokyo.html)。

- i) 平成 30 年度に受審する大学基準協会による大学評価(認証評価)の実施結果に基づき、 所要の改善を図るとともにその結果をウェブサイトに公表する。
- j)建学の精神及び理念・目的に基づき策定された、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間の中期目標・計画について毎年度着実に実施するとともに、中期目標・計画の 実施状況について定期的に大学経営会議及び理事会・評議員会に報告し、最終年度終了後には実施状況をウェブサイトに公表する。

〔具体的な取り組み〕

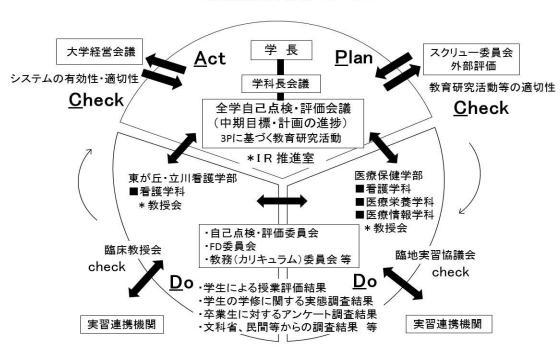
大学・学部・研究科等の理念・目的に基づく中期計画の履行に当たり、教育の質を確保しつつ適切な教育研究活動等を行い有為な人材の育成が図られているかについて、毎年度、学科長会議、研究科長会議、各学部学科の教授会及び学科会議等において点検・評価を行っており、その結果について外部有識者による評価を実施(スクリュー委員会:後述)し、指摘された改善点を各学部学科にフィードバックを行い、PDCAサイクルに基づく教育研究活動等の改善・充実に取り組んでいる(資料 2-7、2-8)。

(主な手順)

- 7) 学長のリーダーシップの下、中期目標・計画の達成に向け3つの方針に基づく教育研究活動等の取り組みが、各学部学科において適切に行われているか、全学自己点検・評価会議において点検・評価を実施し改善方策を講じている。
- イ) 各学部に設置する、自己点検・評価委員会、FD委員会、教務(カリキュラム)委員会等において、以下の調査結果を受けて教育内容・方法等の改善について検討し改善を図っている。
 - ・学生による授業評価 → IR推進室(企画部、教務部)
 - ・学生の学修に関する実態調査 → 同上
 - ・卒業生に対するアンケート調査 → 学生支援センター
 - ・文部科学省、大学及び医療系関係団体、民間教育企業等からの調査 → 企画部 ※医療保健学部は看護学科・医療栄養学科・医療情報学科の3学科で構成。 ※東が丘・立川看護学部は看護学科のみ。
- ウ) 学部自己点検・評価委員会において、教育研究活動等の取り組み状況について点検・ 評価を実施しその結果を全学自己点検・評価会議に提出。
- エ) 全学自己点検・評価会議において、教育研究活動等の取り組み状況を大学全体の点検・評価報告書として取りまとめ、スクリュー委員会(外部評価)に報告するとともに、本学の最高意思決定機関である大学経営会議及び理事会・評議員会に報告され、社会に公表する。
- お) スクリュー委員会で指摘された改善事項を含め、全学自己点検・評価会議で取りま とめた改善事項等を各学部学科にフィードバックする。各学部学科は改善事項等について、教育内容・方法等の見直し・改善を図り、教育研究活動等に反映させる。

また、「本学の中長期計画の策定に関すること」「学則その他重要な規則の制定改廃に関すること」等の教学及び経営に関する重要事項については、本学の最高意思決定機関である大学経営会議(構成:学外委員9名、学内委員7名、概ね年5回開催)の審議・承認を経て、学校法人青葉学園寄附行為に基づき本学の経営に関する事項については、理事会・

評議員会(概ね年3回開催)の審議・承認を経て決定しており、大学経営会議及び理事会・ 評議員会における意見・提言等を踏まえて、本学の管理運営及び教育研究活動等を適切に 実施している。



内部質保証システム イメージ図

点検・評価項目②:内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。

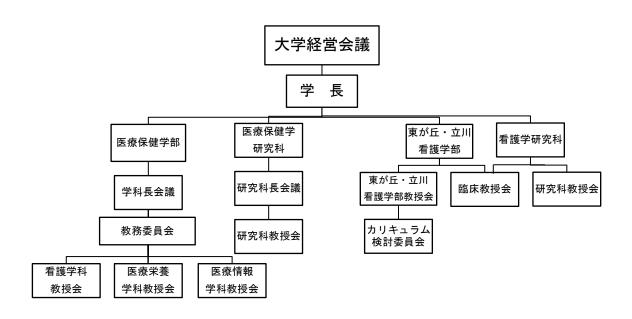
評価の視点1:内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織の整備

評価の視点2:内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織のメンバー構成

全学的な教育の質保証の取り組みについては、点検・評価結果に基づく教育研究活動等の改善に資する重要事項について、医療保健学部 3 学科では学部教務委員会、各学科教授会及び学科長会議で、東が丘・立川看護学部看護学科ではカリキュラム検討委員会及び教授会において審議を行い、学長の下に設ける 4 学科合同(各学科 2 名選出)の全学自己点検・評価会議において審議を行った後、本学の創設時からのスクリュー委員会による外部評価を実施し改善点を各学部学科にフィードバックして改善を図っている。なお、内部質保証システムが有効に機能しているかについては、本学最高意思決定機関である大学経営会議において最終的なチェックを行っており、全学的な教学マネジメント体制により学士課程教育の改善・充実を図るとともに、教育の質の向上に努めている(資料 2-9、2-10)。

また、大学院課程の医療保健学研究科(1専攻8領域)及び看護学研究科(1専攻3コース) に係る教学上の重要事項についても、各研究科教授会の審議の後、大学経営会議において 審議・決定を行っている。 現在、学長の下に副学長、学部長、学科長、研究科長等をチームとする総合的・戦略的に教学マネジメントを行う体制を整備している。なお、平成30年4月から、千葉看護学部及び和歌山看護学部を開設したことを踏まえ、「内部質保証推進会議」を設置し、PDCAサイクル等を適切に機能させつつ、教育の質の向上を図っていくこととしている。

【全学的な教学マネジメント体制について】



点検・評価項目③:方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

評価の視点1:学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針の策定

のための全学としての基本的な考え方の設定

評価の視点2:内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織による学部・研究科その他の

組織における教育のPDCAサイクルを機能させる取り組み

評価の視点3:行政機関、認証評価機関等からの指摘事項(設置計画履行状況等調査等)

に対する適切な対応

評価の視点4:点検・評価における客観性、妥当性の確保

本学の建学の精神及び教育理念・目的に基づく人材の育成を図るため、「社会からの信頼に応え、国際的通用性を備えた学士課程教育の構築を実現するために」をスローガンに、a)学位授与の方針としては、「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」及び「総合的な学習経験と創造的思考力」に関する学士力を有するとともに医療分野において高い専門性、豊かな人間性及び教養を備えていることを定め、b)教育課程の編成・実施方針としては、本学の建学の精神、理念・目的及び学位授与方針に基づいて制定することとし、C)入学者受け入れの方針としては、「医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成」するため、入学者選抜においては「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」という「確かな学力」を把握するとともに、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・

資質・意欲・適性等を判断することとしている(資料 2-11、2-12、2-13)。

これら3つの方針を踏まえ、本学の教育研究活動等の状況を把握しその分析及び評価を通じて、教育研究活動等及びこれを支える経営の改善に資するため、教育、研究、学生支援、財務・施設、人事等に関する情報の総合的な分析・評価、共有等を図るべく、平成26年度から学長直属の「大学情報マネジメント室(IR推進室)」を設置している(資料2-14)。

IR推進室においては、主に学生の修学支援等の充実を図るため「学生の学修に関する実態調査アンケート」を毎年度実施し分析・評価を行っており、学生の能動的学修を促すための取り組みに活用している。また、教育研究活動等のデータベース化を推進するとともに、平成26年度からスタートした「大学ポートレート」(後述)に本学の個性・特色が伝わるよう積極的に教育研究活動等に関する所要の情報を公表している。

なお、本学が保有する教育研究活動等の情報に関する公開請求に関しては情報公開規程 に基づき適切に対応している。

本学の教員及び事務職員において、相互に協働して教育研究活動等に取り組んでいく上で必要な関係法令及び服務関係規程等に関し、学内で共有する「デスクネッツ(文書管理タグ)」に掲載して教職員が常時見られるようにしており、また、学則等規程の改正・制定等の概要について教職員向けに学内の動きをお知らせする「THCUトピックス」(概ね年4回発刊、メール配信)(資料 2-15)において周知を図る等コンプライアンスの徹底を図っている。特に法令遵守等に関しては次のとおり対応している。

- a) 行政機関及び認証評価機関からの指摘事項に対して、平成 26 年 4 月に看護学研究科に博士課程を届出により新設したが、平成 27 年 5 月に設置計画に基づく履行状況を明記した「設置計画履行状況報告書」を文部科学省に提出するとともにホームページに公表しており、平成 28 年 12 月 14 日に大学設置・学校法人審議会大学設置分科会による設置後の履行状況を把握する面接調査ヒアリングにおいて、研究科長から設置計画を適切に履行していること、教育研究の質の確保を図り第 1 期生の輩出に向けた取り組みを行っていること、学生の充足率等について説明し評価をいただいた。なお、ヒアリングで指摘された学生の声を聞く方法や博士課程の教員向け F D 等について検討し博士課程の一層の充実に努めている。本件については、平成 30 年 2 月 23 日付で文部科学省から「設置計画履行状況等調査の結果について(平成 29 年度)」通知があり「意見が付されなかった大学等」にノミネートされている(資料 2-25)。
- b)また本学は、平成 23 年度に、本学の教育研究活動等の取り組みに関して大学基準協会による大学評価を受審し「大学基準に適合している」と認定(認定期間:平成 24 年 4 月 1 日~平成 31 年 3 月 31 日の 7 年間)された際、努力課題として指摘された事項について、平成 24 年度以降速やかに改善を図り平成 25 年 7 月に改善状況報告書を大学基準協会に提出した。大学基準協会において改善状況を確認の後、次のとおり検討結果の通知を受けた(26.3.17)。

[1] 概評

2011 (平成 23) 年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する努力課題として 14 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの努力課題を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取組の成果が十分に表れていない事項については、引き続きー 層の努力が望まれる。

教育内容・方法・成果については、1年間に履修登録できる単位数の上限は定められたものの、1セメスター30単位、かつ連続した2セメスターで50単位と高く、さらに、履修登録できる単位数への算入の除外対象となっている科目が、国家試験に関連する資格科目のほかにも多数あるので、単位制度の趣旨に照らして一層の改善が望まれる。

教育研究等環境については、医療保健学部の演習室の拡充整備に向けた改善への意 欲は認められるが、取組が開始されたばかりであるので、今後の成果に期待したい。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

上記指摘の教育内容・方法・成果に関する1年間に履修登録できる単位数の上限について、医療保健学部医療情報学科においては、平成27年度入学生から1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位から44単位に改正を行い、履修登録単位数の上限から除外する科目数の見直しを行うとともに、医療保健学部看護学科、医療栄養学科及び東が丘・立川看護学部看護学科においても、学生の過剰な授業科目の履修登録を防ぐことを通じて単位制度の実質化を図るため、平成27年度入学生から履修登録単位数の上限を低く設定した(27.3.4 施行)。

本学は、開学当初から教育研究の質の向上を図るとともに内部質保証を図る観点から、本学の教育研究関連課題(教育研究組織・教育研究活動・学生支援・社会貢献及び社会連携に関する活動等)について、社会的側面から検討願い外部から提言・評価をいただくため、有識者等をもって構成する「スクリュー委員会」(構成員:学外有識者5名、理事長・学長・大学経営会議室長・事務局長)を設置し年3回開催している(スクリューは「船のスクリュー(推進機)」、「改修(改善)のネジ」の意)。

スクリュー委員会においては、学士課程及び大学院課程に係る教育研究活動等に関する 提言・評価等を頂いている。毎年度取りまとめる点検・評価報告書に記述した本学の教育 研究活動等の取り組み状況及び課題等について、スクリュー委員会の5名の学外有識者に お目通し頂いた意見等を踏まえ、教育研究活動等の改善に真摯に取り組んでいる。 点検・評価項目④:<u>教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況</u> 等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。

評価の視点1:教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等の

公表

評価の視点2:公表する情報の正確性、信頼性

評価の視点3:公表する情報の適切な更新

学校教育法施行規則に定める教育情報及び医療保健学部各学科・医療保健学研究科・東が丘・立川看護学部・看護学研究科に係る教育研究活動の状況については積極的にウェブサイトに公表している(資料 2-16 http://www.thcu.ac.jp/about/eduinfo/)。

また、特に研究活動の成果としては「東京医療保健大学紀要」「医療関連感染(Journal of Healthcare-Associated Infection)」を発刊しウェブサイトにも公表している。

教育情報の公開状況は次のとおり。

事項	公開している内容
7) 大学の教育研究上の目的 及び学位授与の方針、教育 課程編成・実施の方針、入 学者受け入れの方針に関 すること	建学の精神、大学学則、大学院学則、 社会連携・協力に関する基本方針、 国際交流に関する基本方針、学位授与の方針、 教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針
()教育研究上の基本組織に 関すること	大学組織及び事務組織、大学・学部学科・研究科等の理念・目的
り)教員組織、教員の数並びに 各教員が有する学位及び 業績に関すること	教員組織の編成方針、教員数・事務職員数(嘱託職員含)、 年齢別教員数、教員一人当たり学生数(平成29年度)、 専任教員数と非常勤教員数の比率(平成29年度)、 教員の紹介
I) 入学者の数、収容定員及び 在学する学生の数、卒業又 は修了した者の数並びに 進学者数及び就職者数そ の他進学及び就職等の状 況に関すること	志願者・合格者・入学者数の推移、 学生定員及び在籍学生数、 卒業(修了)者数及び学位授与数、退学者及び除籍者数、 留年者数、社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数、 就職・進学状況

事 項	公開している内容
わ授業科目、授業の方法及び 内容並びに年間の授業の 計画に関すること	教育課程編成・実施の方針、講義内容(シラバス)等、授業カレンダー
か)学修の成果に係る評価及 び卒業又は修了の認定に 当たっての基準に関する こと	学位授与の方針、医療保健学部履修規程、 東が丘・立川看護学部履修規程 ※各種アンケート調査結果を追加
も) 校地・校舎等の施設及び設備 その他の学生の教育研究環境に関すること	教育環境の整備に関する実施計画、 校地・校舎・講義室・演習室等の面積
か 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること	学部学科・専攻科・研究科の入学金、授業料等
が大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等 に係る支援に関すること	学生支援に関する基本方針、学生支援の取り組み状況、 就職支援スケジュール
コ)社会連携・社会貢献に関すること	社会連携・協力に関する基本方針、公開講座の実施状況、 大学院公開講座等の実施状況、ボランティア活動状況、 学生の課外活動の状況、国際交流(研修)事業、 産官学連携事業

このほか、平成 26 年度から、政府の教育振興基本計画(25.6.14 閣議決定)に定める「データベースを用いた教育情報の活用・公表のための共通的な仕組み」に基づき実施された「大学ポートレート」(公的な教育機関として公表が求められる情報等を公開する仕組み)に参加して、本学の各学部学科・各研究科に係る特色ある教育研究活動等の情報を公表している。また、私立大学に係る「大学ポートレート」は日本私立学校振興・共済事業団のホームページ上で公開されている。

本学においては、社会への説明責任を果たすとともに、特色ある教育の取り組み状況を情報提供し学生及び保護者が適切な情報を得られるよう教育情報の公表に積極的に取り組んでいる。

自己点検・評価結果の公表については、全学の自己点検・評価会議(医療保健学部及び東が丘・立川看護学部合同)において報告書に取りまとめ、本学の最高意思決定機関である大学経営会議及び理事会・評議員会において審議・承認を経た上で本学のウェブサイトに公表しており、これにより社会への説明責任を果たすとともに、社会からの評価を真摯に受け止めて教育研究活動等を着実に推進している。

また、決算等の財務状況についても独立監査人による監査結果報告書及び学校法人 青葉学園の2名の監事による監事監査結果報告書についてホームページに公開している。 財務情報の公表は次のとおり。

- 1)決算説明書 2)資金収支計算書 3)消費収支計算書 4)貸借対照表 5)財産目録
- 6) 事業報告書 7) 監事監査報告書 8) 独立監査人の監査報告書
- 9)消費収支計算書関係比率(法人全体) (大学基礎データ表 9)
- 10) 消費収支計算書関係比率(大学単独) (大学基礎データ表 10)
- 11) 貸借対照表関係比率(私立大学) (大学基礎データ表 11)
- 12) 科学研究費の採択状況 (資料 2-17)
- 13) 学外研究費 (資料 2-18)

点検・評価項目⑤: 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行って いるか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを 行っているか。

評価の視点1:全学的な PDCA サイクルの適切性、有効性

評価の視点2:適切な根拠(資料、情報)に基づく内部質保証システムの点検・評価

評価の視点3:点検・評価結果に基づく改善・向上

本学の全学的な教育の質保証の取り組みについては、学則第 4 条(自己点検・評価)、第 5 条(第三者評価)、第 6 条(情報の積極的な公表)において規定するとともに、第 2 期の中期目標・計画に定める方針の下に積極的に取り組んでいるが、特に点検・評価結果に基づく教育研究活動等の改善に資する重要事項については、各学部の各種委員会(自己点検・評価、教務(カリキュラム)、FD、入試、学生生活等)及び各学科教授会等の会議において審議を行い、全学の自己点検・評価会議において審議・取りまとめを行った後、本学最高意思決定機関である大学経営会議及び理事会・評議員会において最終的な審議・決定を行っている(資料 2-19、2-20、2-21)。

また、教育研究活動等の改善に資する重要事項を含め毎年度取りまとめる「点検・評価報告書」については、外部有識者による評価(スクリュー委員会)を実施しその意見聴取の結果を改善・充実施策に反映させるとともに社会に公表している。

このようなPDCAサイクルに基づき、全学的な教学マネジメント体制により教育研究活動等の改善・充実を図るとともに教育の質の向上に努めており、本学の内部質保証システムは適切に機能している(資料 2-22、2-23、2-24)。

なお、PDCAサイクルが有効に機能しているか内部質保証システムの適切性については、大学経営会議(現員 16 名中 9 名が外部委員)において、最近の大学教育を取り巻く社会の変化や国の制度改革等の動向を踏まえ、大所高所からチェックし改善に努めている。

(2)長所・特色

本学は、医療系の大学として建学の精神及び教育理念・目的に基づき、わが国最先端の 医療を実施する機関と連携・協力し優れたチーム医療人の育成を図り、社会に有為な人材 を送り出している。

医療保健学部看護学科(品川区)及び同学部医療栄養学科並びに医療情報学科(世田谷区)においてはNTT東日本関東病院及び他の多くの中核医療機関と、東が丘・立川看護学部看護学科(目黒区及び立川市)においては独立行政法人国立病院機構東京医療センター・災害医療センター及び他の国立病院等との連携・協力により最先端の臨床実習教育を展開している。

このような本学の教育研究の取り組みの評価として、平成30年4月より、新たな教育研究組織として、千葉看護学部(船橋市)及び和歌山看護学部(和歌山市)が開学する(図表)。

千葉看護学部については、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)がこれからの医療・看護・福祉の主要なテーマに先駆的に取り組み、地域医療・地域包括ケアの要となることができる看護師を養成する大学の設置を切望しており、本学としても建学の精神、理念・目的に照らしてその趣旨に賛同しJCHOとの協働による看護学部設置の一般競争入札に応募し決定をいただき、平成28年11月22日に協定書の調印を行った。

また、和歌山看護学部については、和歌山県と和歌山市からの強い要請を受け、県及び市並びに日本赤十字社和歌山医療センターとの連携・協力の下に設置されるものであり、平成28年5月30日に4者間の連携に関する協定書の調印を行った。県及び市は看護学部の設置に対し、地方における医療の発展に寄与する優れた看護師の養成のみならず、若者の県外流失傾向に一定の抑制効果が見込まれ、地域の活性化に好影響を及ぼすと期待されている。

(3)問題点

内部質保証を考える際に必要となる自己点検・評価、改革方策の検討に重要な学内各種データの収集・加工が十分とは言えないため、IR推進室の機能強化のための工夫を検討している。具体的には、職員を学外研修会に参加させて専門職員として育成していくとともに、専門的知識・能力を持った外部人材の雇用も考えている。

(4)全体のまとめ

本学の内部質保証については、公教育機関として教育研究活動等に関する社会への説明責任を果たすため、内部質保証システムの基本方針を定め、第1期(平成24年度~28年度)の取り組みを踏まえ、平成29年度にスタートした第2期5年間の中期目標・計画の達成に向け、教員と事務職員が相互に協働し教育研究活動等に取り組んでいく上で必要な学内各種データをデスクネッツで教職員が常時見られるようにし、より充実した情報共有体制とIR体制の下に、不断の点検・評価、検証を継続して行い、教育研究活動等の改善・充実に努めている。

このような本学創立以来 10 数年における教育研究活動等の取り組み実績に対し、独立行政法人や県及び市の行政機関から強い要請があり、平成 30 年 4 月に千葉看護学部及び

和歌山看護学部を開設できたことは、本学の教育研究の在り方に対し一定の評価が行われたものと思われる。

これにより、平成 30 年度から本学の教育研究機能は 6 つのキャンパスに拡大することになるが、各キャンパスがそれぞれの特色を発揮しつつ、教育の質の向上を図っていけるよう内部質保証システムの充実が必要であり、平成 30 年度から学長をトップに学部長、学科長、研究科長、外部有識者で構成する「内部質保証推進会議」を設置し、その下に、教育研究活動等の改善・充実を図るための個別事案に対応する全学委員会(自己点検・評価委員会、FD・SD委員会、アドミッション委員会等)を整備し、より機動的に取り組んでいくこととしている。

図表 東京医療保健大学 開設学部・学科の推移

	公 米尔区尔休姓八于	用放子的 子科切在物	
開設年月日	学部	学科	キャンパス
創設		看護学科	五反田キャンパス
平成 17 年 4 月	医療保健学部	医療栄養学科	世田谷キャンパス
(1 学部 3 学科)		医療情報学科	世間存在やりれる
		看護学科	五反田キャンパス
平成 22 年 4 月	医療保健学部	医療栄養学科	世田谷キャンパス
(2 学部 4 学科) 平成 26 年 4 月		医療情報学科	日田谷ヤヤンハス
(東が丘看護学部		看護学科	
名称変更)	東が丘・立川看護学部	臨床看護学コース	国立病院機構(東が丘)キャンパス
		災害看護学コース	国立病院機構立川キャンパス
		看護学科	五反田キャンパス
	医療保健学部	医療栄養学科	世田谷キャンパス
		医療情報学科	世田谷ヤヤンバス
 平成 30 年 4 月		看護学科	
(4 学部 6 学科)	東が丘・立川看護学部	臨床看護学コース	国立病院機構(東が丘)キャンパス
		災害看護学コース	国立病院機構立川キャンパス
	千葉看護学部	看護学科	船橋キャンパス
	和歌山看護学部	看護学科	雄湊・日赤和歌山医療
		H H& J 111	センターキャンパス

<u>大学全体</u>

委員からのご意見等

1. 点検・評価報告書に伴っている資料をホームページにて参照しましたが、資料番号が明記されておらず、どの項目に資料が含まれているか見読性に欠けていました。資料のどのあたりに記載されているかを追記するなど、表記方法を検討していただきたいと思います。(今村委員)

2.8-9 頁 中期計画【6】医療保健学部看護学科および東が丘看護学部看護 学科における連携強化について

「医療保健学部学科長会議に副学長・看護学研究科長および副学長・東が丘・立川看護学部長が必要に応じて出席し(中略)両学部の一体的な運用に努めている」とありますが、必要に応じるということは、普通は副学長・看護学研究科長および副学長・東が丘・立川看護学部長が参加しておられないという意味でしょうか?また、東が丘・立川看護学部での会議には医療保健学部看護学研究科長は参加されているのでしょうか?会議体における両学部の連携のためには一方的な学部会議での参加だけでは連携が不十分なのではないかと考えます。

両学部の特色を生かしつつ連携強化を行う上では、部分的な交流に 留まることなく、一部カリキュラムの統合や人事交流を行うなど、積極 的な一体運営を行うこともご検討頂いてはどうでしょうか。(今村委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

ホームページの様式上、今年度は項目ごとにまとめる形で掲載をいたしましたが、ご指摘のとおり、報告書に対応する資料がどこなのかわかりにくくなっているため、掲載方法を検討し、各資料を閲覧しやすいように改善いたします。

両学科における連携強化について、看護学研究科長と東が丘・立川看護学部長が出席した医療保健学部学科長会議はこれまで複数回行ってきておりますが、全学的な会議等において、例えば、大学経営会議、入試広報委員会、国際交流委員会、スクリュー委員会などへの出席や、この他に、医愛祭、スポーツ大会、入学時の合宿研修、ハワイ研修などの運営に共に携わることで、連携を図ることとしております。FD 活動でも全学を対象とした「東京医療保健大学を語る会」を開催し、教員の質向上に努めております。

また、両学科間でそれぞれの特色を活かしつつ、連携協力により看護教育の 一層の充実を図るため、教学上の課題等について意見交換等を行う懇談会を 設けております。

ご提案の両学科間におけるカリキュラムの統合や教員の人事交流の検討については、それぞれの教育目的や教育目標に明確な特色があり、カリキュラムの独自性において難しいと考えておりますが、科目によっては授業を相互に担当いただいております。なお、今後、両学科を含め各学科長が一同に会する定例的な会議を検討しているところであります。

3.12頁 中期目標【9】「教員の資質及び教育力の向上を図るため、教員の FD 活動を推進する L

学部学生及び大学院生による授業評価アンケートについて資料「平成 26 年度授業評価実施結果」について医療保健学部の 3 学科において 授業集計結果が添付されていませんでした。調査はされているので しょうか?されているなら添付されていないのは何か理由があるので しょうか?(今村委員)

4. 東京医療保健大学は、建学の精神である科学と人間性に基づく特色ある 教育研究活動を、過去 10 年にわたって極めて積極的に実践、展開され てきたことは高く評価される。

以下の感想・意見は大学全体に向けたもので、個々の看護学科、栄養 学科、医療情報学科、助産学専攻科および大学院に向けたものではない ことを最初にお断りしておきたい。

第 2 期の 5 年間の中期目標・計画 (2017 年~2022 年) はこれで良い だろうが、その先のわが国全体の動向から、貴大学全体に関わる問題点 を列記し、今後の大学運営の御参考にしていただければ幸いである。

(1)国立社会保障・人口問題研究所の報告によれば、2010 年の日本の 総人口は同年の国勢調査から 1 億 2,806 万人だった。以後長期の 人口減少過程に入り、2030年に1億1.662万人、2048年には1億人 を割り、9.913万人となると推計されている。

3 つに区分した推移の報告もある。年少人口、生産人口とも次々と 減少する。一方、老年人口は 2010 年の 2.948 万人から、団塊世代

ご意見等についての大学の回答・対応等

|授業評価については医療保健学部の3学科ともに実施しております。 集計結果はホームページの自己点検・評価→根拠資料(3. 教員・教員組織)から ご覧いただけます。

ご指摘のとおり、わが国の今後の医療を取り巻く動向を見据えつつ、特に人口 動態に鑑みると、高齢社会や少子社会への移行を踏まえた医療人材ニーズに どのように応じていくか、過去 10 年間で培った本学の特色・強みをより強化 し教育・研究活動を展開していく必要があると考えております。

(1), (2)

急速な高齢化の一方で少子化が進んでいることから、増え続ける高齢者を減り 続ける若者が支えなければならない流れの中において、健康寿命の延伸を 図り、高齢でも自立して日常生活が送れるようにするため、医療は疾病の治療 から予防へ、入院から在宅へ、介護・福祉へと大きくシフトして行くことが 迫られていくと思われます。

これからは本学の教育研究の特色・強みである「マネジメントカ」「チームカ」 が真価を発揮する時代でもあります。このような変化に柔軟に対応・順応し、 時代を先導できる健全で高い倫理観を持った人材を育成し、新時代に向けた。 年令を年少(0~14 才)、生産年令(15~64 才)、老年(65 才以上)の | 健康増進・医療・ケア・福祉の在り方を研究し実践して行くことが、「医療 保健」を冠した大学に課せられた課題と認識しております。

が参入を始める 2012 年に 3,000 万人を超え、2020 年に 3,612 万人、第二次ベビーブーム世代が老年人口に入る 2042 年に 3,878 万人でピークを迎え、その後減少に転ずる、と予測されている。これは今後のわが国の最大の問題であり、特に生産年令人口の減少と老年人口の増加が経済にも財政にも、また世代間の負担にも、

(2)上述した人口減少、高齢社会の到来は第3期中期計画以降の貴大学の活動にも重大な影響が生ずるのは必然である。その中で、今後の貴大学全体の活動にとって特に重要と私が考えるいくつかを以下に列記したい。

医療、教育にも極めて重大な影響を及ぼすことは明らかである。

- (3)①ICT が医療全般に占める重要性はいや増すばかりであるが、現状 で医療情報学科の応募学生数が必ずしも十分でないのは気がかり である。
 - ②さらに、AI(人口知能)による医療の変革は、10 年先には革命的となるものと予測され、診療現場の状況も一変するだろう。 この時代を先取りした準備が必要と思われる。
 - ③地域包括ケアに基づく在宅医療は国の方針もあり、2025 年に向って確実に進む。

それに備えた看護、栄養、医療情報の準備は待ったなしである。 特に在宅医療を考えたとき、医師と看護師の職分の間にある、 いわゆるグレーゾーンの解決、すなわち、医師から看護師への 権限の移譲は貴大学単独の問題ではないが、あらゆる機会をとら えて発信すべき重要事項と思われる。

- ①医療情報学科の応募学生数が減少していることについては、医療情報という概念が世の中に十分浸透できていないのが大きな要因と思われ、私どもも苦慮しているところですが、高校から「医療情報学科がどのような学修を行い、どのような進路があるかがよくわからない」との声が聞かれることから、卒業生の就職先での仕事等の話を含めて、高校生へ職業イメージやその将来性を分かり易く説明した「医療情報学科ガイド」を作成したほか、医療情報学科教員による出張講義、月1回ペースの体験教室等、医療情報学科の情宣や啓蒙に努めているところであります。
- ②AI(人工知能)による医療の変革については、教員間ならびに実習病院との 連絡会議等においても話題となっており、学協会の講演会等に参加する等、 最新の情報を積極的に収集していくべき事項と認識しております。

現状では学科ごとに対応しており、話題性のあるものについては既存の科目で講義の機会を設ける等、学生が興味をもてるようにしています。学部教育としては社会状況が変化しても人々のニーズにプロフェッショナルとして応えていけるための基礎的な能力ー幅広く的確な情報収集能力と思考/判断能力ーを養成するとともに、チームでこそ可能となる未来志向の想像/創造の基盤となるコラボレーション能力の育成に、引き続き注力していきたいと考えております。

③地域包括ケアに基づく在宅医療の趨勢に対応すべく、看護、医療栄養、医療情報の各医療専門職が専門性を活かしつつ、協働して治療やケアを行う「チーム医療」が極めて有効とされ、医療の主流となっております。本学の教育の特色・強みも正にここにありさらに充実・強化を図ってまいりたいと

④ゲノムワイドな遺伝子解析技術は、ますます高速で廉価となっていくことは必然である。この情報に基づく、子ども、成人、高齢者を含めた全年齢層に対する個別の疾患予防が極めて重要となろう。特にがん、生活習慣病、認知症では然りである。

こうしたドラスティックな世の中の動きに貴大学が迅速に対応を強化 していただくことを強く望むものである。(垣添委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

考えております。特に在宅医療を考えた場合には医療的処置を必要とする 高齢者の増加が見込まれ、常に患者の近くで仕事をしている看護師の医学的 な知識や技術、また周囲を俯瞰して患者のリスクを察知する能力や緊急時に 対応する能力は今後ますます重要視されてきており、医師に代わって看護師 が特定の医行為を行うための権限移譲について社会の要請は高まっている ものと考えております。本学としては、これを見据えつつ看護学教育のさら なる充実・強化に努めてまいりたいと考えております。

④ご指摘のとおり、遺伝子解析技術が進み、その情報に基づいた最良で最適な 治療の提供に限らず、発症予防法の開発・実践が求められております。遺伝 子解析情報や蓄積データの活用は、胎児や乳児期から高齢期の生涯にわたる 個々人に対する最適化医療(Precision Medicine)の実践へとつながると ともに、がん・循環器疾患を含めた生活習慣病予防、また介護の原因となる 脳血管疾患(脳卒中)や認知症予防などのエビデンスベーストとして有効と されております。このような国の医療政策や最新の医学医療の研究動向に 関しては、医学医療概論や総合演習等の授業時間に教授に努めており、また 学協会の講演会等に出来るだけ参加し、最新の情報を把握しながら、学生が 理解できる内容に噛み砕いて適宜紹介するなど、今後も医療現場に強い人材 育成を担う大学としての社会的役割を果たせるよう取り組んでいきたいと 考えております。

禾吕	41	ì	$\boldsymbol{\omega}$	一音	見等
女只	/J'	כי	v	ᆫᄰ	元寸

ご意見等についての大学の回答・対応等

5.19 頁の「協働実践演習」が平成27年度には8月17日から21日に行わ れたが、教員にとっても学生にとっても参加しにくいこの時期に行って 実態は如何でしたか。(脊山委員)

医療保健学部看護学科

看護学科学生については就職活動等で欠席せざるを得ない学生が 2 名のみ でしたがおり、集中講義のため1日の休みが進行に大きくひびいた状況があり ました。履修状況としては4月の場合と比較して大きな違いはなく、グループ 内で活発に議論し参加できておりました。教員にとっては研究に集中できる 期間の授業ではありましたが、学科内で交代で担当をしておりますので、計画 的に取り組むことができたと思います。

医療保健学部医療栄養学科

協働実践演習はこれまで 4 月に行われてきましたが、学生の就職活動および 病院実習の点から昨年は8月に変更になりました。とくに欠席もなく、学生に とっては8月の方が好ましいと思われます。教員にとっても、入学・進級前後 の多忙な4月よりは、あらかじめ決められた担当教員はその期間に担当できる ように準備していますので、8月だからといって特に問題はありませんでした。

医療保健学部医療情報学科

昨年から就職活動時期が変更になり、3月末から6月までは学生が活動を継続 となることが予想されたため、8月の開催としました。学生にとって8月は 就職活動が一段落し、就職活動を理由にした欠席が殆どなく大変いい時期に 開催できたと考えています。

6.24 頁の実験・実習の結果を学生自身がまとめてパワーポイントを│実験科目や実習科目、その他演習等多くの授業においてパワーポイントを用い 使ってプレゼンテーションを行うのは従来の単にレポートを提出する のと違って、理解を深める良い試みだと思いますが、日程的に無理なく 行われたのでしょうか。(脊山委員)

たプレゼンテーションを実施しておりますので、学生はこのスタイルに困難を 感じないようにトレーニングされています。教員も、準備も含めて日程的に 全く無理のないように授業内容を組み立てております。

禾吕	th i	- m -	意見	笙
女只	ル・ピ) U) _	. 尽 冗	. ₹

ご意見等についての大学の回答・対応等

7.79 頁の医療保健学部の退学者の状況で 2%を超えているのは高すぎると思います。特に進路変更によるものが多いので、募集要項やオープンキャンパスにおける学部の PR に問題が無いかどうか検討が必要です。 (脊山委員)

医療保健学部においては、各学科の内容や特色について、進学ガイダンス・入試説明会・オープンキャンパス・学部学科見学会など機会のあるごとに説明や個別相談で十分な対応を行っているところであり、また大学案内、学生募集要項においても学部の特長をはじめ、各学科の内容や入学者受け入れの方針を明示しているところですが、医療保健学部の退学理由に進路変更によるものが多くなっている可能性としては、本学が入試において学科併願を認めているため、入試の結果必ずしも本意(第一志望)ではなかった学科に入学した後に、あらためて大学での学修に違和感を持ったことが考えられます。今後、詳細に分析し対応を検討してまいります。

8. 開学 10 周年が過ぎて第 2 期に入りました。これまで、学部授業を中心に順調に展開してきましたが、これからは修士・博士課程の充実に努めていただきたい。特に、本学の学部卒業生で、社会で経験を積んだ者が院生として戻ってくることを期待します。(脊山委員)

医療の高度化により医療人に求められる資質・能力は、学部レベルから大学院 レベルへとシフトしていかざるを得ないと感じております。このことは医療の グローバルな観点からも重要であります。そのため、学部教育を終えて社会人 として臨床現場に就いている卒業生たちが、現場でより高度な医療知識の必要 性を感得し大学院にもどって深く学べるよう、幅広く環境整備をしてまいり ました。

看護学研究科の高度実践看護コースでは、看護師の特定行為研修の指定研修機関に指定(平成 27 年 10 月わが国初)されており、医学の知識と高度な実践力を備え、患者さんにタイムリーに診療を提供できる診療看護師(NP)を養成しております。また、高度実践助産コースではすでに助産師免許を有している方を対象に管理者・指導者・高度な助産の実践者としてのスキルアップを図っております。前者は臨床経験 5 年以上、後者は助産師資格が必要なため、本学の学部卒業生の受け入れはこれから本格化すると考えております。

なお、医療保健学研究科の修士課程助産学領域、看護学研究科の高度実践看護 コース及び高度実践助産コース助産師プログラムにおいては、文部科学省の 「職業実践力育成プログラム(BP)」に申請し、認定されております。

すばらしいと思います。募集要項では、高校で「生物」「化学」を履修 していることが望ましいとされていますが、看護学科や医療栄養学科の 実際の合格者での未履修者の割合はどの程度でしょうか。また、これと 進路変更を理由に退学する者とは一致率が高いのでしょうか。 (山口委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

9.入学時のプレースメントテストの活用で個別対応が出来、入学前学修|本学では、入学時に実施しているプレースメントテストについては、平成 18 プログラムで生物、化学、数学、英語の通信添削まで行っているのは↓年度から実施しております。ご指摘について、高校での「生物」「化学」の 履修歴は下記のとおりであり、看護学科・医療栄養学科のほとんどの入学者は、 「生物基礎」「化学基礎」を履修しております。(高等学校学習指導要領の改訂 による過去 2 年分のデータ) また、平成 27、 28 年度看護学科・医療栄養学科 入学生の休学者及び退学者については、看護学科は0名、医療栄養学科は平成 27年度入学生で休学及び退学者が各1名(平成28年5月1日現在)でしたが、 退学理由は「生物」「化学」の履修とは別問題でありました。

> なお、近年の全体的な休学及び退学理由を見てみますと、自分の本当に進み たい道か疑問を感じ進路変更する者や当初描いていた医療系のイメージと 現場実習をきっかけに適性や興味・関心について悩み、休学から退学につな がる者、病気療養(メンタル等)、また経済的な面による休学も、少なからず 見受けられます。

【平成28年度入学生 看護学科】

	化学基礎	化学	生物基礎	生物
履修済み	108 (93)	59 (52)	112 (97)	90 (75)
履修なし	7 (12)	56 (53)	3 (8)	25 (30)
無回答/欠席	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)

※()は平成27年度入学生の人数。

【平成28年度入学生 医療栄養学科】

	化学基礎	化学	生物基礎	生物
履修済み	97 (96)	64 (57)	98 (96)	68 (64)
履修なし	5 (9)	38 (48)	4 (9)	34 (40)
無回答/欠席	15 (3)	15 (3)	15 (3)	15 (4)

※()は平成27年度入学生の人数。

委員	4١	ì	$\boldsymbol{\sigma}$	一音	目笙
*	'n	n	v	ᆫᄝ	ㅠ. 🕶

ご意見等についての大学の回答・対応等

- 10. 専門職としてのアイデンティティを涵養し、魅力を知り、卒業時には意欲的に職業に取り組めるようなさまざまな取り組みに敬意を表します。(山本委員)
- 11. 医療のコラボレーション教育については、可能な限り努めておられる 様子が窺われますが、演習も単発では効果に限界があり、1 年次から

の継続的計画的なとりくみを期待します。(山本委員)

12. 国際化に関連し、日本語のできる学生を東南アジア諸国から受け入れ とありますが、英語によるコミュニケーションを推進するために、 ある程度英語ができる東南アジア出身の学生を積極的に引き受けて、 それを大学の特徴とすることも良いと思います。(山本委員)

卒業生が社会に出て自らの資質を向上させ、社会的に職業的に自立できるよう、1年次からキャリア教育に関する授業科目を、医療保健学部では3年次まで、東が丘・立川看護学部では4年次まで配置し、医療専門職としてのキャリアの成長を目指す取組をさらに充実・強化してまいります。

各医療専門職の役割の理解と、コラボレーションの重要性に鑑みて、1年次のキャリア教育 I において、医療専門職のキャリア形成の初期段階として医療保健学部 3 学科合同の授業を実施し学修しております。2 年次以降は専門領域の学修を積み重ねその成果をもとに、4 年次の協働実践演習において、専門職者の立場からのコラボレーションの学修をしております。

グローバル社会において、英語によるコミュニケーションカ育成は重要で、本学の英語の授業では、習熟度別クラス編成を導入し、レベル別に基本的に英語で授業を行っています。留学生の受け入れに関しては、現在は中国人留学生1名を受け入れているのみですが、本学としては、受け入れ国の看護師育成を支援することを念頭に、ある程度日本語の語学力を有する学生を留学生として受け入れているところです。

近年、東南アジア諸国(インドネシア、韓国の大学など)から、見学、交流、研修の申し込みが増えてきています。また、ハワイの大学からも学生派遣の打診などもきています。今後、このような海外の学生との交流を活発にしていくことを検討しています。たとえば、他国からの学生を迎えての異文化交流会や学生懇談会、また他国からの学生を研究生や短期研修生として受け入れる可能性など、検討していく予定です。

ご指摘の点に関しては、今後海外とのこうした交流を推進し、そのプロセスに おいて、コミュニケーション力も促進されていくものと考えられます。

医療保健学部看護学科

委員からのご意見等

1.37 頁 7)「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」について

「講義録画システム」による学生への教育支援については画期的である 収録し後日と思いますが、「視聴回数が各講義で 5~10 回」であることから、 本学学生の という意見の中で必要な部分のみを視聴している様子」が分かったとしても 「学生が積極的に活用している」とは言えないのではないでしょうか。 本年度は、システムは稼働して未だ1年程度とのことで、学生への周知徹底等で 利用を促していくことを想定されていると思いますが、特に感じたの は前期試験の 10 日前に学生へ配信しても、1人の学生が限られた期間 の中で閲覧可能な動画には限界があると思われます。配信の手間に おります。 ついても十分解決したうえで、講義終了後できるだけ早く配信できる 環境が望まれると考えます。(今村委員)

2. 「看護の統合と実践」を1年次から開講し、個別の学生の関心に応じて 主体的な学修を進めている点は良いと思いました。科目ごとに効果の 評価をされ改善に努められている点も良いと思いました。(山本委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

本学で採用した「講義録画システム」を提供している業者によると、講義を収録し後日配信するというスタイルでは、他大学での利用状況と比較すると、本学学生の視聴状況は視聴履歴が多く活用が浸透しているのではないか、という意見を頂きました。それを基に、導入初年度にしては積極的に活用できていたという評価に至りました。

本年度は、講義録画機器を学内 LAN に接続可能にし、講義収録後速やかに アップロードして配信可能にできる環境を整え、出来るだけ収録した日に配信 するようにしております。また、学生が自己学修を行える時間の確保をはかる 工夫とともに、録画システムの新たな活用方法も検討していきたいと考えて おります。

ご評価いただき有り難うございます。「看護の統合と実践」は平成27年度からの新カリキュラムにおいて、複数領域が協働して展開する科目に含めるものとし発展的に解消いたしました。具体的には、看護学概論において実施する見学演習の前後学修、キャリア教育 II・II、および母性・小児実習、急性期・慢性期実習、老年・在宅実習における前・中・後の個別面接等といたしました。これまでの取り組みを活かし、将来の実践能力につながる教育を行っていくよう実施・計画を策定しております。

- 3. 単なる復習テストではなく、授業時間内に学生に学んだ知識を活用させる問題の提供や、教科書を活用した知識の強化、振り返りシートの作成などで、授業効果を上げる工夫をされ、効果を上げている点は大いに賞賛されることだと思います。これらが学生自身の自己評価とも一致するような効率的な授業となることを期待しています。(山口委員)
- 4. 模擬患者での実習時間が増えて実習がより効果的になっているのはよいことだと思いますが、「学生にとっては難しい手技である血圧測定については、全員が模擬患者に実施できることになったため、課題は解決できている」とありますが、学生同士で十分な血圧測定の実習を済ませた上での話なのでしょうか。色々な状況で簡単に血圧が変動することを知ること、また血圧を測られる側の体験をすること、これらは共に血圧測定の手技と同様に重要なものであり、むしろ学生同士での実習で充分に経験できることだと思いますので。(山口委員)
- 5. 超高齢者社会を迎え、在宅医療、訪問看護の重要性が更に増すと思われる今日、臨床看護援助論で講義や臨地実習に多くの時間が割かれているのは先進的でよいと思いますし、エンドオブライフケア授業で、緩和ケアの看護師のみならず、訪問看護師の参加を得たのはよかったと思います。介護老人保健施設や訪問看護ステーションの実習へも多くの時間が割かれているようですが、在宅医療での緩和ケアや訪問看護の現場を見る機会があるのでしょうか。また、在宅では理学療法士や薬剤師の関与も増えていますが、これら他職種との協働についての情報提供や実習はあるのでしょうか。(山口委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

ご評価いただき有り難うございます。授業の難易度が上がると、学生の自己 評価および授業評価が下がることがあります。学生が学修への動機を継続 させることができるよう e ポートフォリオの導入も含め、適切なフィード バックを行うとともに、上位学年での実習においてそれまでの学びが結実 されることで、学生が看護学学修の目標を実感し、達成感を得ることができるよう工夫していきたいと考えております。

血圧測定の技術修得については、まず学生同士で十分に練習し、一通りの 手技ができるようにしているとともに、「患者役」としてのピア評価ができる よう授業運営を行っております。今回、解決できたと評価いたしましたのは、 臨地実習で実際の患者を前にした学生が、強い緊張によって学内ではできた こともできなくなってしまうという点で学生にとって難しい技術である血圧 測定について、実習前に少しでも緊張感のある演習を企画し、経験値を高め ることができたということです。加えて、模擬患者さんは高齢の方が多く 基準値も学生達とは違うこと、中には不整脈等がある方もおられ「正常では ない状況」の体験ができることも、実習前のよいトレーニングとして位置 付けております。

在宅医療での緩和ケアについては、訪問看護ステーション実習において対象 事例がある場合はできるだけ同行訪問をさせていただくよう依頼・調整を 行っており、その機会を得た学生の経験をグループカンファレンスで共有し 学修の強化を図っております。訪問看護ステーションや在宅介護支援セン ター、特別養護老人ホームでの実習においては、理学療法士や作業療法士、 薬剤師、栄養士、介護職、生活相談員、ケアマネジャーとの連携協働につい て、実習目標にも挙げ、意図的に学修の機会をつくり、実習での学びを強化 しております。

- 6. 医療情報学科では電子カルテソフトの授業が導入されていますが、看護学科での電子カルテや PDA に関する授業はどのように行われているのでしょうか。最近の若い人達にはスマートフォンは身近なものなので、教えることも少ないかもしれませんが。電子カルテ、PDA の実習などではどのような工夫がされているのでしょうか。(山口先生)
 - (注)PDA…Personal Digital Assistant。携帯情報端末。

7. 医療情報学科の学生が BLS のトレーニングで医療現場の臨床体験ができ たのはよかったと思います。

看護学科では全員が卒業までに BLS 講習を受講するのでしょうか。 (山口先生)

(注)BLS…Basic Life Support(一次救命処置)。呼吸が止まり、心臓も動いていないと見られる人の救命へのチャンスを維持するため、特殊な器具や医薬品を用いずに行う救命処置であり、胸骨圧迫と人工呼吸からなる心肺蘇生法(CPR)、そして AED の使用を主な内容とする。

ご意見等についての大学の回答・対応等

看護学科では、全学科共通の情報関連科目において学修するほか、看護情報学・看護情報学演習において電子カルテや PDA について授業をしてまいりました。また、PDA についてはクラウド型の学修教材も取り入れております。 実習では実習病院がほぼすべてが電子カルテであり、実習現場において簡単なオリエンテーションを受けながら、閲覧をしております。

ご指摘のとおり、学生のリテラシーは高いため、授業では電子カルテ等の具体 的な活用方法よりは、メリットとリスクを含めたデメリット、今後の発展可能 性について、主として取り上げております。

看護学科では、必須ではありませんが、医療保健学部合同の講習会をほぼ全員が受講しております。入学前に高校等で体験している学生もあり、医学的な根拠等を含め再学修の機会ともなっているようです。この他、3~4年次の急性期看護学実習の一貫として、AHA ガイドラインに準拠したハートセイバーCPR-AED スキルを用いた個別技術習得試験を全員に実施しております。また、ACLS(二次救命処置)についても演習を行い、知識学修と合わせて人体シミュレーターを使ったロールプレイを実施しております。

授業の他に自主的な活動として、ファーストエイドや BLS を基盤とし、今「看護学生」として実施できる応急処置について学び、急変時に行動できる 看護師を目指すサークルがあり演習の補助役割を担うとともに、メディカル ラリーでは上位入賞の実績があります。

医療保健学部医療情報学科

委員からのご意見等

1.22 頁 「医療情報学科における各種試験の合格者数」の表について 医療情報学科における各種試験の合格者数において、医療情報技師の 取得が平成 26 年度に大幅に低下している理由は受験希望者が少な かったことによる影響でしょうか?

医療情報技師は情報学だけでなく医学的な基礎知識を必要とする資格ですので、学生による資格取得は容易ではないことはお察しいたしますが、昨年に比べて大幅な減少となれば対策が必要かと思われます。また、 受験者数を合わせて記載されることもご検討ください。(今村委員)

2.3 年次に実施している病院実習が 2 週間というのは、「医療情報学科」の学修としては少ないように思いますが、実習に出ると授業に遅れるとのことですが、企業や病院での実習は選択項目ということでしょうか。情報科学が活用されている医療現場や企業を見ることは、彼らの将来を考えても全員に必須の学修項目のように思いますが、どうなのでしょうか。(山口先生)

ご意見等についての大学の回答・対応等

平成 25 年度まで東京医療保健大学を試験会場としていましたが、学会の都合により平成 26 年度から本学が試験会場ではなくなり、東京会場が 1 か所に集約されたため本学学生からすると利便性が悪く、本学の受験生自体が減少したと思われます。

合格証のコピーと引き換えに図書券を贈呈することで合格者の把握に努めておりますが、必ずしも100%把握できていない可能性があります。受験者数も可能な限り把握に努めているところですが、資格試験の受験には制限がないことから、学生が個別に受験申し込みができるため全数の把握は難しい状況です。

企業実習、病院実習および医療産業研究の 3 科目から 1 科目以上を選択する 選択必修科目となっております。実習は長期で行いたいところですが、通常の 座学期間中に実施しており、例えば 4 週間に渡り座学授業を欠席となると、 座学の授業が成立しません。このため 2 週以内の実習と期間の制限を設けて いる状況です。一つのやり方として夏季休暇中というのも考えられますが、 企業および病院の職員も交代で夏季休暇を取得するため、実習生の指導ができ ないということで、夏季休暇以外での実習をということで多くの企業、病院 からお願いされている状況であり、ご意見については今後の課題と考えており ます。

(例えば、1~3年次生にかけての病院実習は考えられないだろうか?)

大学院医療保健学研究科

委員からのご意見等

1. 診療看護師・特定看護師養成に向けての取り組みについては理解しましたが、今後、CNS などの現場で実際に活躍している看護師の養成について計画はありますでしょうか?現場では、専門看護師の活躍が目立ち、またその領域でリーダーシップを発揮される重要な役割を担っていることから貴学の「温かい心を持ち、現場に根付いた医療人の育成」につながるものと考えます。(今村委員)

(注) CNS…専門看護師(Certified Nurse Specialist)。

2.60 頁 human nutrition(人間栄養)の教えは修士課程を学ぶ学生に とって重要なので、栄養学を学んでこなかった院生が十分理解できる よう教育してください。(脊山委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

現在、本研究科には CNS コースはなく、またコース増設の計画は現時点では検討しておりません。ご意見のとおり、専門看護師は卓越した看護実践能力を有する者と規定されており、当該領域における高い看護実践スキルとリーダーシップを発揮する者です。このため専門看護師教育課程では特定領域に関する38単位以上の履修(看護学に関する8単位以上の共通科目と、10単位以上の実習を含む)を条件としており、大学院での学修と仕事を両立することは困難で、休職または退職を要します。また、修士論文の作成は必須ではありません。本研究科では、仕事を継続し、その中で見出した課題に対し、より広い医療保健学の視点から科学的に取り組み研究として表すことで、現場に貢献する力を育成することを目指しております。このような点が他大学院と区別される特徴と考えております。

医療栄養学領域においては、全領域共通の必修科目として「総合人間栄養学特論」を開講しております。受講対象者の多くは栄養学を専門としない、臨床現場で看護や感染対策の専門家として働いている院生であることから human nutrition (人間栄養)に焦点をあて、栄養学の基礎から、対象者のアセスメント、摂食嚥下における栄養療法や臨床栄養領域の研究手法とそのアウトカムなどについて、具体的な研究結果を交えて臨床栄養領域の研究の意義について教授するとともに、科学的根拠に立ち返ることの重要性を強調して教育を行っております。

具体的に「総合人間栄養学特論」では栄養学を専門としていない修士課程学生のために、なぜ人間栄養学が重要なのかを伝えることに重きを置いて、

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	人間栄養学における様々なアウトカム評価研究(英文論文)を解説し、医療に
	おける位置づけについて理解を促すとともに、自身の興味のある分野におけ
	る人間栄養学とアウトカム評価の英文論文を選び、まとめるというレポートも
	課しております。
 3.65 頁 5) で学会発表と学会誌への投稿を指導しているとのことです	 院生に研究を発表するように奨めてきましたが、実際には院生の 2 年間では
が、発表と投稿の実績は如何ですか。(脊山委員)	学修と研究の企画と実施、修士取得で精一杯で、学会発表・誌上発表まででき
	る院生は下記のように少ない状況です。大事なのは、これまではフォローが
	十分になされていなかった大学院卒業後に、学会発表・誌上報告などの活動を
	通じて成果をさらに充実していくように指導すること、卒業生と連絡を密に
	することを心がけていきたいと思います。
	【昨年度の学会発表】
	増田 彩子
	第 53 回日本外科代謝栄養学会学術集会(ポスター)
	2015 年 7 月 2 日~3 日 会場 品川区民会館 きゅりあん
	「胃癌・大腸癌の周術期におけるビタミン・微量元素の変動」
	第 45 回胃外科・術後障害研究会
	2015年11月6日~7日 会場 ヒルトン名古屋
	「胃癌・大腸癌の周術期におけるビタミン・微量元素の変動」
4. 学生の学修を助ける看護マネジメント研究会や、ほぼ全員の学生の学会	 ご評価いただき有り難うございます。研究の原著論文化につきましては、今年
発表、原著論文への取り組みなどを評価したいと思います。(山本委員)	度より学部紀要委員会にお願いし、研究科修了生からの投稿も認められること
	となりました。研究が現場に貢献するものとなるよう、今後も取り組んでまい
	りたいと思います。

医療保健学部医療栄養学科

委員からのご意見等

ご意見等についての大学の回答・対応等

1.26 頁の「第 10 回食育推進全国大会」に参加することは大変有意義な 経験となりますが、参加者の増加が望まれます。1 日だけでも全員参加 を目指してください。(脊山委員)

「食育推進全国大会」には、2012 年の第 6 回神奈川県大会以来、第 7 回広島県、第 8 回長野県、第 9 回東京都墨田区の大会、および、毎年秋に実施される「東京都食育フェア(表参道)」に、本学学生達とともに、栄養を通したがん予防情報の普及活動として、継続的に毎年参加しており、学生達の公衆栄養学分野の学修に役立っております。また NPO 法人キャンサーネットジャパン(CNJ)と協働して、一般の方々の癌と栄養の啓発活動とともに、レモネードスタンド募金活動を通して AYA 世代(思春期・若年成人)のがん患者を支援する社会活動に参加しており、この本学の活動について CNJ から感謝状をいただいております。

さらに、これらの活動参加を通して得た学びを「公衆栄養学実習」や「食育論」 の学修として認め、学生たちが積極的に参加できるよう促しており、本年度は できるだけ多くの学生達が食育活動に参加しやすいように、食育推進全国大会 ではブースの広さを2倍に広げました。また福島県での実施であるため、参加 者の交通費などのサポートを視野にいれながら、より多くの学生達が実践的に 人々と触れ合う機会を設けられるよう、学生の参加数の増加を目指していき たいと考えております。ただし全員参加については以下のとおりであります。 講義・実習と連携を図りながら大会の展示やイベント等の積極的な活動を行う ことは、学生にとって食と栄養の重要性と各科目の関連性、伝えることの大切 さ等が理解しやすいと考えます。しかし、食育推進全国大会の開催地は、関東 圏内だけでなく地方など全国を対象としているため、遠方での開催の場合は、 学科全員の参加は難しく、まず食育推進全国大会には、継続した参加と参加 人数の維持と増加を目指し、都内および近郊開催時には全員参加ができるよう に基盤を整えていきたいと考えております。また、食育推進全国大会に限らず、 地域や都内で開催される公衆栄養活動等へ積極的に参加できるよう計画を 策定したいと考えております。

2.42 頁の「栄養サポートチームの中核として活躍できる人材の育成」は これからの医療の世界で最も重要な課題になるので、「中核」という 意味を十分理解させていただきたい。10 数名のチームを動かすので、 栄養学の専門的な知識だけでなく広い視野と組織力が求められること を教えていただきたい。(脊山委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

栄養士がこれからチーム医療の中核として活躍することが期待されていることを入学時の学科長講話や合宿でのオリエンテーション、そこで行われる「キャリア教育 I 」でも具体的に学科長からの特別講話、臨床経験豊富な教授の講話、担当教員によるグループワークを通して、入学直後から教え、学べるように配慮しています。入学後もいろいろな授業で、たとえば臨床栄養学、応用栄養学、公衆栄養学やその実習授業だけでなく病院実習やそれに関連する総合演習 I においても「臨床栄養士」「NST に代表されるチームにおける栄養士」「医療連携・地域における栄養士」については十分に意識させるようにしています。また、給食経営管理論において、「経営管理」はもちろん、広い意味での「マネジメント」や「組織論」「人事労務管理」「メンバーシップ」などについても取り上げますし、インターネットオンリーではなく、本を読む、新聞を読むなどを薦めています。さらに、栄養教育論や「キャリア教育 II・III」といった科目もチーム医療に大きく影響を与える授業です。

特に 2 年次生、3 年次生で開講される「キャリア教育ⅡならびにⅢ」では、病院をはじめとし、それぞれの分野で活躍する卒業生等を招聘し、病院や食品会社、保育園、などで管理栄養士が実際にどのように働いているのか。 先輩方からモデリング学習として学べるように配慮しています。在校生にとって、卒業生は一番身近なモデルであり、極めて熱心に講話を聴き、積極的に質問や意見交換が行われています。

3.45 頁の「レポート課題として学ぶべき内容を明記し」という指導は 全科目で必要であり、また問題意識の整理に役立つ試みだと思う。 (脊山委員)

ご意見に従い、問題意識の整理に役立てるために、「解剖生理学実験Ⅱ」のみならず、できる限り全科目で「レポート課題として学ぶべき内容を明記する」ことを医療栄養学科内において徹底していきたいと考えております。

4. 医療栄養学科を卒業した人で病院へ就職する人が少ないのは残念なことです。実習で、管理栄養士が病棟患者や糖尿患者に食事指導する場面や、特別食で医師にサジェスチョンする場面など、医療現場での管理栄養士の活躍を見ていないのではないかと思いますがどうでしょうか。病院地下の栄養部での給食作りの現場だけでは、病院が魅力的な職場に思えないと思いますので、管理栄養士の病棟配置や NST での活躍を通じて、多職種と積極的に協働している現場を見せてほしいと思います。(山口委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

臨床現場での管理栄養士の活動を学生に教育することについてですが、実際に病院などの臨床現場で積極的に活動している管理栄養士を、多くの授業で学外からお招きしています。そして栄養士の役割が、病気の治療だけでなく予防・健康の維持においていかに重要か、そして実際の医療の現場で管理栄養士がどのように活動しているかについて講義してもらっています。

いずれの講義でも学生は熱心に聴講しており、また学生から質問を多くもらっています。さらに臨地実習や病院見学を通じても、管理栄養士の活動を学んでいるので、そのような機会は他大学に比べて多いと思います。さらに管理栄養士が活動報告する学会にも参加するように学生によびかけています。病院栄養士の活躍の場面は事あるごとに見せており、おそらく他大学よりもその面ではよい環境に学生を導いていると思いますが、もっと充実していきたいと考えています。

病院へ就職する学生が少ないのは、求人が少ないだけでなく、上級生になるにつれ、それまでの授業などで、いろいろなことを幅広く学んでいく中で、病院だけが管理栄養士の就職先ではないことや、管理栄養士の活躍の場が介護老人保健施設や保育関係の施設を含む広範囲にあることを知り、また、実際に就職先を決めるに当たっては、本人の適性や両親の希望、労働環境等を考慮し、食品メーカーや給食会社を選択する事例がみられます。

なお、学生支援センターや臨地実習先の病院などから、既卒者(免許取得者) の求人もあるので、学科教員から紹介するなどの取り組みを、今後とも強化 していく必要があると認められます。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
委員からのご意見等 5. 医療栄養学科では電子カルテの実習や BSL トレーニングなどはないのでしょうか。(山口委員)	ご意見等についての大学の回答・対応等 医療栄養学科では電子カルテに特化した講義はありません。1 年次生の病院見学で電子カルテの診療を見学したり、また 4 年次生の臨地実習 II での病院実習による体験学修で、実際の病院の電子カルテを管理栄養士の指導の下、取り扱うことで、電子カルテの実際を学修しております。 BSL (Bed Side Learning 臨床実習)のトレーニングについては、我が国の管理栄養士養成施設で、実際の病院 BSL トレーニングができる環境にあるところはわずかであり、当科では、3 年次生の「OSCE 演習」の SP (模擬患者)で BSL もどきを体験して 4 年次生の臨地実習の準備をしております。そして4 年次生の「臨地実習 II」の3週間の期間中に、病院によっては BSL を体験できますが、ほんの僅かの経験にしかすぎません。多くの栄養系の大学でも行われておりません。制度上も「管理栄養士=100%臨床栄養士」ではないので、栄養教育では本来の BSL を実施するのは極めて難しいと考えておりますが、電子カルテの教育や BSL トレーニングを増やすことの必要性については今後検討していきたいと思います。

東が丘・立川看護学部

委員からのご意見等

ご意見等についての大学の回答・対応等

- 1. 単なる復習テストではなく、授業時間内に学生に学んだ知識を活用 させる問題の提供や、教科書を活用した知識の強化、振り返りシートの 作成などで、授業効果を上げる工夫をされ、効果を上げている点は大い に賞賛されることだと思います。これらが学生自身の自己評価とも一致 するような効率的な授業となることを期待しています。(山口委員)
 - 東が丘・立川看護学部におきましては、シラバスに各科目の事前学修と事後 学修内容について具体的に記載し、学生の学修成果が上がるように取り組んで おります。

- 2. 模擬患者での実習時間が増えて実習がより効果的になっているのはよいことだと思いますが、「学生にとっては難しい手技である血圧測定については、全員が模擬患者に実施できることになったため、課題は解決できている」とありますが、学生同士で十分な血圧測定の実習を済ませた上での話なのでしょうか。色々な状況で簡単に血圧が変動することを知ること、また血圧を測られる側の体験をすること、これらは共に血圧測定の手技と同様に重要なものであり、むしろ学生同士での実習で充分に経験できることだと思いますので。(山口委員)
- 東が丘・立川看護学部におきましては、基礎看護学領域でバイタルサインの 測定技術等は担当しておりますが、学内演習では模擬患者さんをお願いして おりません。学内演習で学生間で測定者の役割を交代しながら血圧の測定技術 を修得するようにしております。臨地実習では、自律して血圧測定を含めた バイタル測定が出来るように指導しております。

3. 超高齢者社会を迎え、在宅医療、訪問看護の重要性が更に増すと思われる今日、臨床看護援助論で講義や臨地実習に多くの時間が割かれているのは先進的でよいと思いますし、エンドオブライフケア授業で、緩和ケアの看護師のみならず、訪問看護師の参加を得たのはよかったと思います。介護老人保健施設や訪問看護ステーションの実習へも多くの時間が割かれているようですが、在宅医療での緩和ケアや訪問看護の現場を見る機会があるのでしょうか。また、在宅では理学療法士や薬剤

東が丘・立川看護学部におきましては、「臨床看護援助論」の科目は設定しておりません。東が丘・立川看護学部におきましては、「臨床実践看護学」の中の「老年看護学実習 I 」において地域で暮らす高齢者への看護として、2 年次後期セメスターで介護老人保健施設や訪問看護ステーションでの実習を行います。また、4 年次前期には在宅看護学実習が2週間あり、多くの施設において様々なケースに出会い、学びを深めており、学内でその学びを共有する機会を持っております。この実習の中で訪問看護の体験をする機会が多くあり、

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
師の関与も増えていますが、これら他職種との協働についての情報提供 や実習はあるのでしょうか。(山口委員)	希に他職種との協働場面も見学できます。
4. 医療情報学科では電子カルテソフトの授業が導入されていますが、看護学科での電子カルテや PDA に関する授業はどのように行われているのでしょうか。最近の若い人達にはスマートフォンは身近なものなので、教えることも少ないかもしれませんが。電子カルテ、PDA の実習などではどのような工夫がされているのでしょうか。(山口委員)	東が丘・立川看護学部看護学科におきましては、電子カルテ、PDA については 実習施設でオリエンテーション時に説明を受け、電子カルテを参照して患者 さんの情報を得たりしております。医療安全の観点から看護管理学の講義に おいて PDA の知識や必要性等は学んでおります。
5. 医療情報学科の学生が BLS のトレーニングで医療現場の臨床体験ができたのはよかったと思います。 看護学科では全員が卒業までに BLS 講習を受講するのでしょうか。 (山口先生) (注) BLS…Basic Life Support(一次救命処置)。呼吸が止まり、心臓も動いていないと見られる人の救命へのチャンスを維持するため、特殊な器具や医薬品を用いずに行う救命処置であり、胸骨圧迫と人工呼吸からなる心肺蘇生法(CPR)、そして AED の使用を主な内容とする。	東が丘・立川看護学部看護学科におきましても、同様に全員が BLS のトレーニングは理論と実践を実施しております。
6.NP 論や政策論を課している点は貴学の特徴を生かしており良いと思いました。(山本委員)	「NP論」(選択科目)と「看護政策論」(選択科目)は学生の視野が広がり、 学部でこのような科目を設定できる大学は他にあまり見られないことから、 履修希望者が多く、多面的な視点からの学びが出来ていると自負しており

示していると思います。

ます。行政機関の関係者から直接的な話の機会に恵まれることも関心の高さを

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
7. 今後は、災害看護コースの評価をしっかりと行っていかれる必要がある	ご提案いただき有り難うございます。災害看護学コースの学生は、本年から
と思います。(山本委員)	一部(3 年次生)立川キャンパスに移動し、9 月防災の日に行われる国としての
	災害訓練にも参加可能となることなど、少しずつ意識は高まって来つつあり、
	これから始まる科目の中で災害看護学の特徴を出すことにしております。教育
	内容の評価とともにコース全体のカリキュラム評価につきましても、学生、
	教員、社会等のニーズに基づいた評価が重要と考えております。

大学院看護学研究科

委員からのご意見等

1.7 頁 15 行目 特定行為の研修について、「看護学研究科においては 国立病院機構東京医療センター・災害医療センター等を主たる実習施設 としており」とのことですが、具体的にどのような実習を行っており ますでしょうか?貴学で受け入れられている高度看護実践コース 20 名 すべてが、特定行為 38 行為のすべてを会得するのはなかなか大変な ことだと思います。特に A-LINE や CV の挿入など、実習で全員が経験 するための症例を短時間で集めるのは大変だと思いますが、現状は いかがでしょうか。(今村委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

学科目が全て終了し、筆記試験・OSCEに合格した者は、2 学年次に統合実習として、17 単位(17 週)の実習を行っています。実習内容は、A;診察・包括的健康アセスメントスキルを修得する実習 4 単位、B; 救命救急及び集中治療を必要とする患者の包括的健康アセスメントに対応した治療方法(医療処置を含む)を修得する実習 6 単位、C; 周術期における患者の包括的健康アセスメントを行い、それに対応した治療方法を修得する実習 7 単位です。各施設の関係病棟をローテーションし、高度な思考力判断力と臨床実践力を修得することを目的とした実習で、指導医から直接指導を受けて実習を続けております。特定行為修得のための実習ではありませんが、「特定行為に係る看護師の研修制度」指定研修機関として認定を頂いておりますので、38 特定行為の経験ができるよう指導医の先生と連携を取りながら努力しております。時間的制約で実践できない場合は、学内での実習でカバーしております。学生には経験録を記入させ、経験回数を記録するようにしております。

2.7頁5行目

「平成 26 年度までに修了した 80 名に対して、第 2 回委員会(28.2.9 実施)では平成 27 年度に修了する 18 名に対して特定行為研修の名に対して特定行為研修の免除認定を行い、修了証を交付いたしました。」とありますが、これはすでに卒業した高度看護実践コースの学生に対しても特定行為に関する研修を行い修了されていると理解してよいでしょうか?特定行為研修には実習があって、上記の A-LINE や CV の挿入などの症例を実習で経験することが必須として課されていると

本コースにおいては、開設当初から特定行為を含めた学科目と学内演習、病院 実習を計画実施してきております。また本大学院は、厚生労働省の特定行為に 係る「養成調査試行事業」の認可施設となり、さらに本学修了生は「業務試行 事業」の認可施設で、1回生から特定行為に係る学修は行えております。 修了生に対する教育内容は平成27年10月施行の基準にそっていることを厚生 労働省に届けており、さらに「研修管理委員会」において、修了生毎に審査し 厚労省の免除認定をして頂いております。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
理解しているので、追加の実習が必須になると思っているためです。 単純に免除になるようなら、すでに過去の実習で特定行為すべての症例 が経験されていたということでしょうか?でもそれは、その根拠になる 法律が希薄だったと思います。このあたりの考え方や根拠になる法令を 教えて下さい。(今村委員)	
3. 全学生がラボラトリ・メソッドの学修をしている点は評価したい。 (山本委員)	ご評価いただき有り難うございます。看護学の基盤となる医学的基礎知識は、 演習を通して修得することとしております。臨床現場で患者さんの多様な ニーズに対応できるためにも基礎的・科学的思考力を身につけることが重要で あると考え、教育環境を整備し、人的環境も整えて教育を実施しております。
4. 修士以上は専門領域ごとの学修の割合が高くなるため、教員が自分の専門領域・主とする研究課題を明確化し、大学の特徴としてアピールする戦略をとってはどうか。それには教員の研究力の研鑽・向上も求められるだろう。(山本委員)	本学では開設(大学院は24年度)以来「年報」を発行し、各教員の①研究業績、②教育業績、③社会的貢献について自己評価・点検し、その結果を公表してきました。修士・博士の「看護学」の担当教員に関しては、教員の具体的研究テーマをアピールする方策を検討して参ります。本学教員が他大学と比較して専門性が特に高い領域(例えば災害看護学、放射線看護学)については、公開講座などを活用してアピールしていきたいと考えております。

大学全体

1. 和歌山看護学部の進捗状況を教えてください。特に和歌山県や和歌山市とどのように連携をとる予定か、また実習の受入先についても分かる範囲で説明いただきたい。(今村委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

和歌山看護学部(入学定員 90 名)については、6 月 30 日に文部科学省から「大学の収容定員の増加に係る学則変更」について認可が得られ、これを受けて平成30年4月の学生受入れに向けて、募集活動を開始しております。

本学部の設置に伴う和歌山県及び和歌山市との連携関係に関しては、本学の和歌山誘致に本格的に動き出した1昨年の初め頃から、県知事及び市長が幾度となく本学を訪れて熱心な誘いを受けました。本学としても大学の使命の一つである「地域への貢献」の機会と捉え、和歌山県に新たな看護学部を開設する方針を固めました。しかし、その際に①入学定員を確保できること、②県内で最も信頼性の高い病院と連携すること、③県及び市から最大限の支援が得られること、を基軸として交渉を行いました。この結果、連携協力により看護師育成に取り組むパートナーとして日本赤十字社和歌山医療センターの紹介を受け、折しも同センター附属の和歌山赤十字看護専門学校を4年制大学化したいという意向と合致したこともあり、今回の看護学部の設置に至りました。実習受入施設については、日本赤十字社和歌山医療センターを中心に、県の協力を得ながら、和歌山市内や県内の精神科病院、回復期リハビリテーション病棟・病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、地域包括支援セン

2. 多くの学部を抱えている貴学ですが、学科連携の一環として大学共通 科目のようなものは設定されているのでしょうか。医学概論や看護学 概論で学習の基礎となる部分については全学共通の学習機会があった 方が良いように思います。(今村委員)

全学科共通科目として、「いのち・人間の教育分野」及び「医療のコラボレーション分野」に科目を配置しています。

ター、保育所などと連携していくこととしています。

「いのち・人間の教育分野」では、豊かな人間性として「生命」を大切に感じられる感性を育てるために外国語(英会話、中国語等)、情報科学、社会学、

**************************************	**
委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	医療と人間、ジェンダー論等を共通科目として開講しています。
	「医療のコラボレーション分野」においては、医療の専門職として共通の理解
	を持つために体の仕組みと働き、公衆衛生学、栄養学総論、医療安全管理学、
	医学・医療概論、臨床薬理学、医療マネジメント論、協働実践演習等の科目
	を配置しております。なお、看護学に関して全学共通の科目は開講しておりま
	せんが、医療情報学科においては、「専門職の教育分野」の専門科目の必修と
	して「看護概論」を開講しております。医療栄養学科においては、管理栄養士
	養成施設校であるため、指定規則による科目の制限があることから開講は難し
	い状況になっております。
3. 平成 28 年度の看護師の国家試験について状況を教えてください。	平成 28 年度の国家試験対策については、1 年次生の 4 月入学式当日から国試
(今村委員)	ガイダンスに始まり、2年次生の専門基礎科目実力確認テスト、3年次生から
	は看護師国家試験模擬試験、看護師国家試験対策講義等によりきめ細やかな
	試験対策をしております。
	なお、平成 28 年度の看護師国家試験受験結果は、医療保健学部看護学科では
	96 名が受験し 95 名の合格(合格率 99%)、東が丘・立川看護学部看護学科では
	 93 名が受験し 91 名の合格(合格率 97.8%)となっております。
│ │4.財務について、現金の決算が載っているように見えます。財務諸表	 (1)平成27年度に学校法人会計基準の改正があり、従前の消費収支計算書(PL)
(PL や BS) の決算や予算はどうなっているのでしょうか。	が廃止され、新たに「事業活動収支計算書」を作成することとなりました。
また、退職積立金や文科省が財務上求める流動資産の確保はできている	これは、当該年度のキャッシュフローを示すものとなっております。消費
のでしょうか。(今村委員)	収支計算書を除く、その他の財務諸表の①決算説明書、②資金収支計算書、
	③貸借対照表、④財産目録、⑤監事監査報告書、⑥独立監査人の監査報告
	書等については、従来どおり作成しホームページに公開しております。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
3,7,0 0 to 1,00 to 1,0	(2)退職給与引当金については、期末要支給額を基準にして、退職金財団に
	対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入調整額を加減した金額の
	100%を計上しており、文科省が求める学校法人会計基準に沿っています。
	(3)流動資産については、文科省が求める具体的水準はありませんが、流動
	資産の総資産に占める構成割合で資産構成のバランスを全体的に見る指標
	として使用しています。一般的にこの比率が高い場合、現金化が可能な
	資産の割合が大きく、資金流動性に富んでいると判断できます。
	本学の比率は、平成 28 年度決算で 11%。平均値 16%(3 千人規模私大=
	平成 27 年度私学事業団調査)より低い水準にあり流動資産向上が課題と
	なっています。
「 上光の焼入れぬ日ナヤミフェイト 」 れてのは、光上物児イナリナナ	
5. 大学の健全な発展を考える上でキーとなるのは、学生確保であります。	(1) 平成 21 年 3 月の一期卒業生から 9 年目で約 2600 人が本学から社会に
18 才人口が減少する中、本学がその特徴を生かして安定した学生数を	巣立っております。病院をはじめとした医療施設や企業等への就職実績や、
確保するには、卒業生の進路とその後をきちんとフォローアップする	社会で活躍している OB の評価が本学の学生確保にとって極めて重要で
システムの構築は極めて重要と思われます。また、OB 会を組織し、	あると認識し、就職活動等進路選択に係る支援や、卒業後のフォロー
年に 1 回は home coming day を催す等、地道な努力が卒業生の子弟が	アップは、各学科教員と学生支援センター等の職員が連携し実施しており
次の学生になる、という良循環を生む契機となるのではないでしょう	ます。今後もその支援体制やシステムの拡充を図ることといたします。
か。(垣添委員)	(2)在学生に対しては卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を
	図り、幅広い職業意識の形成を図ることを目的としたキャリア教育や進路
	選択、就職活動の支援を実施しておりますが、今後も就職環境等の変化に
	対応しながら内容等について見直しを実施してまいります。卒業生に
	対しては卒業後 1 年後にアンケートを実施し結果を学内で共有、在校生の
	教育や支援等に活用しております。合わせて本学ホームページに卒業生
	│ │ サイトを設定し、この中で「卒業生相談窓口」を案内し、就職先や仕事で
	の悩みに関して卒業生からの申し出による相談を実施しております。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	(3) 平成 26 年度より、医療保健学部看護学科で在校生に対する病院説明会と合わせ「卒業生交流会」を年 1 回実施し、卒業生と教員や卒業生同志の交流、情報交換の場となっておりますが、本年度から開催時期を見直し「home coming day」として 8 月に実施いたします。また全学的には「同窓会」を組織しております。活動が活性化していない現状がありますが大学から同窓会役員への働きかけを継続的に実施し、好循環を生む契機としたいと考えております。 (4) 東が丘・立川看護学部においても、卒業生と在学生の就職先の病院選びや国家試験対策等を話題にしながら交流する「卒業生懇談会」を年 1 回実施し在校生は進路決定の情報源として活用しております。同様な機会を多く設定することで卒業生が改めて本学を再認識し、卒業生からも本学や後輩により多くのアプローチをしてくれる風土の醸成も必要と考えております。
6. 「東京医療保健大学を語る会」はとても意義があると思います。 その際、「外から見た大学、内から考える大学」といったテーマで卒業 生、病院関係者、教官、学生等多彩なメンバーで時間をかけて討論 することは重要と考えます。(垣添委員)	「東京医療保健大学を語る会」は、平成20年度からFD活動の一環として実施しており、今年で10回目となります。 年に一度全学科の教職員が一堂に会し、各学科での教育の質向上のための教育内容・方法等の取組を知り、情報共有等を行える貴重な機会となっています。 平成29年度は、第2期の中期目標・計画のスタートでもあり理事長と学長の 講話を予定しております。今後はさらに内容の充実を図るためにも、ご指摘の点を踏まえて様々な開催方法を工夫してまいります。

委員からのご意見等

- 7. 高度化する医療保健活動に対応するため、実に多くの取組が実践、想定されています。
 - ①和歌山看護学部、千葉看護学部が平成 30 年度から開設予定である こと
 - ②国際交流センターや感染制御学研究センターの運営
 - ③グローバルに、また地域に根ざした活動を目指すこと 等いずれも極めて重要ですが、業務が過重にならないか不安です。 そうはいっても、現に地域ボランティア活動、障害のある学生の就労 支援、研究倫理の遵守、地元との交流等、多彩な活動を展開しておられる点には敬服します。(垣添委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

少子高齢社会の到来に伴い、医療系大学として教育の質の充実・向上に努めていくことや、社会の要請に応じて新たな教育研究組織等を設置し、医療専門職の人材育成に貢献していくことは、大学の使命であると考えております。 このため、第 2 期の中期目標・計画においてはご指摘のとおり様々な取組を推進していくこととしております。

今後、教員・職員が一体となり協働して、業務の負担軽減を工夫しながら、 本学の使命・役割を果たしてまいりたいと考えております。

〔医療保健学部全体〕

1.4年次の「協働実践演習」の内容はどのようなものでしょうか。 (山口委員)

「協働実践演習」では、医療保健学部(看護学科、医療栄養学科、医療情報学科)3 学科の学生が生活習慣病や健康障害を題材に問題解決や援助計画について意見交換し各専門職の役割を認識するとともに、当該科目を履修するまでに学んだ専門科目の内容を総合的かつ深く理解することをねらいとしております。

実際の授業運営は以下のように行っております。

- ・3 学科の学生の実習、就職活動に影響が少ない時期の 8 月第 4 週に 5 日間 集中で開講(4・3・3・3・2 コマ)する。
- ・五反田キャンパスの講義室をすべて利用して開講する。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	・各クラスは 3 学科混成となるように全学生(定員合計 280 名)を 5 クラスに
	分け、1 クラスは各学科教員 1 名以上の 4~5 名で担当する。
	・1 クラスを 1 グループ 11~12 名で 5 グループに分けてグループワークと
	する。
	・事前課題は共通とし、それをもとに各クラス・各グループで基礎学習に
	取り組む。
	・演習では、チームビルディングからグループワークの計画立案、事前課題の
	基礎学習、課題に対するグループワーク、クラス別発表会、まとめに取り
	組む。
	・まとめでは、グループ討議で専門職種間の関連を鳥瞰図にまとめる。
2. 看護・医療栄養・医療情報各学科の4年次生が合同で実施する「協働	「協働実践演習」(4年次・必修)は、平成26年度までは、4年次の4月に実施
実践演習」は授業時間数 30 で 15 回の授業が組まれております。	しておりましたが、平成 27 年度から就職活動の開始時期が 4 月になること、
必修ということで 3 学科の学生が混在した 25 グループに分かれて	及び 9 月から看護学科、医療栄養学科の 4 年次実習が開始されることから、
行われるようですが、キャンパスの異なる学生が実際に一斉に参加	夏季休暇中の8月開講とすることにしています。また、夏季休暇中であること
出来るのでしょうか。また配当セメスターは前期となっております	から「協働実践演習」のためだけに教室が使用でき、3 学科の学生が五反田
が、シラバスでは夏季休暇中に準備するように書かれており、後期に	キャンパスに一同に会した授業が可能となっています。
授業があると思われます。実態を教えてください。(脊山委員)	授業は、3 学科学生が混在した 25 グループを設定していますが、5 グループ
	ずつ5クラスに分かれ、各クラスには5~6名の教員(各学科から必ず1名以上
	担当)が入りグループワークで活発な議論がなされるよう指導を行って
	おります。
	授業は前期セメスターの 8 月に実施していますが、授業終了後提出された
	レポートの指導は9月から10月にかけて実施しており、最終的な成績判定は
	11 月末頃の後期セメスターに実施しております。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
3. 学部横断型の授業(「協働実践演習」等)を評価したい。(山本委員)	学部横断型の授業としては、「キャリア教育 I (1 年次・必修)」及び「協働
	実践演習(4年次・必修)」を設置しております。
	(1)「キャリア教育 I 」においては、各医療専門職の役割の理解、コラボレー
	ションの重要性から、医療専門職のキャリア形成の初期段階として 3 学科
	横断の授業を実施し学修しております。2 年次以降は専門領域の学修を
	積み重ね、その成果をもとに 4 年次の協働実践演習において、専門職の
	立場からのコラボレーションの学修をしているところです。
	(2)「協働実践演習」においては、各学科の学生が混在するグループをつくり、
	与えられたテーマについて、問題解決や援助計画について意見交換し、
	各専門職の役割を認識するとともに、今まで学んだ各専門科目の内容を
	総合的且つ深く理解することに努めております。
4. 退学者が多いことが気になります。特に医療保健学部においては、 平成 27 年度に除籍者が 5 人おり多いと思います。その背景を教えて ください。(今村委員)	近年の全体的な休学や退学理由を見てみると、当初描いていた医療系のイメージと実習をきっかけに適性や興味・関心について考え、学生が自分の本当に進みたい道か疑問を感じての進路再考・進路変更や病気療養(メンタル等)のために休学から退学につながるケースがほとんどです。 (退学者数 平成 26 年度: 27 名、平成 27 年度: 23 名、平成 28 年度: 20 名)なお、平成 27 年度における医療保健学部の除籍については、学費を滞納し督促を受けても納入しないための除籍が 4 名、1 名は死亡による除籍です。特にこの年は 5 名と突出しておりますが、平成 25 年度は 2 名、平成 26 年度は 2 名、平成 28 年度は 0 名でいずれも学費未納による除籍となっております。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
〔助産学専攻科〕	
助産学専攻科の取組について、国家試験合格率 100%を評価したい。	国家試験対策としては、医学を含めた助産診断を求められるものが多いため、
(山本委員)	医学部門の教授陣を充実させて医学的な診断、症状や状態の判断ができること
	等を目標にして行っています。また、助産学においては助産診断・技術学 I
	(助産学理論等)と助産診断・技術学Ⅱ(事例検討や技術等)の時差を減らし同時
	に思考できるように工夫しています。さらに、助産学実習の分娩実習における
	症例について 1 例毎に丁寧に振り返りを行うことで状況設定の判断や助産
	診断に役立てています。年度末には国家試験対策として特別講義等を行う等の
	工夫をしており、最近の合格率は100%でしたが、平成28年度(発表日29.3.25)
	は 1 名不合格者があり、今後の対策を検討・強化していきたいと考えており
	ます。

医療保健学部看護学科

	ご意見等についての大学の回答・対応等
	1000
1. 病気、病態への理解を高めるための基礎的講義は増えているのでしょう	(1)1年次開講の「体の仕組みと働き」の科目数には変化はないが、平成28年
か。(山口委員)	度より、1 年次後期開講「病態生理学」の講義 8 回分を「体の仕組みと
	働き」を担当する専任講師が担当しています。「体の仕組みと働き」の講義
	内容と関連させながら、正常な構造と機能の変化や破綻が障害や病態と
	なることを念頭に置きながら、両科目の内容を関連づけて講義しています。
	また、「体の仕組みと働き」を担当する専任講師は 2 年次後期開講「看護
	技術援助論Ⅳ」の科目担当者として参画し、学生に対して患者のアセス
	メントに必要な解剖生理学及び病態生理学的な知識を演習内でフォロー
	しアドバイスする体制をとっています。そして、3年次前期開講「キャリ
	ア教育Ⅲ にも参画し、グループ別に行う模擬患者のアセスメントや病態
	生理の理解のために必要な解剖生理学的な知識を補い、正しい解剖生理学
	及び病態生理学的な知識に基づいた的確なアセスメントを導くようにして
	います。
	(2)さらに本年度より、3 年次前期に選択科目として「解剖生理学演習」を
	開講しました。この科目は、骨格標本や人体模型の観察を通して、人体
	構造の特徴を正確に観察して特徴を捉えることと、バイタルサインや
	肺機能、心電図計測という生理学的な演習を通して人体の機能の変化や
	特徴を検証する科目です。
	本演習科目については、現在開講したばかりでありどのような成果が現れ
	るのかは不明ではありますが、1年次だけでなく、2年次や3年次にも関連
	する科目に「体の仕組みと働き」を担当する専任教員が科目担当者の一員
	となることで、学生にとって、折あるごとに解剖生理学や病態生理学と

エロルンの ご立口体	**************************************
委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	いう基礎的な科目内容に触れる機会を生み出すことができ、理解と定着を
	図るようにしています。
2. いずれの科目も、学生の学びを助けるためにさまざまな工夫をしている	各科目での工夫のほかに、新カリキュラムでは、学生の学びを助ける工夫と
ことが見てとれます。(山本委員)	│ │して、カリキュラム編成に特徴を持たせています。入学後の早い段階から、
	│ 学生の看護に対する関心を刺激して4年間の学修を助けること、これにより、
	 本学科の目指す「実践力」の高い看護職の育成を目指すものであります。例え
	│ │ば、看護技術 I ~IVでは、学内で学んだ看護技術を、早期に看護の現場で体験
	 してふりかえり、患者個々に合わせた看護技術の提供の方法と、必要性につい
	て実感を伴う学びとしていきます。また、単純なものから複雑なものへと学生
	が段階的に学習を深められるように、学習内容を配置しております。
	が、技術がに、自己があったののできた。
 3. 地域社会への視点等、今後の看護学の発展に向けた教育上の配慮が	 (1) 母性・助産学領域では、平成 28 年度から、品川区の産後ケア事業を受託・
出来ていると思います。(山本委員)	運営し、評価を含めた企画案を提案・実施することにより、品川区から
四本でいることがあり。(四个女員)	連携の利点を評価いただいています。母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱでは、助産
	学領域だけでなく母性看護学領域でも、産後ケア事業での内容を授業にて
	紹介しております。地域の生活の場で、切れ目のない支援を目指し、大学
	としての地域貢献、具体的な母子支援について探求しております。
	(2)地域看護学領域では、平成 28 年度から品川区の健康づくり事業に関わり
	始め、平成 29 年度から健康づくり事業評価の委託を受けることとなりま
	した。
	教育における連携も強めてきており、2 年次前期の必修科目「地域保健
	活動演習」では品川区の介護予防事業をフィールドとしております。
	品川区の高齢者地域支援課長に講義いただき、地域の中で個や家族を支え
	るだけでなく、住民同士の支え合いを支援する看護についても学ぶ科目と

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	しております。3 年次生の選択科目「公衆衛生看護援助論Ⅱ」では、健康
	づくり活動を行っている住民グループに来ていただき、住民グループの
	活動をテーマとした地域診断・活動評価を学生が行い発表することで、
	双方の学びにつながる授業展開を行っております。

医療保健学部医療栄養学科 委員からのご意見等 ご意見等についての大学の回答・対応等 1. 管理栄養士は地域包括ケアシステムでは医療と介護の橋渡し役として 本学科では医療現場に強い管理栄養士の育成を目指しており、そのため、カリ 重要な役割を果たすことになると考えています。今後、介護分野の教育 キュラムとしては、これまでは医療が中心となってきたことは否めません。 を拡充すべきと考えます。(今村委員) 最近の地域包括ケアシステムの考えの展開で、医療のみならず介護についても 現場に関わる諸知識を習得した管理栄養士を養成しなければと考えており ます。 そこで昨年度からの新カリキュラムでは、介護分野を含め地域医療に貢献でき る管理栄養士の養成を視野にいれ「地域栄養学実習」という新科目を取り入れ ました。また、「臨床栄養学分野」においては、介護分野で多く見られる疾病 (摂食嚥下障害や認知症)についても取り上げて、治療だけではなく、食支援と いう視点からのアプローチを学ぶようにしております。さらに、「臨床栄養学 実習I」においては、実際に世田谷区内で在宅訪問管理栄養士として活動され ている管理栄養士を招聘し、講義していただいています。 地域包括ケアシステムの中で、医療と介護の分野をつなげる重要な役割を管理 栄養士が担いうると我々も考えておりますので、希望する学生には、卒業研究 や課外活動、学会発表等を通して、現場での実習や見学等ができるように機会 を設けています。 HACCP については、「食品衛生学」「食安全学」「給食経営管理論」にて学習 2. 衛生管理が見直されつつあります。食品衛生法はすべての調理施設に HACCP の導入を考えています。HACCP の学習を強化する必要があると しており、また「給食経営管理論実習」の実習授業では、具体的に大量調理 思います。(今村委員) 施設衛生管理マニュアルに沿った作業等を行っています。学外授業である (注)HACCP…Hazard Analysis and Critical Control Pointの略。 「臨地実習」も HACCP を理解する場となっています。

「食品衛生学」では食品衛生法と関連法規・基準の解説を行っています。

食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生する恐れの

委員	<i>Τ</i> \	ĥ	ത	一音	目等
女只	w.	~	v,	し心	ᇨᇴ

ある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析し、その結果に 基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じ ればより安全な製品を得ることができるかという重要管理 点を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全 を確保する衛生管理の手法。

3. 医療保健学部医療栄養学科の臨地実習実施施設が年々減少しており、 参加学生数も病院以外の施設では減少しています。また、病院以外の 施設に出向いた学生数が平成 28 年度は 84 名で、残りの 30 名ほどは 参加していないようですが、病院以外に少なくとも 1 か所は出向く ように指導していただきたいと思います。(脊山委員)

ション能力の開発は素晴らしい取組ですが、各学年 100 名居る中で | どのくらいの学生がコミュニケーション能力を身に付けたのでしょう か。(脊山委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

「食品等事業者が実施すべき管理運営基準」に HACCP 導入型基準が新たに平成 26年に加わった旨や HACCP が食品衛生の普及啓発に必要な概念であることは、 各関連科目でも学習しています。

臨地実習施設は減少しておりません。平成 28 年度は、病院が 28 施設、それ 以外(特養、老健、事業所、学校、保健所等)が22施設でした。

また必修授業ですので全員が参加しています。「臨地実習」は 4 単位の必修で あり、全員が3年次から4年次にかけて、病院で3単位、それ以外で1単位の 実習を行っています。臨床栄養学実習、給食の運営や給食経営管理論の実習 以外に、公衆栄養学実習(保健所実習)があり、平成28年度の残り30名ほどは 保健所実習を行っています。

4. 教員と学生とのコミュニケーション及び学生同士のコミュニケー|学生がコミュニケーション能力をどのくらい身に付けたかについては、数字的 なもので判断するのは非常に難しいと思います。しかし、以下のように、さま ざまな活動を通じて、学生のコミュニケーション能力向上に努めています。

- ①学生がコミュニケーション能力を身に付けたかどうかについては臨地実習 後や卒業後でなければ判断できないかと思いますが、栄養教育論実習Ⅱでの 模擬患者を用いた演習は、その後の OSCE 演習に繋げ、OSCE 演習はその後の 臨地実習Ⅱへと繋げております。演習の繰り返しによりコミュニケーション 能力は構築されるものですので、多くの科目と連携した取組を今後も続けて いきたいと思います。
- ②「生物Ⅱ」「医療栄養学概論」等の科目においては、授業の際に講義だけで はなく学生に意見・質問を求めており、学生とのコミュニケーションをでき

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
XX. 300 C.E.J. (1	るだけ行うようにしております。学生は教員との会話・ディスカッションを
	通してコミュニケーション能力を育成することができます。
	③平成 28 年度第 9 回東京都食育フェア(11 月 12 日(土)、13 日(日)於:代々木
	公中成20 年度第9 固束京都長月フェア(ロ 万 12 口(エ)、10 口(ロ)が、10 ペイー 公園)で、がん予防情報提供及び AYA 世代がん患者支援のレモネードスタン
	ド募金活動を実施した。学部 1 年次生: 92 名 4 年次生: 2 名が参加し、
	来訪者 559 名にレモネードを配付し、アンケートを 483 名に依頼、公衆栄養
	学活動では、AYA 世代がん患者支援 レモネードスタンドを食育推進全国
	大会(福島県郡山、6月11日~12日)で学生4年次生2名、2年次生2名が
	参加、がん予防情報認知度アンケート 797 枚、レモネード 961 杯を配付した。
	このように、地域集団を対象とした食育や公衆栄養学の取組の実践的参加を
	通し学生達は、管理栄養士の視点からの社会貢献の重要性を学び、また実務
	的なコミュニュケーション能力を能動的に養うことができました。
	④「医療栄養学概論 I 」では、学生への投げかけや質問の場を根気よく継続
	することにより、発言や質問する学生が増えました。
	⑤4 年秋季の卒業研究発表会では、学生自身が企画・運営を行い、司会者や
	質問者も自分たちで分担して割り当てて、発表後の討論を進めています。
	以上のような活動を通じて学生のコミュニケーション能力の向上を目指して
	います。約半数の学生は4年間で積極的に活動、発言、質問、討論するように
	なってきたと思います。

委員	4١	ĩ.	$\boldsymbol{\omega}$	~ 춈	日生
* =	ינו	n	u	こ思	ᆔ

5. 世田谷地域の園児・学童・高齢者グループ等に対するボランティアとしての食育活動は良い取組だと思います。参加者は7名ですが、今後多くの学生が携われる機会を増やしてください。(脊山委員)

6. 管理栄養士の国家試験合格率が全国平均より低い原因は何か考えられるのでしょうか。また、どの領域の成績が悪かったのか把握されているのでしょうか。(山口委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

本年度(平成 29 年度)のボランティア活動としては、例年と同様に、食育推進全国大会に学生と教員がともに参加し、がん予防情報普及活動と小児がん・若年成人がんの研究支援の募金活動を NPO 法人キャンサーネットジャパン (CNJ)とともにレモネードスタンドを実施して行う予定です。

さらに本年度は、8 月に CNJ が行うジャパンキャンサーフォーラム 2017 に 学生ボランティアとして医療栄養学科 17 名が参加予定です。今後、より多く の学生がこのようなボランティア活動に携われる機会を増やしていけるよう 支援していこうと考えております。

平成 27 年度の第 30 回管理栄養士国家試験の全国新卒合格率は 85. 1%に対し、本学は 74.5%と全国平均よりも下回りました。この原因として考えられる点は、一部出題傾向の変化に伴い、学生がそれらの問題に対応できなかったのではないかと考えております。また、我々もこれまでの国家試験対策で高い合格率を維持してきたという慢心があり、これまでと同様の国家試験対策で臨んだため、近年本学入学生の学力低下に国家試験対策が対応しきれていなかったのではないかとも考えました。深く反省して、模試・補講の強化、

「総合演習 II」での授業改善、国試対策室充実、専門業者による特別補講等を 行いその結果、平成 28 年度は合格者数 88 名(合格率 93.6%)と改善し、合格 率も全国平均(92.4%)を上回りました。

平成 29 年度から国家試験の時期が 3 月初めと早くなります。当学科では、 国試対策を早く始めて、特別補講をさらに充実させ、また模試の改善を諮り、 そしてこれまで以上に個人面談を強化して学生の受験勉強を支援していき ます。また今後はさらに様々なタイプの学生が入学してくることが予想される ため、今回の教訓を踏まえ早々に各学年の学力レベルを分析し、それに 見合った国家試験対策の準備をしていこうと考えています。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
7. 医療専門職としての管理栄養士を目指すことは医療栄養学科の大きな目標と思われるが、医療のコラボレーション等の科目が自由選択科目	またご質問にある成績の悪い領域についてですが、基本的に厚生労働省から 発表されるのは合否だけなので正確なデータとしては把握できておりません。 ただし受験後に任意で学生から送ってもらう解答結果を分析したところ 不合格者は、どこかの領域が悪いというよりはどの領域でも点数が取れていない傾向でした。 医療に関わる管理栄養士を目指す学科のため、他の職種との協働を視野に 入れ、栄養学だけでなく、幅広く医療について学ぶ機会を設けております。
となっていることはどうしてであろうか。他大学の栄養学科との差別化 を図れる分野の授業が必須科目であっても良いと思われます。 (山口委員)	その点で、医療のコラボレーション教育はご指摘の通り本学の強みと思っておりますので、医療のコラボレーション教育に該当する科目は 1 年次前期の「ボランティア活動」を除き、すべて必修科目としております。なお、「ボランティア活動」は、平成 28 年度は 16 名の学生が選択科目で履修しております。
8. 栄養学ではなくて、医療の現状に関する必須授業はどのくらいあるのでしょうか。(山口委員)	「医療安全管理学」や医療システムに関する「医療マネジメント論」、統計と制度に関する「公衆衛生学」、医療施設や医療職に関する「医学・医療概論」があります。その他選択科目ではありますが、「医療と人間」、医療保健等制度に関する「国際関係論」、医療システムに関する「情報通信と保健医療」もあります。
9. 栄養学科とはいえ調理経験・食への関心が薄い学生に対し、学習意欲を高める多くの工夫がなされていると思います。(山本委員)	食文化の授業では、実際に市場に行き、多くの食材に触れさせ、学生達が「食への関心」を持つ機会をつくるよう心がけています。また、臨地実習を通して、様々なライフステージの方達を対象とした栄養教室や調理講習会等に実践的に参加することを通して、栄養の専門家として食について幅広い知識が必要であることを実感できるような教育を心がけています。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	調理経験・食への関心が薄い学生に対し、学習意欲を高めることが難しく、
	 毎年、工夫を重ねて現在に至っております。評価をしていただけたようで、
	教師としてやりがいを感じます。
	また、映像資料は、食物アレルギーの該当食品がある場合やノロウィルス等に
	感染した場合等やむを得ない事情で実習に参加できなかった学生の学習に
	使用しております。今後、このようなケースが増える可能性を考慮し、さらに
	平成 28 年度から新カリキュラムになりましたので、映像資料等は修正し、
	充実を図るように頑張ります。
 10.0SCE 導入は栄養学科の教育として大変めずらしいのではないかと思い	 管理栄養士養成校でOSCEを取り入れている大学は、本学の他、知る限りでは、
ます。(山本委員)	一一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 岡山県立大学、天使大学、中村学園大学、の極一部の大学です。いずれも病院
	等の臨地実習前に実施されており、医療面接、食事調査、身体計測等の実施
	実技試験と合わせて、筆記試験を行っている大学もあります。本学においては、
	それらの取組を参考に、平成 25 年に演習という形でトライアルを実施し、
	その後継続しつつ、平成 27 年度から「総合演習 I の中に含めるようにしま
	した。「総合演習 I」は、臨地実習を充実したものにするための事前・事後
	学習の科目です。病院実習の事前学習として、これまでに学んできた科目の
	知識を統合し、実際の栄養食事指導の場で応用できる力を養うことをねらいと
	し美心しておりより。味趣は多く、また修正をしなからより良い演画になる よう改善をはかっている段階ですが、本学の強みとなる演習と考えており
	より以音をはかりといる段階とすが、本子の強みとなる演首と考えてあり ます。
	ひ り。

医療保健学部医療情報学科

1. 情報機器の発達が著しいです。特にデータベースが進んでいます。 データベースエンジニアとして活躍できるようになるために、SQL や NoSQL (Hadoon 等) の学習は行われているでしょうか?会後は並列処理が

委員からのご意見等

NoSQL (Hadoop 等) の学習は行われているでしょうか? 今後は並列処理ができるマシンの知識が重要だと思います。(今村委員)

(注)SQL…関係データベース管理システムにおいて、データの操作や 定義を行うためのデータベース言語(問い合わせ言語)、 ドメイン固有言語。

NoSQL…関係データベース管理システム以外のデータベース管理 システムを指すおおまかな分類語。

2. 医療情報学科における企業実習、病院実習は正に医療情報の現場を知る ために何れも不可欠な教育過程と考えられるが、全員必須の授業と なっていないのは何故でしょうか。(山口委員)

ご意見等についての大学の回答・対応等

データベースの基礎的な考え方とリレーショナルデータベース RDB(関係データベース)については「データベース論」(2016 年度からの新カリキュラムでは「データベース演習 I 」)、SQL は「データベース演習」(2016 年度からの新カリキュラムでは「データベース演習 II 」)において学習しております。新カリキュラムにおいて演習科目として、講義主体から演習主体として授業展開をしております。

並列処理についての知識も、今後は重要になると認識しておりますが、病院 業務関連の情報システムにおいてはまだ普及しておらず、本学の学生の能力の レベルを考えますと、まずは基礎的概念を十分に理解させることが先決である と考えてカリキュラムを構成しております。ただ、情報技術の進歩に対応した 取組も重要と考えており、今後の検討課題としております。

2016 年度の新カリキュラムからは、「インターンシップ」と科目名称を変更して必修化を図りました。インターンシップの中で企業及び病院のどちらの実習も可能としております。現状は企業での実習が多くなっております。

また、従来からの「病院実習」も新カリキュラムでは選択科目として継続して おります。こちらは診療情報管理士の受験資格を得るための科目として、診療 情報管理部門の実習に特化したものです。

委員	4٠	ĩ-	$\boldsymbol{\omega}$	~ 춈	日生
安日	JJ١	n	w	こ思	兄.辛

ご意見等についての大学の回答・対応等

3. 病院実習、企業実習を受けた学生は授業を欠席扱いとなり、補講が必要な仕組みになっているようですが、実習の位置づけがどうして低いのでしょうか。(山口委員)

ご指摘のように、実習は医療の現場を知るためには不可欠な教育課程と考えており、重要な科目として位置づけております。実際、実習を契機に、進路を明確にする学生も少なくありません。しかし、実習先の確保は、こちらの都合どおりに行かないのも現状です。「インターンシップ」は3年次生の通年、「病院実習」は3年次前期科目としておりますが、実習先のご都合に合わせて、実習期間・時間を設定しております。そのため、通常授業時間内に行われることが少なくなく、授業を欠席せざるを得ない状況が発生しますが、実習期間の授業欠席は、欠席扱いにしないことにしております。また、授業内容を欠席学生が補完できる仕組みを担当教員に依頼しております(例えば、授業録画システムの活用等)。

4. 双方向性のクリッカーの使用は効果的な試みだと思いますが、学生側からどの程度のレスポンスが可能なのでしょうか。(山口委員)

クリッカーは、授業中に学生の理解度を把握できるという点では意義が大きいと考えておりますが、現状ではいくつか課題があります。クリッカーに対応した教材の作成には相当な時間を必要とすること、現在導入しているクリッカーは可搬型で、授業前に学生に配布し(配布する際にはクリッカーNo.と学生との対応関係を把握する必要があります)、授業後に回収する作業が必要であるため、授業時間が20~30分短くなること等から、クリッカーの活用をより多くの授業に展開できないでおります。

今後、座席固定のタイプで、学生証(THCU の学生証は RFID 組込み)の読み取り もできるクリッカーを導入した場合、現状の課題がどのようになるか検討して みる必要があると考えております。

なお、現在導入しているクリッカーは、1 度に 100 名の学生への対応が可能な システムですが、最大接続で用いた経験はまだありません。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
5. 授業録画システムは学習を助ける良い取組と思います。(山本委員)	授業録画システムは、主として 3 年次科目の「データベース演習」、「臨床薬理
	学」、「情報システム開発論」等を録画し学生に提供しております。科目ごとの
	アクセス状況の把握は可能ですが、学生個々にアクセスのための ID を付与
	していないため、学生個々のアクセス状況は把握できておりません。
	また課題もあります。現状のシステムは可搬型で教室に固定していないため、
	授業録画前にカメラ設置、機器の配線、調整等が必要で、これに 30 分~40 分
	程度の時間を要します。撤去のための時間も考えると授業以外の負荷が多大な
	ものとなり活用のネックになっています。さらに現在の機器は、導入から6年
	以上経過し、機器の保守が困難になっております。このため 2017 年度中には
	機材交換が必要になるので現在今後の活用方法及びそれに応じた機種の選定
	を検討中です。
6. シミュレーターの導入等、医療分野への学習の動機づけになって良い	現在は、主として 2 年次生科目の「生体情報演習 II」で活用しています。学生
と思います。(山本委員)	にとっては、いろいろな病態での生体情報の変化を体験できるということ自体
	が、インパクトのあるものになっていると思います。当学科では、医療シミュ
	レーション教育のスペシャリストという職業も学生の選択枝になるものと
	考えています。従って、この科目では、医療シミュレーション教育のスペシャ
	リストとして必要な知識、技術を習得することを目標にしております。今年度
	インストラクターアプリケーションのバージョンアップが行われ、より詳細な
	シナリオプログラミングが可能になりましたので、今後の教育に展開したいと
	考えております。

大学院医療保健学研究科

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
1. 滅菌供給管理学を設置したとのことですが、教育内容と学生の受入れ	滅菌供給管理学は平成 26 年度に開講し、医療施設等での滅菌供給業務有経験
状況について教えてください。(今村委員)	者を対象としています。教育内容は感染制御学コースのカリキュラムを基礎
	に、当該領域について専門的に学び直すプログラムとなっています。
	研究課題は「滅菌供給管理は病院における安全性、経済性を重点として、
	滅菌器の性能に関わる基礎的研究、滅菌保証(滅菌バリデーション)、滅菌
	包装、被滅菌物の素材への影響、滅菌媒体の生体毒性、器械のトレーサビリ
	ティー、物品管理の新しい手法と情報管理、使用器械の運搬、洗浄技術、洗浄
	剤の特性など」としていますが、本領域の修了生は現在までに 1 名です。
	ただし、上記の研究課題をテーマとした修士論文は平成 19 年開学以来 52 論文
	中 12 論文(感染制御学)あります。
2. 修士課程 8 領域を学ぶ学生の分布を教えてください。また、全コースに	平成 29 年 5 月現在の学生の分布は次のとおりとなっております。
共通する学習内容と各コース別の教育内容の違い、特に前者について	 看護マネジメント学 29、看護実践開発学 11、助産学 3、感染制御学 9、
教えてください。(山口委員)	 周手術医療安全学 1、滅菌供給管理学 0、医療栄養学 10、医療保健情報学 1
	合計 64 人
	 また、全コース共通する科目(必修科目)は 5 科目(医療保健管理学、総合人間
	栄養学特論、安全管理情報学、サーベイランス特論、医療経営特論) 開講
	しており、看護、感染、栄養、情報の各領域の基盤となる知識を網羅するもの
	となっております。尚、今年度より修士課程教育プログラムの全面見直しに
	着手しております。
	4,000,000

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
3. 病院が中心となったスタンスが強く伺われます。病院勤務の学生が多い	本学でも特に看護領域では「地域包括ケア」は一つのキーワードとなって
かもしれないですが、地域包括ケア時代の看護学研究者育成のための	おります。ご指摘は今後検討の参考にさせていただきます。
工夫が盛り込めると良いのではないでしょうか。(山本委員)	
4. 博士課程の教育実績としては、学生の論文掲載実績なども教えて	博士課程は昨年度までに感染制御領域で13名の修了生がおります。
ください。(山本委員)	論文掲載は国内で5論文あり今後の課題としております。看護領域での修了生
	はまだおりません。

東が丘・立川看護学部

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
1. 特定看護師の養成は順調でしょうか。就職先など卒業生の活躍状況を	研究科修士課程 NP コースですが、とても順調に推移しております。既に 6 期
教えてください。(今村委員)	生までが修了しており、修了者は 117 名になっております(定員 20 名)。
	全員就業しておりましたが、現在3名の者が結婚等で離職しております。
	・就業先は全国北海道4名から九州長崎県5名と各地に亘っています。因みに
	近県では東京都 28 名、神奈川県 12 名、埼玉県 7 名、千葉県 6 名であり、
	殆どが急性期病院です。
	他に人数の多い県は大阪府8名、愛知県7名、福岡県6名、静岡県4名、
	島根県4名、群馬県4名、茨城県3名となっています。
	・施設の設置主体別では、国立病院機構 76 名、地域医療振興機構 9 名、大学
	病院8名、日赤3名、済生会系2名、板中グループ2名等です。
	・活躍状況につきましては、各種学会等での評価や実践報告の発表や各施設
	からの修了生のオファーが多く見られます。日本 NP 学会では、本大学院
	修了者が成果を口述又はポスターで合わせて、第 1 回は 25 名、第 2 回は
	26 名が発表しております。第 3 回 NP 学会は本年 11 月 25 日(土)国際医療
	福祉大学成田キャンパスで開催予定です。NP 学会の電子ジャーナルにも
	研究論文が投稿されるようになりましたので、活躍の成果は見えてきており
	ます。
2. 災害看護学コースでは BLS の習得は必須となっているのでしょうか。	BLS(Basic Life Support 一次救命処置)は、臨床・災害コースともに授業の中
(山口委員)	で4年次に教授しております(必須科目:災害看護学 I)。具体的には、講義と
	演習で 一次救命処置・AED、病院内での救急処置、トリアージを含めて 90 分
	4 コマ 時間を当てております。学生全員、講義の後、実習室でそれぞれ実施

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
	し、知識の確認、技術の練習まで熱心に実施しています。インストラクターの
	資格を持っている教員が指導に当たっております。
3. 多職種と相補的な連携を図るための基礎的知識とは何でしょうか。 (山本委員)	(1)臨地実習施設においては、看護師はチーム医療の一員として、患者さんを中心に情報収集、活動計画の立案、実施、評価をしなくてはいけません。このプロセスの中で各職種との情報の共有や計画の共有、実施に当たっては必要な場合は役割分担等が患者に対してプラスに働く場合もあります。従いまして、「管理栄養士」「臨床検査技師」「薬剤師」との連携が重要となります。 (2)具体的には、栄養サポートチーム、医療安全・感染チーム、褥瘡チーム、緩和ケアチームなど多くの職種と相互にお互いの各業務内容や専門的用語等を理解し合い、各職種が専門性を発揮し、互いに理解・協力し合って協働していかなくてはより良いチーム医療は可能とならないと考えます。 (3)そのための臨床栄養学演習の科目としての基礎的知識としては、栄養素の種類と働き、栄養学の歴史、医療と栄養学、栄養状態の評価判定、ライフステージと栄養、臨床栄養として疾病別食事療法、健康づくりと食品・食事・食生活など。 臨床薬理学演習の科目としての基礎的知識とは、薬理学の歴史、医療と薬理学、薬理学の基礎知識、末梢・中枢神経系作用薬、オータコイド・アレルギー用薬、心臓血管系、血液・造血系、呼吸器系、消化器系、物質代謝、抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬、臨床治験のいろはなど。 (4) 臨床検査学演習の科目としての基礎的知識として、病院における検査の実際の見学を実施、組織学的検査、臨床生理学的検査、臨床生化学検査、放射線検査などを実施しております。

委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
4. 学部教育に NP 論など盛り込むのは貴学の特徴が出て良いのではない	│ │科目「NP 論」は選択科目として開講しております。クラスの約 70%の学生が
でしょうか。(山本委員)	選択し4年次1単位で計画しております。この科目はオムニバス方式で、
	本大学院 NP コースの修了生で臨床現場で活躍している NP を招聘し、実施
	している業務を中心にプレゼンして貰い、後半 30 分間は質疑応答で進める
	授業です。病棟配置、救急外来配置、麻酔科配置などバラエティに富んだ職場
	での活動の実際を紹介いただいております。米国の NP の実践家だった講師に
	も登場して貰っております。何故看護師になったか、何故 NP になりたいと
	考えたか等リアルな内容も紹介され、目指すものが明確になったとの反応も
	あります。自分の将来のことを考えながら聴講しているので、学生にとっては
	とても良い機会になっております。

<u>大学院看護学研究科</u>

	84-945
委員からのご意見等	ご意見等についての大学の回答・対応等
1. NP 学生のためのシミュレーショントレーニングは心強いと思います。	大学院実習室において、「統合演習」を実施するため、平成 27 年度に高機能
(山本委員)	シミュレーター(シムマン 3G)を整備し、平成 28 年度は学長裁量経費により、
	医師のシミュレーショントレーニングインストラクターと本大学院修了生の
	中で臨床経験が5年経過した NP5名で、従来は初期研修医用のシナリオを使用
	して実施していた演習を、NP 用のシナリオを 3 症例作成し実際にテストを
	繰り返しながら学生の本演習を実施して学生やインストラクターからの評価
	を得たところであります。
	平成 29 年度もシナリオ数を増やし、細かい部分をより改善して統合演習を
	充実させたいと考えております。
2. 看護科学コース学生にラボラトリー・メソッドを享受していることは	科目「ラボラトリー・メソッド特論」は大学院修士課程の NP コースと助産
心強いと思います。(山本委員)	コース、看護科学コースの3コース共通科目(選択科目)です。30時間2単位
	夜間の開講で、ラットの解剖、病理組織の作成・観察、染色体の観察、PCR 法
	による遺伝子定量、細菌グラム染色、放射線測定などを実施しております。
	3コース交流の機会でもあり人気が高く科目選択者は多数です。

東京医療保健大学大学経営会議規程

(設置及び構成)

- 第1条 大学経営に関する重要な事項を審議するため大学経営会議を置く。 この規程は東京医療保健大学学則第53条に規定する大学経営会議及び その運営に関し必要な事項を定めるものである。
 - 2 大学経営会議は、次の各号に挙げる委員をもって組織する。
 - (1) 理事長。
 - (2) 理事及び評議員の中から理事長が指名する者 10 名。
 - (3) 教授会構成員の中から及び学長・副学長を含め理事長が指名する者 10 名。

(審議事項)

- 第2条 大学経営会議は、次の各号に挙げる事項を審議する。
 - (1) 中長期計画の策定に関する事項。
 - (2) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項。
 - (3)大学予算案の作成及び決算処理の方針に関する事項。
 - (4) 教員人事に関する事項。
 - (5)学部・学科その他重要な施設・組織の設置改廃に関する事項。
 - (6) 学生の定員に関する事項。
 - (7) その他、全学に関する重要な事項及び理事会の諮問に関する事項。

(召集)

第3条 大学経営会議は、理事長が必要と認めたときに召集する。

(議事)

- 第4条 理事長は、大学経営会議議長となる。
 - 2 大学経営会議は、構成員の過半数が出席しなければ成立しない。
 - 3 大学経営会議の議事は、出席者の過半数を持って決し、可否同数の ときは、議長の決するところによる。
 - 4 監事は、大学経営会議において意見を述べることができる。

(大学経営会議室)

- 第5条 大学経営会議の事務局として、大学経営会議室を置く。
 - 2 大学経営会議室に法人事務全般並びに大学経営会議の事務を統括する 室長を置く。
 - 3 室長は理事長が指名する。
- 第6条 本規程の変更は、理事会の決定による。
- 附 則 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成25年5月29日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

学校法人青葉学園情報公開規程

(趣旨)

第1条 学校法人青葉学園(以下「学園」という。)が保有する情報の公開に関して必要な 事項については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第2条 この規程において、「文書」とは、学園の職員が職務上作成し、又は取得した文書、 図面及び電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識する ことができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。)であって、学園の職員が組 織的に用いるものとして、学園が保有しているものをいう。

(解釈及び運用の方針)

- 第3条 学園は、文書の開示に当たっては、学園の保有する情報が積極的に公開されるよう、この規程を解釈し、運用するものとする。
 - 2 学園は、この規程の解釈及び運用に当たっては、個人の秘密その他の通常他人に 知られたくない個人に関する情報がみだりに公にされることのないよう配慮を行う こととする。

(開示の申出の方法)

- 第4条 開示の申出を行う者(以下、「開示申出者」という。)は、次に掲げる事項を記載 して文書開示申出書(様式第1号。以下「開示申出書」という。)を学園に提出する こととする。
 - (1) 氏名又は名称及び住所又は事務所若しくは事業所の所在地並びに法人その他 の団体にあってはその代表者の氏名
 - (2) 開示申出に係る文書を特定するために必要な事項
 - (3) その他学園が別に定める事項
 - 2 学園は、開示申出書に形式上の不備があると認めたときは、開示申出者に対し、 相当の期間を定めて、その補正を求めることとする。この場合において、学園は、 開示申出者に対し、補正の参考となる情報を提供するように努めることとする。
 - 3 学園は、前項の補正が正当な理由なく行われないときは、開示申出者に対し、開 示申出に係る文書を開示しないことができる。

(開示申出に対する決定等)

- 第5条 学園は、開示申出書が提出されたときは、当該開示申出書が提出された日から起算して15日以内に、文書の全部若しくは一部を開示する旨の決定、文書を開示しない旨の決定、第9条の規定により開示申出を拒否する旨の決定又は開示申出に係る文書を保有していない旨の決定(以下「開示決定等」という。)をしなければならない。ただし、前条第3項の規定により補正を求めた場合にあっては、当該補正に要した日数は当該期間に算入しない。
 - 2 学園はやむを得ない理由があるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定す

る期間を30日以内に限り延長することができる。この場合において、学園は、速やかに、開示申出者に対して、延長する理由及び期間を決定期間延長通知書(様式第2号)により通知する。

- 3 学園は、開示決定等をしたときは、速やかに、開示申出者に対して、その旨を文書開示決定通知書(様式第3号)、文書部分開示決定通知書(様式第4号)、文書不開示決定通知書(様式第5号)、文書開示申出拒否決定通知書(様式第6号)又は文書不存在決定通知書(様式第7号)により通知する。
- 4 前項の規定より通知する場合において、文書の全部を開示する旨の決定以外の開示決定等をしたときは、当該開示決定等の理由及び当該開示決定等の理由がなくなる期日をあらかじめ明示することができる場合にあっては、当該期日を付記する。
- 5 学園は、開示申出に係る文書が著しく大量であるため、開示申出があった日から 起算して45日以内にそのすべてについて開示決定等をすることができないときは、 第1項及び第2項の規定にかかわらず、開示申出に係る文書のうちの相当の部分に つき当該期間内に開示決定等をし、残りの文書については相当の期間内に開示決定 等をすれば足りる。この場合において、学園は、第1項に規定する期間内に、開示 申出者に対し、次に掲げる事項を決定期間特例延長通知書(様式第8号)により通 知する。
 - (1) この項を適用する旨及びその理由
 - (2) 残りの文書について開示決定等をする期間

(開示の方法)

- 第6条 学園は、前条第1項の規定により、文書の全部または一部を開示する旨の決定(以下「開示決定」という。)をしたときは、速やかに、開示申出者に対し、当該文書の開示を実施する。
 - 2 文書の開示は、学園の指定する日時及び場所において、文書、図面又は写真については閲覧又は写しの交付により、スライドについては視聴又は写しの交付により、電磁的記録については視聴、閲覧、写しの交付等でその種別、情報化の進展状況を勘案して学園が別に定める方法により行う。
 - 3 学園は、文書の閲覧又は視聴の方法により開示することが、当該文書の保存に支 障を生ずるおそれがあると認めるとき、その他相当の理由があるときは、当該文書 の写しにより開示を行う。

(不開示情報)

- 第7条 次の各号を不開示情報とし、学園は、開示申出に係る文書に次の各号に掲げる情報のいずれかが含まれている場合を除き、当該文書を開示するものとする。
 - (1) 法令又は条例(以下「法令等」という。) の規定により公にすることができない情報
 - (2) 個人に関する情報(事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。第9条

第1号において同じ。)であって、特定の個人が識別され、若しくは識別され得るもの又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を侵害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

- ア 法令の規定によりまたは慣行として公開され、または公にすることが予定されている情報
- イ 人の生命、健康、生活または財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報
- (3) 法人その他の団体(国及び地方公共団体を除く。以下「法人等」という。)に関する情報または事業を営む個人の当該事業に関する情報であって、次に掲げるもの。ただし、人の生命、健康、生活または財産を保護するため、公にすることが必要であると認められた情報を除く。
- ア 公にすることにより、当該法人等または当該個人の権利、競争上の地位その 他正当な利益を害するおそれがあるもの
- イ 学園の要請を受けて、公にしないとの条件で任意に提出されたものであって、 法人等または個人における通例として公にしないこととされているもの、その 他の当該条件を付すことが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的で あると認められるもの
- (4)公にすることにより、人の生命、身体、財産、地位または生活の保護、犯罪 の予防または捜査その他の公共の安全と秩序の維持に支障を生ずるおそれがあ る情報
- (5) 学園が行う事務または事業に関する情報であって、公にすることにより、次に掲げるおそれ、その他当該事務または事業の性質上、当該事務または事業の 適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの
- ア 監査、検査、取締りまたは試験に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難 にするおそれまたは違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を 困難にするおそれ
- イ 契約、交渉または訴訟に係る事務に関し、学園の財産上の利益または当事者 としての地位を不当に害するおそれ
- ウ 調査研究に関する事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に侵害する おそれ
- エ 人事管理に係る事務に関し、その公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼす おそれ

(部分開示)

第8条 学園は、開示申出に係る文書に前条各号に掲げる不開示情報が含まれている場合 において、不開示情報に係る部分とそれ以外の部分を容易に分離でき、かつ、当該 開示申出の趣旨を損なわないと認めるときは、当該不開示情報に係る部分を除いて 当該文書を開示する。

2 開示申出に係る文書に前条第2号の情報(特定の個人を識別することができるものに限る)が含まれている場合において、当該情報のうち、特定の個人を識別することができることとなる記述等の部分を除くことにより、公にしても、個人の権利利益が侵害されるおそれがないと認められるときは、当該部分を除いた部分は、同号の情報に含まれないものとみなして、前項の規定を適用する。

(文書の存否に関する情報)

- 第9条 学園は、次の各号のいずれかに該当するときは、文書の存否を明らかにしないで、 開示申出を拒否することができる。
 - (1) 特定の個人の病歴に関する情報、その他個人に関する情報が含まれる文書の 開示申出があった場合で、当該文書が存在しているか否かを答えるだけで、当 該個人の権利利益が侵害されるおそれがあるとき。
 - (2)特定の法人等に関する情報または事業を営む個人の当該事業に関する情報が 含まれる文書の開示申出があった場合で、当該文書が存在しているか否かを答 えるだけで、当該法人等または当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利 益が侵害されるおそれがあるとき。
 - (3)人の生命、身体、財産、地位または生活の保護、犯罪の予防または捜査その他の情報が含まれる文書の開示申出があった場合で、当該文書が存在しているか否かを答えるだけで、公共の安全と秩序の維持に支障を生ずるおそれがある情報を開示することとなるとき。
 - (4)特定試験の出題内容に関する情報その他の監査、検査、取締りまたは試験に 係る事務に関する情報が含まれる文書の開示申出があった場合で、当該文書が 存在しているか否かを答えるだけで、当該事務の適正な遂行に支障を及ぼすお それがあるとき。
 - (5) 前各号に規定する場合のほか、文書の存否の事実により特定の情報の存在が明らかになる開示申出があった場合で、当該文書が存在しているか否かを答えるだけで、不開示情報を開示することとなるとき。

(第三者に対する意見書提出の機会の付与等)

- 第10条 学園は、開示申出に係る文書に開示申出者、国及び地方公共団体並びに学園以外の者(以下「第三者」という。)に関する情報が含まれているときは、学園は、開示決定等をするに当たって、当該第三者に対し、開示申出に係る文書の開示に係る意見照会書(様式第9号。以下「意見照会書」という。)により通知して、文書の開示に係る意見書(様式第10号。以下「意見書」という。)を提出する機会を与えることができる。
 - 2 学園は、第三者に関する情報が含まれている文書を開示しようとする場合であ

って、当該情報が第7条第2号イ又は同条第3号のただし書に規定する情報に該当すると認められるときは、開示決定に先立ち、当該第三者に対し、意見書を提出する機会を与えることとする。ただし、当該第三者の所在が判明しない場合は、この限りでない。

3 学園は、前項の規定により意見書の提出の機会を与えられた第三者が当該文書の開示に反対の意思を表示した意見書を提出した場合において、開示決定をするときは、開示決定の日と開示を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならない。この場合において、学園は、開示決定後直ちに、当該意見書を提出した第三者に対し、開示決定をした旨及びその理由並びに開示を実施する日を、文書の開示決定をした旨の通知書(様式第11号)により通知する。

(費用負担)

- 第11条 この規程により文書の写しの交付、図面又は写真の写しの交付その他の物品の 供与を受けるものは、当該供与に要する費用を負担することとする。
 - 2 前項の費用については、学園の理事長が別に定める。

(異議の申出等)

- 第12条 開示決定等に不服がある者は、開示決定等を知った日の翌日から起算して60 日以内に、学園に対して、書面により異議の申出をすることができる。
 - 2 学園は、異議の申出があったときは、遅滞なく、書面により回答するものとする。

(文書の管理)

第13条 学園は、この規程の適正かつ円滑な運用に資するため、文書を適正に管理しなければならない。

(財務情報開示)

第14条 財務情報開示については、別に定める学校法人青葉学園情報公開規程細則によるものとする。

(その他)

第15条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施のため必要な事項については、 学園が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年11月5日から施行する。

東京医療保健大学医療保健学部学科長会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東京医療保健大学学則第54条の規程に基づき、医療保健学部学科長会議(以下、学科長会議という)の組織、運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

- 第2条 学科長会議は、次に掲げる教学上の重要事項を審議し、大学経営会議 に提案する。
 - (1) 年度計画に関する事項のうち、教育研究に関するもの。
 - (2) 学則(教育研究に関する部分に限る)その他教育研究に係る重要な 規程の制定又は改廃に関する事項。
 - (3) 学生の円滑な就学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項。
 - (4) 学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項。
 - (5) 各学科間の教育研究に係る連絡及び調整。
 - (6) 学長選考委員の選出に関する事項。
 - (7) その他教育研究に関する重要事項。

(構成)

- 第3条 学科長会議は、学長、副学長、学部長、学科長、大学経営会議室長、 事務局長等をもって組織する。
 - 2 学科長会議に議長を置き、学長をもって充てる。学科長会議は、学長が招集する。学長に事故があるときは、学長があらかじめ指名したものがその職務を代行する。
 - 3 議長が必要と認めるときは、学科長会議の構成員以外のものを出席させ、意見を聴取することができる。
 - 4 大学院医療保健学研究科長は、必要に応じ学科長会議に出席すること ができる。

(事務)

第4条 学科長会議に関する事務は、企画部で行う。

(規程の改訂)

第5条 この規程の改訂は、大学経営会議にて決定する。

- 附 則 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

東京医療保健大学大学院研究科長会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東京医療保健大学大学院研究科長会議(以下、研究科長会議という)の組織、運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

- 第2条 研究科長会議は、次に掲げる教学上の重要事項を審議し、大学経営会 議に提案する。
 - (1) 年度計画に関する事項のうち、教育研究に関するもの。
 - (2) 学則(教育研究に関する部分に限る)その他教育研究に係る重要な 規程の制定又は改廃に関する事項。
 - (3) 学生の円滑な就学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項。
 - (4) 学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項。
 - (5) 各コースの教育研究に係る連絡及び調整。
 - (6) 研究科長選考委員の選出に関する事項。
 - (7) その他教育研究に関する重要事項。

(構成)

- 第3条 研究科長会議は、学長、研究科長、学科長、大学経営会議室長、事務 局長、事務長等をもって組織する。
 - 2 研究科長会議に議長を置き、研究科長をもって充てる。研究科長会議は、 研究科長が招集する。研究科長に事故があるときは、研究科長があらか じめ指名したものがその職務を代行する。
 - 3 議長が必要と認めるときは、研究科長会議の構成員以外のものを出席させ、意見を聴取することができる。
 - 4 副学長は、必要に応じ研究科長会議に出席することができる。

(事務)

第4条 研究科長会議に関する事務は、大学院事務室で行う。

(規程の改訂)

第5条 この規程の改訂は、大学経営会議にて決定する。

附則 この規程は、平成20年5月14日から施行する。

附則 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

東京医療保健大学医療保健学部教務委員会規程

(設 置)

第1条 東京医療保健大学医療保健学部における教務に関する事項を審議立案するため、 医療保健学部教務委員会(以下「委員会」という)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は、次の者をもって構成する。
 - (1) 学科長
 - (2) 大学経営会議で任命する専任教員
 - (3) 大学経営会議室長
 - (4) 事務局長
 - (5) 教務部長
 - (6) 学生支援センター長
 - 2 委員会には委員長をおく。委員長は大学経営会議にて任命する。
 - 3 前条第1号の委員の任期は2年とする。

(審議事項)

- 第3条 委員会は、次の事項について審議立案する。
 - (1) 教育課程の編成に関する事項
 - (2) 履修規程に関する事項
 - (3) 単位の認定・付与に関する事項
 - (4) その他教務に関する事項

(専門委員会の設置)

第4条 委員会に、必要に応じて専門委員会を設置することが出来る。

(事務)

第5条 委員会に関する事務は、教務部で行う。

附 則 この規程は、平成17年8月1日より施行する。

附 則 この規程は、平成22年12月8日より施行する。

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部看護学科カリキュラム検討委員会規程

(設置)

第1条 東が丘・立川看護学部の教育の質的向上に向けて、カリキュラムの充実 及び教育環境の整備などについて検討するため、東が丘・立川看護学部 看護学科カリキュラム検討委員会(以下「委員会」という)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は次の者をもって構成する。
 - (1) 大学経営会議において任命する教員。
 - (2) 東が丘・立川看護学部等事務部長。
 - (3) 学部長は必要に応じて出席することができる。
 - (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外のメンバーを出席させ、意見等 を聴取することができる。

(審議事項)

- 第3条 委員会は次の事項を審議する。
 - (1) カリキュラムの編成(シラバスの作成を含む)に関すること。
 - (2) 成績・進級等学生の到達度評価に関すること。
 - (3)教育環境の整備(教材・教具を含む)に関すること。
 - (4) その他。

(委員長等)

- 第4条 委員会には委員長及び副委員長を置く。
 - 2 委員長及び副委員長は、大学経営会議において任命する。

(議事)

第5条 委員長は、委員会を召集し、議長となる。

(開催日)

第6条 委員会は、原則として月1回開催する。

附則

本規程は平成22年12月8日から施行する。

附則

- 1. 本規程は平成26年4月1日から施行する。
- 2. 東が丘看護学部は、学部名の変更に伴い東が丘・立川看護学部となった。

30.3.7 大学経営会議

		T	30.3.7 入子程呂云磯
	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
趣旨・概要	東京医療保健大学は、医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成いたしますが、入学者には次のような資質が求められます。 1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとすること。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。 本学では、以上のような資質を有する学生を選抜するために、一般入試の他に、AO方式による入試、推薦入試、大学入試センター試験利用入試などの実施により多様な入学者選抜を行います。	正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療保健の分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探究し、解決することができる人材を育成することを理念・目的として定めており、本学の建学の精神、理念・目的及び学位授与方針に基づき、	業科目を履修し、所定の単位を修得し「知識·理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」及び「総合的な学習経験と創造的思考力」に関する学士力を有するとともに、医療分野において高い専門性、豊かな人間性及び教養を備えていると認められ
医療保健学部 看護学科	これらの入学者選抜においては、①「知識・技能」 ②「思考力・判断力・表現力」 ③「主体性・多様性・協働性」という「確かな学力」を把握するとともに、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、試験種別ごとに個別学力検査、大学入試センター試験、調査書、小論文、総合問題、基礎テスト、面接などを組み合わせ、多面的・総合的に評価を行います。 看護学科では、大学での看護の学びを、将来看護の実践に活かすという明確な意思と意欲を持った学生を求めています。では、それにふさわしい要素とはどのようなものでしょうか。もし皆さんの実施が看護を受ける立場になった時、どのような看護	1. 優れたチーム医療人の育成を図るため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」 に関する科目を開設します。	認められる者に学位(看護学)を授与します。
	師さんに看護してほしいと思いますか。	2. 豊かな教養と人間性を涵養するために看護専門職である前に、 一人の人間として「生命への畏敬、思いやり、人の絆、愛」を 持って行動する姿勢を涵養します。 3. 専門職としての高い倫理教育を行うとともに、教育課程全般の	る能力。
	うことのできる人間的な温かさと豊かな知識、感性に裏打ちされ		

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
性を持った人が必要です。その理由は、看護の現場は絶えず変化 しており、自ら考え判断し、行動することが要求されるからです。 5 現在の日本は超高齢社会を迎え、病気を抱えながら生活をする 6	に応えるために専門知識及びその関連知識を順序性、体系性を持って修得できるよう教育課程を編成し、提供します。 5. 国際化·情報化した現代社会で、看護専門職として対応できるよう教育課程を編成し、提供します。 6. 語学力やコミュニケーション技術を修得して、他職種や看護の対象となる人々と連携・協働しながら課題解決に取り組める高い看護実践力を涵養します。	4. 生涯を通じて自己研鑽し、看護実践の向上と新たな課題解 決のために意欲的に取り組める能力。
看護を実践することは、様々な人々への援助を通して、自分自身を見つめ、自らを磨き、生涯にわたって成長しようとする過程そのものです。大学を生涯の基盤づくりの場として考え、新しい時代の看護に飛躍する第一歩として欲しいと願っています。なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」又は「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望みます。		
各入試における評価内容等は次のとおりです。		
A O方式による入試 予め提示するキーワードを基に、知識・能力を活用して作成する小論文により、受験生の思考力・判断力・表現力などの評価を行います。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・ 人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 推薦入試 調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動におけ		
る主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・判断力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 一般入試(A日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、		

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
	それに加えて数学・理科の2教科4科目の中から1科目を選択解答する方式により、いわゆる理系科目の基礎学力に重点をおいた学習能力を判定します。 一般日程(B日程・C日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。 大学入試センター試験利用入試 大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。		
医療保健学部 医療栄養学科	健康と食生活の関係が重視されていることから、医療現場での管理栄養士の役割はますます大きくなっています。医療栄養学科では、医療の専門家の連携による「チーム医療」の一員として、参画できる管理栄養士の養成を目指しています。現場に強い管理栄養士を育成していくために最も必要なものが医療現場とのつながりで、本学科の臨地実習には、NTT東日本関東病院をはじめ、多くの病院や高齢者施設などを実習施設として実践的な臨床教	分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設します。 2. 人間性豊かな、教養ある管理栄養士の養成のために、「いのち・人間の教育分野」の中に、「いのち・人間」、「社会科学」、「自然科学」、「外国語」、「情報科学」を配置し、「思いやり」、「人	基づき、医療に関わる知識と技術を身に付け、人々の健康を プロデュースする食と栄養管理の専門家としてのチーム医療 に貢献できる管理栄養士を目指す上で、必要とされる以下の 能力を修得したと認められる者に学位(医療栄養学)を授与し
	育を行います。 また、優れたチーム医療人の育成を図るため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分	3. 社会的規範やルールを尊重する姿勢を涵養します。4. 専門教育科目は、管理栄養士学校指定規則に定められたカリキュラムに準拠し、さらに医療分野に特化した栄養学も修学できるような教育課程を提供します。5. 主体的な研究態度や技能を修得するために、卒業研究、栄養教	2. 食に関する情報を収集し、疾病の一次、二次予防の担い手としての知識を修得し、食生活改善のための計画・実行・
	食は切り離しては考えられません。特に、今日の社会は、少子高齢化という急激な変化に伴い、生活習慣病対策は重要であり、管	管理栄養士を育成します。 7. 専門職としてのコミュニケーション能力、語学力を涵養し、自ら考え、行動し、社会に貢献できる管理栄養士を育成します。	

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。		
そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域住民に対して健康の面で貢献したいと考えている学生、大学で学んだことを実生活で一層有効活用したいと考えている学生を歓迎します。		
なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物 基礎」又は「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されて いることを望みます。		
各入試における評価内容等は次のとおりです。		
A O方式による入試 (9 月実施) 事前に課題を与えて、知識・能力を活用して、その解決に向けて探究した結果をとりまとめた課題論文により、思考力・判断力・表現力などの評価を行います。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 A O方式による入試 (12 月実施) 生物基礎または化学基礎を選択して解答する基礎テストにより、理科科目の基礎的な知識・思考力・素養などを評価します。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行うとともに、面接で基礎テストに関する質疑応答を含むことにより、本学科が求める理科の素養・適性などをあわせて判断し、多面的・総合的に判定します。		
推薦入試 調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性・協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 一般入試(A日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、理科(「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」)の2科目の中かる1科目の選択解答する方式により、本党制の求める「理制」		
	また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。 そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域住民に対して健康の面で貢献したいと考えている学生、大学で学んだことを実生活で一層有効活用したいと考えている学生を歓迎します。 なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」又は「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望みます。 各入試における評価内容等は次のとおりです。 A O 方式による入試 (9 月実施) 事前に課題を与えて、知識・能力を活用して、その解決に向けて探究した結果をとりまとめた課題論文により、思考力・判断力・表現力などの評価を行います。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 A O 方式による入試 (12 月実施) 生物基礎または化学基礎を選択して解答する基礎テストにより、理科科目の基礎的な知識・思考力・素養などを評価します。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行うとともに、面接で基礎テストに関する質疑応答を含むことにより、本学科が求める理科の素養・適性などをあわせて判断し、多面的・総合的に判定します。・小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行うと、本学科が求める理科の素養・適性などをあわせて判断し、多面的・総合的に判定します。・小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 - 般人試(A 日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、	また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。 そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域性良に対して健康の面で貢献したいと考えている学生を教迎します。 なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」又は「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を歴修されていることを望みます。 各入試における評価内容等は次のとおりです。 A O 方式による入試 (9 月実施) 事前に課題を与えて、知識・能力を活用して、その解決に向けて探えいた結果をとりまとめた決理論文により、思考力・判断方力・表現力などの評価を行います。自己推薦者と面を指します。 A O 方式による人試 (2 月実施) か、表現力などの評価を行います。自己推薦者と面を置いた評価を行って、多面的・総合的に利定します。 A O 方式による人試 (2 月実施) 生物基礎または化学基礎を選択して解答する基礎テストにより、理料科目の基礎的な知識・思考力・素養などを評価します。 自己推薦書と画接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行うとともに、画接で基礎テストに関する質疑応答を含むことにより、本学科が求める理科の素養・選性などをあわせて判断し、多面的・総合的に利定します。 韓麗人試 調査者により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性・協働性、非定分野での卓越した能力などを把握します。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
	一般入試(B日程・C日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。 大学入試センター試験利用入試 大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。		
医療保健学部医療情報学科	い医療を提供するチームの一員となる第一歩です。新しい医療情報の活用や的確で効果的な情報の提供について議論するために、	分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設します。 2. 医療人として必要な倫理観や態度を身に付け、社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ることができる教育課程を編成し、提供します。 3. チーム医療に必須のコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高め、他と協調して物事を達成する教育課程を編成し、提供します。 4. 医療情報の分析とマネジメントに必要となる、医学・医療の知識と技術を体系的に修得する教育課程を編成し、提供します。 5. 医療分野のシステム開発・管理・運用に必要となる、ICT(情報	たと認められる者に学位(医療情報学)を授与します。 1. 医療情報の分析とマネジメントで必要となる、医療制度や診療情報に関する基礎的な知識と手法を持って実践できる能力。 2. 医療分野のシステムや機器の開発・管理・運用に必要となる、ICT(情報通信技術)の基礎的な知識と技術を持って医療分野へ適用するための実践できる能力。 3. 医療人として他の専門職と協調して物事を進めるためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力。 4. 国内外の科学技術の進歩と専門性への探究心を持ち、自ら目標を設定して、主体的に取り組む態度を身に付け実践できる能力。 5. 医療職として高い倫理観や態度を身に付け、社会の動きに

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
報を扱うには高い倫理観が必要です。例えば科目「社会と情報」		
や「情報の科学」の内容に含まれる情報の伝達手段の信頼性、情		
報の信憑性、情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや		
著作権への配慮などについて学び、高い意識を持つことを期待し		
ます。		
各入試における評価内容等は次のとおりです。		
A O方式による入試		
自己推薦書により、高等学校教育までに育まれた「確かな学力」		
を中心に、本学が求める資質についての評価を行います。面接		
では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価		
を行って、多面的・総合的に判定します。		
推薦入試		
調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動におけ		
る主体性・協働性、特定分野での卓越した能力などを把握しま		
す。小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間		
性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定し		
ます。		
一般入試(A日程)		
個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・		
判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、		
それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から1科目		
を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の得意		
とする科目での受験を可能とし、受験者の特性に応じた学習能		
力を判定します。		
一般入試(B日程・C日程)		
個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・		
判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、		
それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目		
を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修		
状況に応じた学習能力を判定します。		
大学入試センター試験利用入試		
大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われ		
た知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語		
を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科7科目の		
中から2科目を選択解答する方式により、文系から理系までの		
広い範囲や得意とする特定分野があるなど、受験者の履修状況		
に応じた学習能力を判定します。		

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
東が丘・立川看護学部看護学科		1. 豊かな人間性と確かな看護実践能力を育成するために、「人・人間理解と自然・社会科学」、「健康問題の解決」、「あらゆる状況にある対象への看護実践」及び「看護キャリア開発」に関する科目を開設し、医療保健を支える実践力を持ったtomorrow's Nsを育成します。 2. 看護の対象である人・人間を「健康」と「生活」からとらえるとともに、かけがえのない存在として尊重し、人権を擁護する能力を涵養します。 3. 看護の実践能力、自己啓発能力、キャリア開発能力を育成します。 4. 看護倫理、生命倫理の基本的能力を育成します。 5. 他の医療職や他職種と協働し、補完しあえるスキルミックスの基盤能力を育成します。 6. 国際的視野と国際的に活躍できる能力を育成します。 7. 連携する国立病院機構の豊富な臨床現場を活用し、実習等を通して、総合的、自律的判断に基づく看護実践能力を修得し、臨床現場に強い実践者を育成します。	を理解し、21世紀の高度医療に対応できる tomorrow's National Elements を目指す上で必要とされる以下の能力を修得したと認められる者に学位(看護学)を授与します。 1. 豊かな知性と人間性に支えられて、倫理的な意思決定に基づく看護を自律的に実践できる能力。 2. 看護・看護学の基盤となるヒト・人・人間に関連した基礎科学及び看護学に関する知識・技術を修得し、科学的相互的な思考・判断に基づいて自律的に看護を実践できる能力。 3. 看護の対象者や医療従事者等との適切なコミュニケーションを取りながら看護を実践できる能力。 4. 発展・進化する看護の知識・技術を積極的に探求し、

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
	体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。総合問題では、医療・保健・福祉に関する設問を通して、柔軟な思考力・判断力、的確な表現力の評価を行います。面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 一般入試(A日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて数学・理科の2教科4科目の中から1科目を選択解答する方式により、いわゆる理系科目の基礎学力に重点をおいた学習能力を判定します。 一般入試(B日程・C日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。 大学入試センター試験利用入試 大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。		
千葉看護学部 看護学科	千葉看護学部では、東京医療保健大学の方針に基づいて、地域完結型の医療保健に積極的に参画できる看護専門職を育成します。そのために、今、みなさんが持っている柔軟性と応用力をさらに強化して、あらゆる人の生活をより充実したものにするために、サポートする能力を培うことを志向する人を求めています。日ごろから他者への興味・関心を持ち続け、相手の話を聴いて、その人の願いを実現するために自分にできることを探そうとする姿勢が求められます。 また大学入学後は、ボランティアや部活、課外活動など、生活者としてのさまざまな体験をされることを希望します。それが、さ	 1. 高度な看護が実践できるために『看護実践能力』、『段階的判断能力』及び『柔軟な創造力』の3つの能力を育成します。 ・『看護実践能力』とは、社会人としての一般的な教養を備えた上で、確かな専門知識をもとに安全で安楽な看護技術を提供できることと、これに加えて、関係する患者・家族及び多職種と協働するためのコミュニケーション能力をもとにチーム医療を推進する能力です。 ・『段階的判断能力』は、起きている複雑な現象を多角的にとらえ、専門知識をもとにタイムリーな論理的決定を繰り返し、積み上げる能力のことです。また、この中には倫理的な判断が、また。 	人との絆・生命への畏敬・倫理観を持って看護を実践できる能力。 2. 人びとと社会に対する幅広い知識と医療・看護に関する専門知識・技術を論理的・統合的に活用し、様々な健康段階
	まざまな世代と立場の人との関わりの際に役に立ちます。また、 それらの特別な場だけでなく、日常生活の中であっても、出会う 人や何気ない景色やニュースから、人々の幸せとは何か、「未来」 を生み出す「今」を考え、自分なりの意見を持つことが可能です。 看護専門職は大学を卒業し、国家試験に合格したら「完結」する	が必須です。 ・『柔軟な創造力』とは、正解のない現代医療・介護の現場で、サービスを利用する人びとにとってよりよいケアと環境とを 創造し提案する能力です。これには、現状分析力と総合判断力 及び人々に真摯に向き合う姿勢が必要です。	にある人びとの安心で充実した暮らしを支える看護を実践できる能力。 3. 看護サービスを受ける人びとや他職種と効果的な関係を構築し共通の目的達成に貢献できる連携・協働能力。 4. 看護専門職者として生涯を通じて自己研鑽し、看護実践力

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
ス学者受け入れの方針 わけではありません。看護職となってからも新しい知見を身につけて自分の力で成長し続けます。大学では4年間の在学期間だけでなく、卒業後も自律して成長し続けることができるための基盤を形成します。 そのために、常に広い視野で、かつ深く、見つめようとする意志を持つ人材を求めています。なお、本学科を希望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」又は「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望みます。 各入試における評価内容等は次のとおりです。 推薦入試調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性や協働性、協働分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考カ・判断力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。 一般入試(A日程)個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考カ・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて数学・理科の2教科4科目の中から1科目を選択解答する方式により、いかつる理系科目の基礎学力に重点をおいた学習能力を判定します。 一般入試(B日程)の開発を設めています。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、高等学校教育で培われた知識・思考カ・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須と日もを選択解答する方式により、高等学校教育で培われた知識・思考カ・理科の3教科5科目の中から2科目を選択をする方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。大学入試センター試験利用入試大学入試センター試験利用入試大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考カ・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語	2. カリキュラムの特色としては、基礎的な幅広い知識・教養を身につけるとともに論理力と統合力を強化する科目を設定しています。 ・いのち・人間の教育分野として専門職の教育分野の基盤となる論理力の向上をねらう科目と、社会の中の多様性を理解するための科目、コミュニケーション力の向上をねらう科目を複数設定しました。 ・専門職の教育分野では基本的な専門科目に加えて、社会の流れを敏感に察知するための科目や倫理的感受性を高める科目、及び論理力と統合力を高める科目を設定しています。 ・また、自身のキャリア及び組織について考える能力の基盤となる科目も複数設定し、学んだ知識を元に、卒業後も自己研鑽し続けることの必要性についての自覚を促します。	の向上と新たな課題発見・解決に向け自律的に取り組める 能力。 5. グローバル化・情報ネットワーク化に対応できる視野と記 学・情報スキルを持って社会のニーズをとらえ創造的に成 えられる能力。

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
和歌山看護学部	和歌山看護学部看護学科では、何事にも興味をもち主体的に学ぶ	1. 本学科では、看護の対象である人間とその生命を尊重できる	1. 豊かな教養と人間性に支えられ、人間としての思いやり・
看護学科	能力と、コミュニケーション能力を備え、さらに地域社会に関心	倫理観を持ち、豊かな人間性と確かな看護実践能力を育成す	人との絆・生命への畏敬・倫理観を持って看護を実践でき
	を持ち、そこで生活する人々の健康を担う決意と高い志を持った	ることをカリキュラムの主軸とします。	る能力
	学生を求めています。	2. 「豊かな人間性を育む分野」、「看護の基盤をつくる分野」、「看	2. 人間と社会に対する幅広い知識と地域社会における人々の
		護実践能力を高める分野」の3分野でカリキュラムを構成し、	生活と健康の観点から医療・看護に関する専門知識と技術
	現在、和歌山県は人口の減少、高齢化、単独世帯の増加が進んで	『看護実践能力』『課題対応力』及び『自己教育力』の3つの	を持って看護を実践できる能力
	おり、地域で暮らす人々が病気や障がい、高齢になっても住み慣	能力を育成します。	3. 看護の対象となる人々や多職種と連携・協働して看護を展
	れた場所で少しでも長く自立した生活が続けられるよう支援す	3. 人間や生命・生活・地域・社会・文化等の幅広い知識を習得	開できるコミュニケーション能力
	ることが地域社会の課題となっており、地域で暮らす人々の健康	し、豊かな人間性と教養を身に付けます。	4. 生涯を通じて自己研鑚し、看護実践の向上と新たな課題解
	の維持・増進に貢献できる質の高い看護職が必要とされていま	4. 高度な判断と実践の基礎となる看護学の知識・技術を修得し、	決のために意欲的に取り組める能力
	す。 	あらゆる場や状況において、対象の健康課題を捉え解決でき る看護実践能力を涵養します。	5. 国際化・情報化に対応できる幅広い視野と語学力・スキルを持って社 会の要請に応えられる能力
	具体的には、高度急性期医療における看護や在宅で療養中の方々	5. 専門的な知識・技術を順序性、体系性を持って修得できるよ	
	に対する支援や看護、和歌山県で今後起こりうる自然災害時など	う教育課程を編成し、提供します。	
	への看護があげられます。そのためには、高度な判断力と確かな	6. 時代や社会が求めているものを見据え、質の高い看護を創造	
	看護実践能力をもって、チーム医療の一員としての役割が果たせ	し続けられるよう自己教育力を涵養します。	
	る看護職が必要となります。	7. 国際化・情報化が進むグローバルな社会で貢献できるよう、 幅広い視野や語学力やコミュニケーション技術を修得できる	
	│ │そこで、和歌山看護学部看護学科では、地域の特性を把握し社	教育課程を提供します。	
	会・文化・人間と生活に対する理解を深め、豊かな人間性と倫理		
	観をもち、多様な環境においてあらゆる健康レベルの対象に働き	携・協働するための基礎的能力を涵養します。	
	かけできる看護職、時代の要請に応える新たな看護を創造してい		
	くことができる看護職を育成していきます。		
	なお、本学科を志望される方は、入学後の専門科目の履修の基盤		
	となりますので、理科の選択科目において「生物基礎」又は「生		
	- │物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望み		
	ます。		
	各入試における評価内容等は次のとおりです。		
	推薦入試		
	調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動におけ		
	る主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握しま		
	す。小論文、面接では、意欲・思考力・判断力・表現力・主体		
	性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的		
	に判定します。		
	一般入試(A日程・C日程)		
	個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・		
	判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、		
	それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から1科目		

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の得意とする科目での受験を可能とし、受験者の特性に応じた学習能力を判定します。 一般入試(B日程) 個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。 大学入試センター利用入試大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず履修状況に応じた学習能力を判定します。		

東京医療保健大学医療保健学部入学試験実施委員会規程

(設置)

第1条 入学試験の実施に関して、東京医療保健大学学則に基づき、医療保健 学部入学試験実施委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は、大学経営会議により任命された専任教員、大学経営会議室 長、事務局長、教務部長、入試広報部長をもって構成する。
 - 2 委員会には、委員長をおき、大学経営会議により指名する。

(審議事項)

- 第3条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - (1)入学者選抜試験の実施に関すること。
 - (2)入試問題及び選抜方法に関すること。
 - (3)入学者選抜基準及び採点基準に関すること。
 - (4)その他入学者の選抜に関すること。

(入試問題の作成)

第4条 入試問題の作成に当たっては、原則学内教員の中から、大学経営会議議長が「入試問題作成委員」を選定し、入試問題の作成を委嘱する。また、「入試問題作成委員」が作成した問題の査読・校正及び解答の作成を行う「査読・校正委員」を学内教員又は学外の有識者から大学経営会議議長が選定し、委嘱する。

(合否判定)

- 第5条 入学試験の合否判定に関し、合否判定委員会を設置する。
 - 2 合否判定委員会は、次の各号に挙げる委員をもって組織する。
 - (1) 学長
 - (2)大学経営会議議長
 - (3) 学部長
 - (4) 看護学科長
 - (5)医療栄養学科長
 - (6) 医療情報学科長
 - (7)大学経営会議室長
 - (8)事務局長
 - (9)入試広報部長

(事務)

- 第6条 入学試験に係わる事務は、入試広報部が行う。
- 附 則 この規程は、平成17年4月1日より施行する。
- 附 則 この規程は、平成22年12月8日より施行する。

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部入試委員会規程

(設置)

第1条 東が丘・立川看護学部の入試について、妥当性を検証し、入試の企画・ 運営・実行を進めることを目的に、東が丘・立川看護学部入試委員会(以 下「委員会」という)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は次の者をもって構成する。
 - (1) 大学経営会議において任命する教員。
 - (2) 大学経営会議室長、事務局長、入試広報部長及び東が丘・立川看護学部 等事務部長。
 - (3) 学部長は必要に応じて出席することができる。
 - (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外のメンバーを出席させ、意見等 を聴取することができる。

(審議事項)

- 第3条 委員会は次の事項を審議する。
 - (1) アドミッションポリシーに関すること。
 - (2) 学部及び大学院入試に関すること。
 - (3)入試広報に関すること。
 - (4) その他。

(委員長等)

- 第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。
 - 2 委員長及び副委員長は、大学経営会議において任命する。

(議重)

第5条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

(開催日)

- 第6条 委員長が召集する日に開催する。
- 附 則 本規程は平成22年12月8日から施行する。
- 附 則 本規程は平成23年3月9日から施行する。

附則

- 1. 本規程は平成26年4月1日から施行する。
- 2. 東が丘看護学部は、学部名の変更に伴い東が丘・立川看護学部となった。

大学情報マネジメント室(IR推進室)規程

(目的)

- 第 1 条 東京医療保健大学の活動状況を把握し、その分析及び評価を通じて 教育・研究及びこれを支える経営の改善に資するため、教育・研究・財務・ 施設・人事等に関する情報(以下「大学情報」という。)の総合的な分析・ 共有等を図るため、大学情報マネジメント室(IR推進室)を置く。 (業務)
- 第2条 大学情報マネジメント室は、次に掲げる業務を行う。
 - (1) 大学情報の収集・分析等に係る企画・立案に関すること。
 - (2) 各部等が収集・蓄積する大学情報の集約に関すること。
 - (3) 大学情報の統合的分析及び可視化並びに分析結果の共有化に関すること。
 - (4) 大学情報の分析結果に基づく戦略立案及び意思決定の支援に関すること。
 - (5) 大学情報の分析結果に基づく資料の作成及び公表に関すること。
 - (6) 統計調査、情報公開、評価等に対応する大学情報の提供に関すること。
 - (7) その他前条の目的を達成するために必要な事項。

(室長)

- 第3条 大学情報マネジメント室に室長を置く。
 - 2 室長は副学長のうちから学長が指名する者をもって充てる。

(組織)

第4条 大学情報マネジメント室は、学長が任命する教員及び事務局各部の職員 をもって構成する。

(コーディネーター)

第5条 大学情報マネジメント室の業務を円滑に行うため、コーディネーターを 置くことができる。

(運営会議)

- 第6条 大学情報マネジメント室に、業務に関する事項について協議及び連絡 調整等を行うため、運営会議を置く。
 - 2 運営会議の運営に関し必要な事項は別に定める。

(事務)

第7条 大学情報マネジメント室に関する事務は、教務部が行う。

附則

この規程は、平成26年7月16日から施行する。



本号は、前号の配信(平成29年11月30日)以後の動きをまとめております。記事中の年の表示を省略しているものがありますので、ご留意ください。

	INDEX -	
1.	事務局からのお知らせ	1
2.	医療保健学部看護学科からのお知らせ	1 4
3.	医療保健学部医療栄養学科からのお知らせ	1 5
4.	医療保健学部医療情報学科からのお知らせ	1 6
5.	大学院医療保健学研究科からのお知らせ	1 7
6.	東が丘・立川看護学部からのお知らせ	1 8
7.	大学院看護学研究科からのお知らせ	1 8
8.	助産学専攻科からのお知らせ	2 0
9.	感染制御学教育研究センターからのお知らせ	2 0
	(編集後記)	

【1. 事務局からのお知らせ】

<u>(1)企画部</u>

①規程等の制定及び一部改正について

規程の詳しい改正内容については、デスクネッツのメニュー「文書管理」から「諸規程等」を 選択してご覧ください。

○東京医療保健大学学則の一部改正について(30.4.1施行)

学則第10条~第15条に定めている教育課程の授業に係る内容に加え、「授業の方法」を明記し、授業の形態を定義するとともに一部の授業科目について、多様なメディアを高度に利用し、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができるようにするため、一部改正を行うもの。なお、当該授業の方法により修得することができる単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとする。

②平成29年度公開講座実施結果について

・今年度実施しました公開講座の実施概要は次のとおりです。

					平成29年度						
実施日時	29.6.11(日)10:00~	2:00	00 29.9.15(金)10:00~11:30 29.9.15(金)14:00~15:30 29.10.7(土)10:00~12:00		2:00	29.11.18(土)10:00~	12:00				
実施場所	こみゅにてぃプラザ (品川区八潮)	八潮	国立病院機構キャン。 (目黒区東が丘)	パス	国立病院機構キャン (目黒区東が丘)	パス	世田谷キャンパス (世田谷区世田谷)		五反田キャンパス (品川区東五反田)		
受 講 料	無料		無料		無料		無料		無料		
講座の内容	「在宅における歯科医 口腔機能向上につい		「卒乳・断乳の時の大切な	زعدا	「共に乗り越える 安産・沐浴のヒケツ」		「認知症予防に役立つ食事。	と生活」	「トイレのことばかり気 生活から一歩前へ」		
·* 6x	医療保健学部医療情報	设学科	東が丘・立川看護学部看	護学科	東が丘・立川看護学部看	護学科	医療保健学部医療栄養	学科	医療保健学部看護	学科	
講師	講師 柴野 荘-	-	講師 平出 美栄	子	講師 平出 美栄	子	講師 細田 明美		教授 阿部 桃-	7	
参加者数	26名		大人51名、子供37:	名	16名		43名		64名		
アンケート回答者数	24名		41名		10名		41名		63名		
	(回収率 92.3%)		(回収率 80.4%)		(回収率 62.5%)		(回収率 95.3%)		(回収率 98.4%)	(回収率 98.4%)	
年 代	70歳以上	45. 8%	-	-	-	-	70歳以上	48. 7%	70歳以上	68.3%	
	50~69歳	45. 8%	-	-	-	-	50~69歳	41.5%	50~69歳	28. 5%	
	50歳未満	8.4%	-	-	-	-	50歳未満	9. 8%	50歳未満	3. 2%	
在 住	品川区内	83.3%	目黒区内	39.1%	目黒区内	30.0%	世田谷区内	70. 7%	品川区内	77. 8%	
	品川区以外	12.5%	目黒区以外	43.9%	目黒区以外	40.0%	世田谷区以外	17. 1%	品川区以外	15. 9%	
	東京都以外	4. 2%	東京都以外	14.6%	東京都以外	10.0%	東京都以外	2. 4%	未記入	6.3%	
			未記入	2.4%	未記入	20.0%	未記入	9. 8%			
感想	とてもわかりやすかった	66. 7%	とてもわかりやすかった	95. 2%	とてもわかりやすかった	100.0%	とてもわかりやすかった	70. 8%	とてもわかりやすかった	69.8%	
	わかりやすかった	29. 1%	普通	2. 4%			わかりやすかった	26. 8%	わかりやすかった	25. 4%	
	やや難解だった	4. 2%	やや難解だった	2.4%			無回答	2. 4%	やや難解だった	1.6%	
									無回答	3. 2%	
講座を知った方法	チラシ	45. 8%	チラシ・ポスター	46.5%	チラシ・ポスター	40.0%	世田谷区公開講座情報誌	36. 5%	広報しながわ	45. 8%	
	広報しながわ	41.7%	友人・知り合いからの誘い	23. 2%	めぐろ区報	10.0%	チラシ	31. 7%	チラシ・ポスター	33.3%	
	品川区IP	4. 2%	めぐろ区報	14.0%	その他	50.0%	世田谷区冊	12. 2%	品川区HP	11.1%	
	その他	8.3%	目黒区HP	7.0%			友人・知り合いからの誘い	9. 8%	友人・知り合いからの誘い	2. 8%	
			その他	9.3%			大学服	4. 9%	その他	7. 0%	
							その他	4. 9%			



[企画部特命担当]

〇千葉看護学部及び和歌山看護学部の養護教諭教職課程が認定されました。

平成29年6月30日付「収容定員増に係る学則変更認可申請」の認可、同年8月31日付 「保健師助産師看護師法第19条第1号及び第21条第1号に定める学校」の指定に続き、 文部科学省より同年12月4日付けにて養護教諭教職課程の認定通知を受領しました(免許状の 種類:養護教諭一種免許状)。これにより、一昨年より対応しておりました平成30年4月の 両学部設置に係る文部科学省への全ての申請事項に認可が下りました。関係各部のご協力に 深謝し、改めて御礼申し上げます。

- 〇千葉県看護師等養成学校整備促進事業補助金に関する決定通知を受領しました。 平成29年12月6日付けにて「千葉県看護師等養成学校整備促進事業補助金」の決定通知を 受領いたしました(補助金の金額は30,000,000円)。
- 〇千葉看護学部専任教員オリエンテーションを12月10日(日)に実施しました。

千葉看護学部の専任教員37名中、34名が参加。田村理事長、木村学長、田村副理事をはじめ、関係各位のご支援を得て滞りなく全ての工程を終了いたしました。参加された先生方からは「ビジョン、ミッションが沁みいるように伝わってきた」「将来構想まで窺うことができよかった」「一人ひとりに丁寧な資料を作成していただきありがたかった」など、高評価をいただきました。

〇以上のとおり、平成30年4月の学部開設(新入生受入れ)に向け着実に前進し、現在、最後の 仕上げに取り掛かっております。関係各部におかれましては引き続きご支援を賜りますよう、 宜しくお願い申し上げます。

《 和歌山看護学部雄湊キャンパス整備進捗状況 》



(2)教務部

〇医療保健学部及び助産学専攻科学生の概況について

平成30年1月1日現在の各学科学生の概況は、次のとおりです。

(人)

平成28年度卒業者数 当初入学者数 入学後の退学者 30.1.1在籍者数 看護学科 22年度生 1 0 23年度生 0 0 1 24年度生 2 95 25年度生 (1) 26年度生 120 3 117 105 27年度生 106 (2) (1) 1 28年度生 115 0 115 29年度生 125 124 1 (1) (1) 5 計 466 (4) 464 96 医療栄養学科 23年度生 1 24年度生 0 2 25年度生 6 96 26年度生 106 10 96 27年度生 108 8 (1) 100 28年度生 117 (1) 111 29年度生 (2) 98 97 1 429 25 (4) 410 99 計 医療情報学科 23年度生 0 1 2 24年度生 3 25年度生 1 76 26年度生 91 11 80 (1) 73 5 27年度生 68 28年度生 38 4 34 (1) 29年度生 58 57 1 (2) 21 79 260 243 医療保健学部 22年度生 1 0 0 2 23年度生 24年度生 3 5 25年度生 (1) 9 267 26年度生 317 (1) 24 293 14 273 27年度生 287 (1) (3) 260 28年度生 270 (1) 10 (1) 29年度生 281 3 (3) 278 合 計 1, 155 (3) 51 (8) 1, 117 274 助産学専攻科 19 19 修了者数 16

[※]入学後の退学者数の欄の〈〉は、除籍者数で内数である。

[※]在籍者数の欄の()は、休学者数で内数である。

○東が丘・立川看護学部学生の概況について

平成30年1月1日現在の学生の概況は、次のとおりです。

(人)

	当初入学者数	入学後の退学者	30. 1.	.1在籍者数	平成28年度卒業者数
看護学科					
24年度生	-	-		1	3
25年度生	-	-		10	90
26年度生	231	8	(1)	223	-
[臨床看護学コース]	[131]	[3]	(1)	[128]	-
[災害看護学コース]	[100]	[5]		[95]	-
27年度生	203	6	(3)	197	_
[臨床看護学コース]	[110]	[2]	(2)	[108]	-
[災害看護学コース]	[93]	[4]	(1)	[89]	-
28年度生	223	9	(2)	214	_
[臨床看護学コース]	[113]	[4]		[109]	-
[災害看護学コース]	[110]	[5]	(2)	[105]	-
29年度生	217	6	(1)	211	
[臨床看護学コース]	[111]	[5]	(1)	[106]	-
[災害看護学コース]	[106]	[1]		[105]	-
計	874	29	(7)	856	93

- ※入学後の退学者数の欄の〈〉は、除籍者数で内数である。
- ※在籍者数の欄の()は、休学者数で内数である。

(3)総務人事部

〇世田谷区との懇談会の実施

- ・平成29年12月5日(火)、第4回「世田谷区内大学学長と区長の懇談会」が、区内等12大学 (日大は学部)の学長等が出席し、三軒茶屋キャロットタワー26階「オークラレストラン スカイキャロット」で開催されました。本学からは小西副学長と小峰部長代理(総務人事部)が 出席しました。
- ・懇談会は、区から提案された新たな連携プロジェクトの「①文化・芸術プロジェクト企画案」「②ボランティア事業における区内大学と連携体制の構築」について意見交換が行われました。
- ・小西副学長から、次の事項を紹介し区との連携プロジェクトについて意見を述べました。
 - ①女子バスケットボール部のインカレ優勝したこと
 - ②世田谷区内インターナショナルスクール幼児を 対象とした食育教育による日本食文化紹介に ついての医療栄養学科の取組(授業)について
 - ③世田谷区ボランティアビューロー(世田谷区施設) を使用した本学学生の食事提供のボランティア 活動が災害時に役立つ他大学との連携の可能性 について
- ・今後も引続き世田谷区と大学が連携していくことで 懇談会は終了しました。



▲ 意見を述べる小西副学長

〇人事異動がありましたのでお知らせいたします。

・平成30年1月1日付け採用 3名

氏 名	新	П
カひら はな 和平 華	企画部 和歌山看護学部設置準備室	㈱商工組合中央金庫 和歌山支店
もりた あきか あ か り 森田 麻華亜花里	教務部 契約職員	国連 UNHCR 協会
その わたる 菌 互	総務人事部 契約職員	慶應義塾大学 管財部

・平成30年1月31日付け退職 1名

氏	名	職名
鈴木	朋子	医療保健学部 看護学科 助手

○教育職員・事務職員の在籍状況について

(契約教職員含む・平成30年1月31日現在)

(人)

区分					計					
学長										1
学事顧問(常勤)										3
	教授	Ž	准教	授	講師	ī	助教	助手		
医療保健学部										
看護学科 (含む助産学専攻科)	(13)	13	(9)	9	(2)	11	11	5	(24)	49
医療栄養学科	(3)	7	(1)	6		4	2	5	(4)	24
医療情報学科	(4)	5		2		2	5	1	(4)	15
小計	(20)	25	(10)	17	(2)	17	18	11	(32)	88
東が丘・立川看護学部										
看護学科臨床看護学コース	(6)	6	(9)	9	(7)	7	9	5	(22)	36
看護学科災害看護学コース		4	(1)	4		6	9	4	(1)	27
小計	(6)	10	(10)	13	(7)	13	18	9	(23)	63
計	(26)	35	(20)	30	(9)	30	36	20	(55)	151
大学院										
医療保健学研究科		1		1		0	1	0		3
看護学研究科		0		0		0	0	0		0
計		1		1		0	1	0		3
合 計	(26)	36	(20)	31	(9)	30	37	20	(55)	158

※()は、大学院と兼務の教員であり、内数である。

事務職員数9 1 人総人員2 4 9 人

(4) 学生支援センター

- 〇今年度4年次生学科別進路状況(平成30年1月16日現在)
- ・医療保健学部3学科合わせた就職内定率は96.4%、東が丘・立川看護学部の就職内定率は99.0%です。学科別内定率は次のとおりです。
- ①医療情報学科 就職先内定率 93.3% (昨年1月末日現在 94.7%)

		(人)
就職希望者	内定者	70
	未内定者 大学院 専門学校等	5
進学希望者	大学院	1
上 连 子 布 至 白	専門学校等	1
その他		2
卒業延期見込	 者	1
総計		80

- ※大学院 大阪大学大学院医療系研究科
- ※専門学校等 日本競輪学校

②医療栄養学科 就職先内定率 97.9% (昨年1月末日現在 96.0%)

		(人)
就職希望者	内定者	94
	未内定者	2
進学希望者	大学院	0
连子布 主 在 	専門学校等	0
その他		0
卒業延期見込	 者	0
総計		96

③看護学科 就職先内定率97.2% (昨年1月末日現在 93.0%)

		(人)
	病院	104
	保健師	1
就職希望者	他、企業	0
	未内定者	3
	本学助産学専攻科	6
進学希望者	本学大学院	0
	大学院等	1
その他		0
卒業延期見込	2	
総計		117

※大学院等 獨協医科大学助産学専攻科

④東が丘・立川看護学部 就職先内定率 (臨床) 99.1% (災害) 98.8% (計) 99.0% (昨年1月末日現在 97.5%)

(ドナ・ガルロ	- 元任 97. J-70/	(臨床)	(災害)	(計)(人)		
	病院	110	83	193		
就職希望者	保健師	0	0	0		
税 戦 布 主 伯 	病院 110 83 保健師 0 0 他、企業 0 2 未内定者 1 1 本学助産学専攻科 0 0 本学大学院 5 0 大学院等 1 2 0 0	2				
	未内定者	1	1	2		
	本学助産学専攻科	0	0	0		
進学希望者	本学大学院	5	0	5		
	大学院等	1	2	3		
その他		0	0	0		
卒業延期見込	 者					
総計		117	89	206		

※大学院

(1)

(臨床)名古屋市立大学大学院看護学研究科 (災害)飯田女子短期大学地域看護学専攻科 聖路加国際大学大学院看護学研究科

- 〇「先輩の就職活動体験を聞く会」について
- ・3年次生を対象に医療情報学科は11月28日(火)に5名、医療栄養学科は12月4日(月)に6名、それぞれ就職活動が終了した4年次生を講師として招き実施しました。両学科とも終了時間を過ぎても様々な質問、相談で盛り上がった会となりました。

〇「ビジネスメイク&カラーレッスン」の実施について

・株式会社ノエビア様にご協力いただき12月9日(土)に 「ビジネスメイク&カラーレッスン」をノエビア銀座本社 研修室にて実施し、4月から社会人となる4年次生が 21名参加しました。





- 〇メディテーションセンター「ヨガ入門講座」が行われました。
- ・第1回目は9月29日(金)、第2回目は11月3日(金)、第3回目は12月22日(金)に世田谷キャンパスで「ヨガ入門講座」を開催しました。3回の開催で合計16名が参加しました。今後も継続して開催していきたいと思います。
- ○12月に2回、1月に2回と計4回にわたり世田谷キャンパスにおいて3年次生対象に就職活動用証明写真の撮影を実施します。今年度で4年目の実施となり、学内での写真撮影は定着し希望者も大幅に増えています。

〇プログラマー適性検査の実施について

- ・12月15日(金)、1月16日(火)医療情報学科3年次生を対象に、企業研究キャリア講座に て講話いただいた株式会社ユニケソフトウェアリサーチ様の協力により世田谷キャンパスで プログラマー適性検査を実施しました。
- ・適性検査実施後、企業関係者から解説をいただきSE・プログラマー職への進路を考える際の ひとつの指針として活用することができました。

○3年次生対象企業研究キャリア講座について

- ・医療情報学科は2月14日(水)、医療栄養学科は2月15日(木)まで開催いたします。
- ・50分間の限られた短い時間帯で業界や企業の就職活動に関する講話があり、個別相談では 各企業の人事担当者との質疑応答が活発に行われています。
- ・参加状況は次表のとおりです。(1月16日現在)

学科	参加企業数	延べ参加者数	平均参加者数(昨年)
医療栄養学科	3 0 社 (残 8 社)	1,308名	43.6名(34.3名)
医療情報学科	28社(残5社)	567名	20.3名(23.1名)
計	58社(残13社)	1,875名	32.3名(28.7名)

○女子バスケットボール部の活躍について

・宮城県仙台市で開催された第69回全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)で、 悲願の初優勝、日本一の栄冠に輝きました。11月28日(火)1回戦の福島大学(東北リーグ 2位)から始まり、2回戦は筑波大学(関東リーグ6位)、準々決勝は大阪体育大学(関西リーグ 2位)、準決勝は白鷗大学(関東リーグ3位)と勝ち進み、12月3日(日)の決勝戦で拓殖大学 (関東リーグ5位)に96対72で勝利し、学生チャンピオンの栄冠を勝ち取りました。創部 から11年目の快挙です。おめでとうございます。





個人賞として、最優秀選手賞に 津村ゆり子さん(医療情報学科 4年次生)、優秀選手賞には、 王昕さん(医療情報学科4年次 生)と岡田英里さん(医療情報 学科2年次生)が表彰されました。

(5)入試広報部

〇平成30年度 入試実施状況

・平成29年8月以降12月までに実施した学部、専攻科の入試実施状況は次のとおりです。 平成30年4月には、新たに和歌山看護学部及び千葉看護学部が開設となるため、両学部の入試 も推薦入試からスタートしました。

【医療保健学部】

※()は前年度

試験区分	試験日	募集	人数	志願	者数	受験	者数	合格	者数	入学予	定者数
8月A0入試 (医療情報学科)	8月11日(金)	(10)	10	(16)	8	(16)	8	(16)	8	(16)	8
9月A0入試 (医療情報学科)	9月10日(日)	(5)	5	(5)	5	(5)	5	(5)	5	(5)	5
10月A0入試 (医療情報学科)	10月8日(日)	(8)	8	(4)	6	(4)	6	(4)	6	(4)	6
12月A0入試 (医療情報学科)	12月10日(日)	(5)	5	(5)	5	(5)	5	(5)	5	(5)	5
9月A0入試 (医療栄養学科)	9月10日(日)	(15)	15	(42)	30	(42)	30	(19)	21	(19)	21
12月A0入試 (医療栄養学科)	12月10日(日)	(5)	5	(18)	12	(18)	12	(8)	10	(8)	10
9月A0入試 (看護学科)	9月10日(日)	(8)	8	(89)	76	(87)	75	(10)	10	(10)	10
指定校推薦入試	11月12日(日)	(32)	32	(23)	23	(23)	23	(23)	23	(23)	23
公募制推薦入試		(25)	25	(49)	35	(49)	35	(24)	18	(24)	18
合	<u></u>	(113)	113	(251)	200	(249)	199	(114)	106	(114)	106

【東が丘・立川看護学部】

試験区分	試験日	募集人数		志願者数		受験者数		合格者数		入学予定者数	
指定校推薦入試	11 - 10 - (-)	(40)	40	(47)	41	(47)	41	(47)	41	(47)	41
公募制推薦入試	11月12日(日)	(40)	40	(95)	81	(94)	81	(68)	69	(68)	69
合	Ħ	(80)	80	(142)	122	(141)	122	(115)	110	(115)	110

【和歌山看護学部】

試験区分	試験日	募集人数		志願者数		受験者数		合格者数		入学予定者数	
指定校推薦入試	11 8 10 0 / 0 \	-	30	-	45	-	45	-	45	-	45
公募制推薦入試	11月19日(日)	_	13	_	127	-	123	_	34	-	33
合	<u></u>	_	43	_	172	_	168	-	79	-	78

【千葉看護学部】

試験区分	試験日	募集人数		志願者数		受験者数		合格者数		入学予定者数	
指定校推薦入試	11 8 100 (0)	-	25	-	24	-	24	-	24	-	24
公募制推薦入試	11月12日(日)	-	15	-	24	-	24	-	16	-	16
合	<u>=</u>	-	40	-	48	-	48	-	40	-	40

【助産学専攻科】

試験区分	試験日	募集	募集人数		志願者数		者数	合格	者数	入学予	定者数
推薦入試	9月9日(土)			(31)	27	(31)	26	(10)	11	(10)	10
社会人推薦入試	9月9日(土)	(15)	15	(5)	1	(5)	1	(1)	1	(1)	1
一般入試	10月8日(日)			(43)	39	(41)	37	(9)	9	(8)	9
合 計		(15)	15	(79)	67	(77)	64	(20)	21	(19)	20

○平成30年度一般入試について

- ・平成30年度の一般入試については、昨年医療栄養学科で「医療栄養学科特別日程」として実施 した1月入試を全学部全学科に拡大し、試験名称も一般入試A日程、B日程、C日程と改定して 3回の入試を実施することとしました。
- ・一般入試A日程は、①必須科目の英語の他、選択科目は1科目とする2科目入試とすること、 ②選択科目の選択方法は受験する学科によって異なること、③受験する学科は1学科とする 単願になること、④他の日程と異なり午後からの入試を実施すること、など他の日程と異なる いくつかの特色があります。
- ・また、A日程とB日程の入試を同時に出願した場合は検定料(受験料)の優遇を行うなどの方策も 実施しました。
- ・平成30年度の一般入試の試験日は、A日程が1月24日(水)、B日程が2月4日(日)、C日程が2月18日(日)となっています。

(6)研究協力等推進部

〇平成29年度全学合同海外研修について

- ・国際交流委員会主催の平成29年度全学合同海外研修は、平成30年3月11日(日)~19日 (月)7泊9日で、ハワイで実施される予定です。今年度は、33名の学生が参加いたします。 内訳は、医療保健学部看護学科10名、医療栄養学科6名、東が丘・立川看護学部17名です。 団長は医療栄養学科の齋藤さな恵講師、各学科の引率者は、原田竜三准教授(医療保健学部看護学科)、加藤隆幸准教授(医療栄養学科)、加藤江里子助教(東が丘・立川看護学部臨床看護学コース)、堀田昇吾助教(東が丘・立川看護学部災害看護学コース)です。
- ・現地における研修は、シャミナード大学看護学部で2日間、ハワイ大学看護学科シミュレーションセンターで2日間、そして、介護・看護施設であるアロハ・ナーシング・リハブセンターで1日間実施する予定です。シャミナード大学看護学部では、模擬患者を使ったシミュレーション、アメリカの在宅医療に関する現状、学生交流などを中心に学び、ハワイ大学では、高度な医療機器を使ったシミュレーション演習、アメリカにおける看護師及び栄養士の役割に関する講義、及びハワイの伝統文化と食生活の講義と見学などを通じて学習が行われる予定です。
- ・また、今回初めて訪問するアロハ・ナーシング・リハブセンターでは、介護部門、看護部門、 リハビリ部門、ホスピス部門などを訪問して研修したのち、入所者のアクティビティにも参加し、 交流させていただくことになっています。
- ・現地実習に先立ち、後期に入ってから月1回程度の事前学習会を実施していますが、現在第3回まで終了し、12月の事前研修では学生のグループワークなども実施しました。次回の事前研修は2月9日(金)に、また、結団式は3月7日(水)に予定されています。

(7)図書館

○東が丘図書館に資格試験図書コーナーを新設

11月29日(水)に東が丘図書館に資格試験図書コーナーを新設しました。 看護師国家試験対策図書、NP認定資格試験対策図書をまとめて配架しています。

○2~3月の休館・短縮開館予定

【世田谷・五反田】

· 臨時休館日: 2月 3日(土) 「一般入試B日程準備日]

2月17日(土) (五反田)[一般入試C日程準備日]

3月 土曜日(3月3日、10日、17日、24日、31日)

•短縮開館日:

18時閉館 2月 2日(金)(世田谷・五反田) [一般入試B日程準備日]

2月16日(金)(五反田) [一般入試C日程準備日]

17時閉館 3月 5日(月)~3月30日(金)の全平日

【東が丘】

· 臨時休館日: 2月 3日(土) 「一般入試B日程準備日]

2月17日(土) [大学院入試]

3月 土曜日(3月3日、10日、17日、24日、31日)

•短縮開館日:

18時閉館 2月 2日(金) [一般入試B日程準備日]

17時閉館 2月16日(金) [大学院入試準備日]

3月 5日(月)~3月30日(金)の全平日

【立川】

· 臨時休館日: 2月 3日(土) [一般入試B日程準備日]

3月 土曜日(3月3日、10日、17日、24日、31日)

• 短縮開館日:

18時閉館 2月 2日(金) [一般入試B日程準備日] 17時閉館 3月 5日(月)~3月30日(金)の全平日

※この他に急遽臨時休館・短縮開館日が決まった際は各館掲示板等で告知します。

〇春季長期貸出

・春季休業に伴い、長期貸出を実施します。対象資料は図書(雑誌・AV資料は長期貸出対象外)であり、貸出冊数等は次のとおりです。

• 長期貸出期間

利用者区分	冊数制限	長期貸出開始日	返却期限
学部生、職員、助産学生	1人 5冊まで	2月 1日(木)	4月 9日(月)
大 学 院 生	1人30冊まで	2月 1日(木)	4月14日(土)
教 員	1人30冊まで	2月 1日(木)	4月 9日(月)

- ・学部4年次生(卒業予定者)、助産学専攻科生(修了予定者)、大学院修士2年次生(修了予定者) への貸出は2月28日(水)までです。
- ・3月以降の貸出を希望する学部4年次生(卒業予定者)、助産学専攻科生(修了予定者)、大学院 修士2年次生(修了予定者)は、3月以降に卒業生利用希望の申請を図書館カウンターにて 行ってください。卒業後の住所・連絡先が必要です。

【2. 医療保健学部看護学科からのお知らせ】

○第104回保健師国家試験・第107回看護師国家試験に向けて、4年次生が頑張っています。 来る2月16日(金)に保健師国家試験、2月18日(日)に看護師国家試験が実施されます。 今年度より新出題基準となり、旧基準と比べて大幅な追加や削除された出題項目もあり、出題 傾向の変化に注目が集まっています。4年次生は昨年より複数回の学内模擬試験、クラス別対策 講義、今年に入っても新年早々1月5日(金)から模擬試験と、少しずつ学習と習熟状況の確認を 積み重ねてきました。看護学科教員もガイダンス、学習方法やメンタルサポートに関するコン サルテーションなど、全員合格を願い学生を支援してきました。

残り数週間、あとは体調を整え、当日は学生一人一人の持てる力を出し切れるよう、祈っています。

○早期入学確定者に対して入学前授業体験会を実施しました。

A O 入試と推薦入学試験による早期入学確定者に対する入学前教育の 1 つとして、今年も 1 2 月 2 2 日(金)に授業体験会を実施し 2 6 名が参加しました。参加者 5 ~ 6 名が 1 つの グループとなり、各グループに3年次生が加わり、アイスブレイクを行った後に「体の仕組みと 働き」に関する 3 0 分の模擬授業を体験しました。和やかな雰囲気から一転、講義では真剣な 表情で聞いていました。参加者は話を聞きながらメモすることの難しさや、講義の速さなど高校 の授業との違いを実感したようですが、3年次生よりノートの取り方など学習の工夫や入学での準備について話を聞き、「事前に知ることができて良かった」「今後の学習の参考になった」 などの意見が寄せられ、大学での学習のイメージがついたようでした。また参加者同士の交流、在学生との交流により「不安が軽減した」「大学生活への期待がもてた」などの意見もあり、入学前の準備となったと考えられました。



▲ 12月22日(金)入学前授業体験会の様子

【3. 医療保健学部医療栄養学科からのお知らせ】

〇「食文化論」特別講義について

医療栄養学科では、平成29年12月18日(月)に世田谷キャンパスABO1教室において「食文化論」で外部講師による特別講義を行いました。講師は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部 考古第2研究室研究員の小田裕樹氏で、「食器・食具からみた日本古代の食文化」というテーマで、古代の食器について古墳時代から奈良時代の食器には大きな変化があり、それが東アジアの儀礼の変化の影響によるという刺激的な講演でした。

具体的には古墳時代の丸底の土器は手に持つものであり、それが奈良時代に平底になるのは、 食器を置いて箸や匙で食べるという中国の食事様式を採用したことによるものであり、その ため土器の形も金属器を模倣した形であり、日本だけではなく朝鮮半島でも同様な傾向にある という内容でした。今回は科学研究費助成の基盤研究(B)「古代食の総合的復元による食生活 と疾病の関係」(研究代表者:三舟隆之)の特別講演も兼ねていたので、本学学生・教職員の ほかに駒澤大学や東海大学の教員・大学院生や、宮内庁や国分寺市・藤沢市教育委員会、市川 市歴史博物館など、外部の考古学・歴史学関係者も多数集まり、レベルの高い講演会となり ました。今後もこのような試みを続けていきたいと考えています。

○フードスペシャリスト資格認定試験について

平成29年度フードスペシャリスト資格認定試験(公益社団法人日本フードスペシャリスト協会)が12月17日(日)に行われました。本学学生75名が受験し、74名が合格しました(合格率98.7%)。

〇給食経営管理論実習(2年次生)について

本年度は12月12日(火)~1月19日(金)の期間、世田谷キャンパスにおいて「給食経営管理論実習(2年次生)」で作成した給食の試食「100人給食」が実施されました。鯖の味噌煮、豆腐とひじきのハンバーグ、鮭ときのこのシチュー、ハンバーガー、豚丼など、様々に工夫された美味しい料理が提供され、大変好評でした。

〇世田谷区内食情報パンフレットの作成~世田谷区保健所と本学学生との連携

本年度も世田谷区保健所と本学学生の連携活動として、食情報提供の媒体資料を作成しています。昨年度に作成された食情報の提供ポスターは、世田谷区内の飲食店において展示され、地域に役立てられております。

〇第32回管理栄養士国家試験について

平成30年3月4日(日)に現在の本学4年次生(92名)が国家試験を受験予定です。将来の管理栄養士の道にむかうため、学生皆が試験に合格できるように、教員も一丸になり、支援体制を整えています。国家試験に向けて、学生達は緊張感をもって日々、勉学に取り組んでいます。

【4. 医療保健学部医療情報学科からのお知らせ】

〇大和ハウス工業株式会社の見学

「医療情報総合演習Ⅱ」の授業の一環として、医療情報学科1年次生約60名が大和ハウス工業株式会社ヒューマン・ケア事業推進部の介護福祉機器展示場「D's TETOTE」を見学しました。大学で学んでいる医療情報学の知識がIoTやロボット技術の基礎になり、在宅介護の場面で具体的に活用されている事例を知る機会となりました。

〇医療情報基礎知識検定の合格

11月12日(日)に医療情報基礎知識検定が本学世田谷キャンパスで実施されました。同資格は、日本医療情報学会が定めている医療情報の基礎的な用語についての知識を問う検定試験で、医療情報学科では2年次生に取得を推奨している資格です。11月末日に合格発表があり本学からは11名の合格者を出しました。

〇医業経営管理能力検定の合格

12月9日(土)に医業経営管理能力検定が本学世田谷キャンパスで実施されました。同資格は、公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会が実施している病院等の経営コンサルタントの入門的資格です。医療情報学科3年次生20名が受験し、1月16日(火)に合格発表があり13名が合格しました。合格者には、大学卒業後25歳になった時点で上位の資格である医業経営コンサルタントの受験資格が与えられます。

〇医療情報ゼミ発表会の開催

医療情報学科では、専門性への探究心をもって主体的に学修に取り組むために、3年次にゼミに所属し各教員の指導の下で専門分野について1年間学びます。またプレゼンテーション能力の向上を目指して、その学習成果の発表会を12月11日(月)に国立オリンピック記念青少年総合センターセミナーホールを会場として実施しました。聴講には、教務部、入試広報部や学生支援センターからの参加も頂き、医療情報分野の幅の広がりを感じる1日となりました。発表プログラムは別表のとおりです。

<午前の部>

時	分	演題名等		氏	名		担当教員
9	30	開会					
9	40	①1年間の医療情報ゼミで実施した内容	鎌形	優香	田畑	ゆり	
		②e-learningシステムedenを用いた電習教材の開発	木田	彩花	内藤	朱音	
		• edenの紹介	功刀	友紀子	松尾	実樹	
		・作成した教材のデモ	齋藤	千春	松村	優斗	津村
		③診療情報管理士用医療用語辞書の開発	信太	若菜			
		• 開発した用語辞書の概要					
		辞書の操作デモ					
10	10	AEDマップ電子化による設置場所認識の向上	磯嶋	佳奈子	永沼	璃子	
			萱沼	亮太	三井	マリ	
			高橋	さくら			瀬戸
		入院患者における内服薬管理に関する検討	稲垣	真理奈	門馬	有耶	
				紀弥	吉岡	結衣	
11	0	歯科医師過剰問題の現状	及川	達也			
		う蝕ー環境・社会的要因との関連性について一	齋藤	佳実			
		診療情報管理士はなぜ国家資格ではないのか	清水	沙里奈	中屋敷	弥央	
		一非国家資格の国と国家資格の国との比較一	瀧島	珠美			
		智歯(親知らず)について一抜歯の是非も含めて一	高橋	亘			柴野
		歯科医のうつ病患者に対する向き合い方	坪井	学			
		患者に侵襲性の高い治療を施すに当たり十分な説明を怠ったとして、歯科医師の不法行為 責任が認められた事例(東京地裁平成12年12月8日民事第二十五部判決)	舟橋	直			
		診療情報管理士の専門性-DPCとの関わり-	山本	真菜			

<午後の部>

時	分	演題名等		氏	名		担当教員
12	40	ロボットスーツの活用と社会保障費・税収との関連性	佐藤	優里			
		地域包括ケアシステムへの移行とその社会的背景	唐木	彩絢佳	増田	千秋	
		高齢者と在宅栄養管理の課題 ~看護学科,医療栄養学科との議論から~	加藤	りな	塚本	江里奈	駒崎
		2つの栄養管理システムの試作と試行~iOSアプリとLINEの活用事例~	井川	優季	平田	宏輝	
		地域包括ケアシステムにおける在宅栄養管理の解決策を検討するワークショップ	蛭川	直樹	村岡	美久	
13	30	残薬情報管理データベースの作成	佐藤	純怜			
		カルテ貸出管理システムの開発	平	東紗	若原	愛美	
		病院食におけるIT活用の可能性	大日野	予 太郎			
		医材情報管理システムの開発	浅田	直子			深澤
		地域医療連携支援データベースの構築	川上	この美			/木/羊
		診察予約システムの開発	本間	聖奈			
		歯科受付予約システムの開発	日比野	予涼			
		在宅医療における口腔ケア支援システムの開発	猪俣	あゆみ			
14	30	やさいレンジャー ~子どもが苦手な野菜を食べるように支援するアプリ~	関は	多	山内:	豊	
		スマートフォンのタップイベントを用いた仮想コミュニケーションアプリ	榎田				
		親子で学ぶ手洗い学習アプリケーション	本市	友紀野			今泉
		態度豹変?~アニメ好きのための会話を目的としたアプリケーションの開発~	日高	由貴			735
		バスケットボールのフリースローシュートの軌道分析	島下	和也	髙橋	優花	
		胸骨圧迫トレーニングにおけるビジュアルフィードバックの効果	岩田	卓	堀江	史奈乃	
15	30	リラックス効果をもたらす刺激に関する調査研究	鎌田	拓海	渡邊	郁己	
		幼児期の音楽経験と現在の性格の関連について	渡邊	美菜子	宮本	尚弥	
			有吉	健二			小杉
		作業中に聞く音楽の種類による作業効率の違いに関する研究	赤松	梨沙子	清水	玲奈]
			石井	優花			
16	30	データサイエンスの基礎知識	横堀	滉弥			
		カウンターファクチュアルモデル	保坂	聖也			
		ランダム化比較試験	後藤	桃香			比江島
		観察研究	川原	椎名			加江西
		バイアスについて	長部	莉那			
		スクリーニング	本宮	侑	<u> </u>		

【5. 大学院医療保健学研究科からのお知らせ】

〇平成30年度大学院修士課程春季入試・博士課程一般入試日程

大学院の修士課程春季入試・博士課程一般入試日程は次のとおりです。

課程	名 称	出願対象者	募集人員	選考方法	出願期間	試験日	合格発表
修士課程	一般入試 春季試験	社会人	修士課程 全領域で 25名	出願書類、学力試験 「英語」、個人面接 試験を総合して選考	29. 12. 25(月) ~30. 1. 11(木)	30.1.27(土)	30.2.2(金)
博士課程	一般入試	社会人	博士課程 全領域で 4名	出願書類、学力試験 「英語」、論文、個人 面接試験を総合して 選考	29. 12. 25(月) ~30. 1. 11(木)	30. 1. 27(土)	30.2.2(金)

[※]修士課程・博士課程とも平成30年度の周手術医療安全学領域の募集は行わない。

〇今後の予定について

平成30年3月3日(土)修士論文および博士論文報告会開催

【6. 東が丘・立川看護学部からのお知らせ】

〇音楽サークル「ダ・カーポ」のウィンターコンサートについて

・本学の音楽サークル「ダ・カーポ」(14名)によるウィンターコンサートが12月26日(火) 16時から東京医療センター1階外来ホールで行われ、患者さんをはじめ約100名もの多く の方にお越しいただきました。ウィンターソングをメインに演奏を行い、時折合唱も交えて8曲 の演奏を行いました。千と千尋の神隠しメドレーや美女と野獣メドレーの演奏は、年齢問わず 多くの人が大変喜ばれておりました。終了後も、観客の皆様から大きな拍手をいただき大盛況の うちに終了いたしました。

○平成30年目黒消防団始(はじめ)式に本学学生(消防団員)が参加しました。

- ・1月14日(日)、目黒区民センター(目黒区)において消防団始式に本学学生(消防団員)22名が参加いたしました。
- ・目黒区長、目黒消防署長のご臨席のもと、昨年1年間の消防団の行動記録がDVDで放映され、本学学生(消防団員)の活発な活動状況が数場面に渡り披露されました。

【7. 大学院看護学研究科からのお知らせ】

○大学院看護学研究科の概況(30.1.1 現在)は、次のとおりです。

大学院看護学研究科 修士課程(入学定員30名)

(名)

	1 年次(M 1)	2年次(M2)	合 計
高度実践看護コース	1 8	1 8	3 6
高度実践助産コース	1 0	9	1 9
[助産師免許取得プログラム]	[8]	[6]	[14]
[助産師(有資格者)プログラム]	[2]	[3]	[5]
看護科学コース	1	4	5
숌 計	2 9	3 1	6 0

大学院看護学研究科 博士課程(入学定員2名)

(名)

1 年次(D 1)	2年次(D2)	3年次(D3)	合 計
4	2	2	8

○大学院看護学研究科入学試験実施結果について

- ・平成30年度大学院看護学研究科入学試験の実施結果は次のとおりです。
- ・修士課程高度実践看護コース(定員20名程度)

(名)

	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
第1次募集	1 1	1 1	1 0	1 0
第2次募集	2	2	2	2

・修士課程高度実践助産コース(定員10名程度)

	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	入学予定者のうち 助産師プログラム
第1次募集	1 3	1 2	9	9	1
第2次募集	0	0	0	0	0

・修士課程看護科学コース(定員若干名)

(名)

(名)

	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
第1次募集	3	3	1	1
第2次募集	0	0	0	0

•博士課程(定員2名)

(名)

	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
第1次募集	2	2	2	2

• 看護学研究科入試総括表

(名)

課程	コース	募集人員	入学予定者
	高度実践看護コース	2 0 名程度	1 2
修士課程	高度実践助産コース	10名程度	9
	看護科学コース	若干名	1
	計	3 0	2 2
博士課程		2	2

※修士課程は募集定員(30名)を満たしていないため、次のとおり3次募集を行います。 (博士課程は募集定員を満たしているため行いません。)

大学院看護学研究科第3次入学試験

募集定員:修士課程 10名程度(コース全体で)

出願期間:1月29日(月)~2月13日(火)

試 験 日:2月17日(土) 合格発表:2月23日(金)

〇臨床教授会について

・看護学研究科高度実践看護コースの各実習病院で、次のとおり臨床教授会を開催いたしました。 臨床教授会においては、実習病院の臨床教授等と実習内容についての意見交換等を行っており、 今後の実習に役立てることといたしております。

11月28日(火) 東京医療センター

11月30日(木) 東京病院

12月 5日(火) 災害医療センター

【8. 助産学専攻科からのお知らせ】

〇助産学専攻科分娩実習について

- ・昨年7月から12月にかけて、東京大学医学部附属病院、総合母子保健センター愛育病院、東京慈恵会医科大学附属病院、稲城市立病院、荏原病院、湘南藤沢徳洲会病院、新百合ヶ丘総合病院、新横浜母と子の病院、東峯婦人クリニック、沖縄県立北部病院及び助産院において19名の学生が各10例の分娩介助(190例)を行うことができました。2月27日(火)には、実習先の臨床指導者の方々との実習協議会を開催し、次年度に向けての発展的交流を図る予定です。
- ・妊娠中から分娩介助、産後1か月健診・家庭訪問まで受け持つ長期継続事例は、日曜・祭日・ 夜間も病院に駆けつけるなど、全学生が対象と密に関わり学習を深めました。その学習成果に ついて個々の学生が研究視点も踏まえて振り返り、1月26日(金)に学内で開催した事例研究 発表会において、学びの集大成として発表しました。
- ・東峯婦人クリニックにおいて、集団への健康教育として、実際の妊婦及びご家族様を対象とした 母親学級・両親学級を実施することができ、学生には大変貴重な経験となりました。 妊産婦、実習先の病院及び助産院の皆様の御指導及びご協力に、心より感謝申し上げます。
- 〇昨年11月11日(土)に本学において、新生児蘇生(Aコース)の講習会を開催しました。 当日は、NTT東日本関東病院1名、外部病院4名と本学専攻科生19名が参加し、講習会及び 認定試験を実施しました。今後も継続して開催する予定です。
- 〇受胎調節実地指導員の資格認定のための講義演習は2月に予定されています。 3月20日(火)の助産学専攻科修了式において、受胎調節実地指導員の修了書も授与されます。

【9. 感染制御学教育研究センターからのお知らせ】

〇平成30年度感染制御学企業人支援実践講座

企業等で感染制御に関する業務に携わっている方々を対象として、専門的知識をさらに深めていただき、併せて、感染制御学に関する最新の情報や病院現場の取り組み状況などを知っていただくため平成25年度より感染制御の関連企業に従事する企業人を対象に「感染制御学企業人支援実践講座」を開講しています。

平成30年度募集概要は次のとおりです。

募集人員:10名程度で先着順(5名より開講)

応募資格:企業等において5年以上業務に従事した経験を有すること。

応募期間:平成29年12月4日(月)~2月23日(金)必着

※応募方法等は本学ホームページでご案内しています。



【 編集後記 】

本格的な寒さが到来する中、東京では34年ぶりに8日連続で氷点下を記録し、先日降った雪が溶けずに残っている場所が多くあります。今後もまた雪予報が出ておりますので、授業や定期試験、入試業務に影響がないことを願っております。また、本号は本年度最後のトピックスとなりました。今年度、原稿作成にご協力いただいた皆様ありがとうございました。次年度もよろしくお願いいたします!(企画部:編集担当)

(表12) 科学研究費の採択状況

学部・研究科等	科 学 研 究 費								
	2012年度			2013年度			2014年度		
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100
医療保健学部	20	5	25.0	17	6	35. 3	19	5	26. 3
東が丘・立川看護学部	6	2	33. 3	5	1	20.0	8	3	37. 5
計	26	7	26. 9	22	7	31.8	27	8	29. 6

			科 学 研	开 究 費			
学部・研究科等		2015年度		2016年度			
1 HA WINETI (1	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	
医療保健学部	23	5	21.7	23	7	30. 4	
東が丘・立川看護学部	11	5	45. 5	10	0	0.0	
計	34	10	29. 4	33	7	21. 2	

- [注] 1 教員、助手が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入してください。
 - 2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないでください。

(表13) 学外からの研究費の総額と一人当たりの額(2016年度)

学部・研究科等	専 任 教員数	科学研究	費補助金	その他の旨	Δ -1	
		科学研究費補 助金総額(A)	うちオーバーヘッドの額	その他の学外研究費総額 (B)	うちオーバーヘッドの額	合 計 (A+B)
医療保健学部	83	20, 073, 822	4, 632, 420	5, 875, 000	851, 000	25, 948, 822
東が丘・立川看護学部	67	11, 570, 000	2, 670, 000	2, 402, 963	286, 296	13, 972, 963
合 計	150	31, 643, 822	7, 302, 420	8, 277, 963	1, 137, 296	39, 921, 785

- [注] 1 教員が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入してください。
 - 2 2016年度の実績をもとに作表してください。したがって「専任教員数」欄にも、2016年度の人数を記入してください。
 - 3 「その他の学外研究費」には、科研費以外の政府もしくは政府関連法人からの研究助成金、民間の研究助成財団等からの研究助成金、奨学寄付金、受託研究費、共同研究費などが該当します。

東京医療保健大学医療保健学部自己点檢 • 評価委員会規程

(趣旨)

第1条 東京医療保健大学は学則に基づき、本学全体の教育研究水準の向上を 図り、その目的及び社会的使命を達成するため、本学に東京医療保健 大学医療保健学部自己点検・評価委員会(以下「委員会」という。)を 置く。

(任務)

第2条 委員会は、本大学の教育研究に関する全学の活動状況並びに組織、施設・設備、運営の状況等について、全学的観点に立って自己点検・評価を行い、その結果を公表する。

(構成)

- 第3条 委員会は、次の者をもって構成する。
 - (1)大学経営会議にて任命する専任教員
 - (2)大学経営会議室長
 - (3)事務局長
 - (4)企画部長
 - (5)教務部長
 - 2 前項1号の委員の任期は、1年とする。但し、再任を妨げない。 (審議事項)
- 第4条 委員会は別に定める自己点検項目に則り、次の事項を審議する。
 - (1)自己点検・評価の実施方法
 - (2) 自己点検結果の分析
 - (3) 自己点検結果に基づく改善策
 - (4) 自己点検・評価結果の公表に関する事項
 - (5)「第三者評価制度」に係る事項 学則第5条による文部科学大臣の認証を受けた「認証評価機関」 による評価を受けることに係る事項
 - 2 委員会は自己点検・評価報告書を大学経営会議に提出するとともに、 大学経営会議の審議内容に応じ課題等の整理を行う。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、大学経営会議にて任命する。

(情報の積極的な公開)

第6条 委員会は自己点検・評価の内容を刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的にその情報を公開するものとする。

(議事)

- 第7条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
 - 2 委員会は、委員総数の2分の1以上の委員の出席をもって成立し、出 席委員の過半数をもって議決する。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、企画部が行う。

(自己点検項目)

- 第9条 自己点検項目は次のとおり。
 - 1. 大学の理念・目的及び学部等の使命・目的・教育目標
 - 2. 教育研究組織
 - 3. 学士課程の教育内容・方法等
 - 4. 学生の受入れ
 - 5. 教員組織
 - 6. 研究活動と研究環境
 - 7. 施設・設備等
 - 8. 図書館及び図書・電子媒体
 - 9. 社会貢献
 - 10. 学生生活
 - 11. 管理運営
 - 12. 財務
 - 13. 事務組織
 - 14. 自己点検・評価
 - 15. 情報公開・説明責任
- 附 則 この規程は、平成17年 4月 1日から施行する。
 - この規程は、平成19年12月19日から施行する。
 - この規程は、平成22年12月8日から施行する。

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部自己点検・評価委員会規程

(設置)

第1条 学則第4条に基づき、東が丘・立川看護学部の教育研究水準の向上を 図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員 会(以下「委員会」という)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は次の者をもって構成する。
 - (1) 大学経営会議において任命する教員。
 - (2) 大学経営会議室長、事務局長及び東が丘・立川看護学部等事務部長。
 - (3) 学部長は必要に応じ出席することができる。
 - (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外のメンバーを出席させ、意見等を聴取することができる。

(審議事項)

- 第3条 委員会は次の事項を審議する。
 - (1) 自己点検・評価の実施方法。
 - (2) 自己点検・評価の分析。
 - (3) 自己点検・評価結果に基づく改善に関すること。
 - (4) 自己点検・評価結果の公表に関すること。
 - (5) 第3者評価に関すること。
 - (6) その他。
 - 2 委員会は自己点検・評価報告書を大学経営会議に提出するとともに 大学経営会議の審議内容に応じ課題等の整理を行う。

(委員長等)

- 第4条 委員会には委員長及び副委員長を置く。
 - 2 委員長及び副委員長は、大学経営会議において任命する。

(議事)

第5条 委員長は委員会を招集し議長となる。

(開催日)

第6条 委員会は、原則として月1回開催する。

附則

本規程は平成22年12月8日から施行する。

- 1. 本規程は平成26年4月1日から施行する。
- 2. 東が丘看護学部は、学部名の変更に伴い東が丘・立川看護学部となった。

平成 29 年度 東京医療保健大学点検・評価報告書WGメンバー

(医療保健学部 自己点検・評価委員会)

委員長篠木絵理(看護学科教授) 委員谷本真理子(看護学科教授) 三舟隆之(医療栄養学科教授) 鈴木礼子(医療栄養学科教授) 小杉尚子(医療情報学科准教授) 大野博之(医療情報学科助教)

(東が丘・立川看護学部 自己点検・評価委員会)

委員長高木晴良(看護学科准教授) 副委員長中島美津子(看護学科教授)

(大学院 医療保健学研究科)

菅 原 えりさ (医療保健学研究科 教授)

(事務局)

馬 場 剛 (事務局長・企画部長)

木之下 英 二 (教務部長)

利 光 重 信 (東が丘・立川看護学部等事務部長)

東京医療保健大学医療保健学部 FD 委員会規程

(設置)

第1条 東京医療保健大学の教職員の資質の維持向上を図るため、医療保健学 部FD委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、授業内容・方法の改善を図るとともに、教員個々人の教育力・研究力の維持向上を図る。さらに、大学運営に対する意識の啓発や学生支援のあり方等に関する研修会等を実施し大学教員としての専門的な能力を高めることを目的とする。

(構成)

- 第3条 委員会は、次の者をもって構成する。
 - (1)大学経営会議で任命する専任教員
 - (2)大学経営会議室長
 - (3)事務局長
 - (4)教務部長
 - (5) 企画部長

(審議事項)

- 第4条 委員会は次の事項を審議立案する。
 - (1)授業内容・方法の改善
 - (2)研究推進体制の整備
 - (3) 各種研修会、研究会の実施
 - (4)外部研究費の導入の推進
 - (5)職員研修会等の実施
 - (6) その他 FD に関する事項

(委員長)

- 第5条 委員会に委員長を置き、大学経営会議にて任命する。 (事務)
- 第6条 委員会に関する事務は、企画部が行う。
- 附 則 この規程は、平成17年4月1日より施行する。
 - この規程は、平成18年2月15日より施行する。
 - この規程は、平成22年12月8日より施行する。

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部FD委員会規程

(設置)

第1条 東が丘・立川看護学部の教職員の資質の維持向上を図るため、東が丘・ 立川看護学部FD委員会(以下「委員会」という)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は次の者をもって構成する。
 - (1) 大学経営会議において任命する教員。
 - (2) 大学経営会議室長、事務局長及び東が丘・立川看護学部等事務部長。
 - (3) 学部長は必要に応じて出席することができる。
 - (4) 委員長が認めるときは、委員以外のメンバーを出席させ、意見等を聴取 することができる。

(審議事項)

- 第3条 委員会は次の事項を審議する。
 - (1)授業内容・方法の改善。
 - (2) 研究推進体制の整備。
 - (3) 各種研修会、研究会の実施。
 - (4) 外部研究費の導入の推進。
 - (5) 職員研修会等の実施。
 - (6) その他 F D に関すること。

(委員長等)

- 第4条 委員会には委員長及び副委員長を置く。
 - 2 委員長及び副委員長は、大学経営会議において任命する。

(議事)

第5条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

(開催日)

第6条 委員会は、原則として月1回開催する。

附則

本規程は平成22年12月8日から施行する。

- 1. 本規程は平成26年4月1日から施行する。
- 2. 東が丘看護学部は、学部名の変更に伴い東が丘・立川看護学部となった。

東京医療保健大学医療保健学部学生委員会規程

(設置)

第1条 東京医療保健大学医療保健学部における学生生活に関する事項を審議立案するため、 医療保健学部学生委員会(以下、「委員会」という)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
 - (1) 大学経営会議で任命する専任教員
 - (2) 教務部長
 - (3) 学生支援センター長
 - 2 委員会に委員長を置く。委員長は大学経営会議にて任命する。
 - 3 第1項第1号の委員の任期は2年とする。

(審議事項)

- 第3条 委員会は、次の事項について審議立案する。
 - (1) 学籍異動に関する事項
 - (2) 学生の賞罰に関する事項
 - (3) 学生の福利厚生に関する事項
 - (4) 課外活動に関する事項
 - (5) 奨学金に関する事項
 - (6) その他、学生生活に関する事項

(事 務)

第4条 委員会に関する事務は、学生支援センターで行う。

- この規程は、平成17年10月1日から施行する。
- この規程は、平成22年12月8日から施行する。

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部学生生活支援委員会規程

(設置)

第1条 東が丘・立川看護学部の教育の質的向上に向けて、学生の生活全般に 関した支援体制を整えるため、東が丘・立川看護学部生活支援委員会 (以下「委員会」という)を設置する。

(構成)

- 第2条 委員会は次の者をもって構成する。
 - (1) 大学経営会議において任命する教員。
 - (2) 学生支援センター長、教務部長及び東が丘・立川看護学部等事務部長。
 - (3) 学部長は必要に応じて出席することができる。
 - (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外のメンバーを出席させ、意見 等を聴取することができる。

(審議事項)

- 第3条 委員会は次の事項を審議する。
 - (1) 生活支援(学生相談・健康管理・奨学金)に関すること。
 - (2) 学生便覧に関すること。
 - (3) 課外活動、学友会活動に関すること。
 - (4) 大学祭に関すること。
 - (5) その他。

(委員長等)

- 第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。
 - 2 委員長及び副委員長は、大学経営会議において任命する。

(議事)

第5条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

(開催日)

第6条 委員会は、原則として月1回開催する。

附則

本規程は平成22年12月8日から施行する。

- 1. 本規程は平成26年4月1日から施行する。
- 2. 東が丘看護学部は、学部名の変更に伴い東が丘・立川看護学部となった。

29.7.19 学科長会議

平成28年度授業評価結果に基づく学長顕彰について

私立大学等改革総合支援事業への申請に対応する授業の改善を図るための制度的な取組みの一環として、平成28年度に実施した学部学生に係る授業評価結果のうち、各学部各学科の授業科目(講義・演習科目または実習・実験科目)において評価が最も高得点であった各学科教員(本年3月末退職者は除く)18名に学長顕彰を実施し、もって教員の教育力の向上に資することといたします。複数の教員が担当する場合は、科目担当責任者のほか担当教員についても顕彰します。

なお、講義・演習科目については 18 の質問項目、実習・実験科目については 13 の質問項目の総得点(各項目 5 段階評価)に対して 1 項目当たりの平均得点を 算出し(小数点以下 3 桁まで)、その最高得点であった教員を顕彰します。 また、履修者数が 10 名以下の科目については対象外としております。

1. 講義・演習科目における学長顕彰受賞者

!	学部・学科	職位	氏名	科目名	必修·選択	年次	履修者数
		准教授	島田 多佳子				
	 看護学科	教授	横山 美樹	 基礎看護援助方法Ⅱ	必修	1年	115
医废	有碳 十 件	教授	末永 由理		化剂	1 4-	113
保保		講師	安藤 瑞穂				
医療保健学部	 医療栄養学科	教授	 豊田 英敏	家族社会学	選択	2.4年	15
пþ	区 原不设于17	秋	豆山 大敬	(医療栄養·医療情報)	选扒	2. 4 4	10
	医療情報学科	助教	杉田 純一	医用画像処理工学	選択	3年	35
		准教授	穴沢 小百合	│ │ 看護実践技術論 Ⅱ			
東がE	丘・立川看護学部	教授	松山 友子	(治療・処置における	必修	1 年	113
	看護学科	助教	高橋 智子	援助技術と判断)	.= .=		

2. 実習・実験科目における学長顕彰受賞者

	学部・学科	職位	氏名	科目名	必修·選択	年次	履修者数
医療保健学部	看護学科	教授 准教授 講師 助教	廣島 麻揚 秋山 美紀 林 世津子 阿達 瞳	精神看護学実習	必修	3.4年	108

:	学部・学科	職位	氏名	科目名	必修·選択	年次	履修者数
医療保	医療栄養学科	准教授	北島 幸枝 応用栄養学実習 Ⅱ		選択	3年	25
医療保健学部	医療情報学科	准教授 助教	瀬戸 僚馬西大 明美	病院実習	選択必修	3年	41
東が£	・立川看護学部 看護学科	教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教	松山 友子 穴沢 小百合 高橋 智子 中村 裕美 加藤 江里子	日常生活援助展開実習	必修	1年	113

(参考) 平成28年度 授業評価結果による得点について

	講義・演習(18項目 90点満点)			実習・実験(13項目 65点満点)			
学科	最高得点	最低得点	1項目の	最高得点	最低得点	1項目の	
J 1-1	איי ניו ניוואד	W () (2) YE	平均得点	M to talke	M D C L	平均得点	
看護学科	85. 42	59. 16	4. 125	61. 99	51. 91	4. 522	
医療栄養学科	88. 78	63. 89	4. 146	64. 44	43. 76	4. 349	
医療情報学科	89. 01	54. 25	3. 823	59. 99	50. 86	4. 273	
東が丘・立川	89. 00	55. 77	4. 277	63. 12	55. 05	4. 582	
看護学部	00.00	00.77	4. 277	00.12	00.00	4. 002	

全科目の平均得点 1項目平均得点

(医療保健学部)

講義・演習の平均得点

73. 52

4.084

実習・実験の平均得点

56. 17

4. 321

全科目の平均得点 1項目平均得点

(東が丘・立川看護学部)

講義・演習の平均得点 76.67

4. 242

実習・実験の平均得点 59.57

4. 582

※平均得点は、10名以下の科目、退職者の科目すべての合計した得点。

29.10.4

在学生、教職員 各位

学長 木村 哲

平成 28 年度授業評価実施結果について

本学では、教育の質の向上を図るため、皆さんのご協力のもと全科目について授業評価を実施しておりますが、このたび平成 28 年度の実施結果がまとまりましたのでご報告いたします。

在学生の皆さんから提出していただいた授業評価については、各科目の担当教員が 1 枚ずつ目を通してその感想及び授業への工夫等をまとめた上で、各学科長等に おいて整理願ったものを公表するとともに、授業評価実施結果についての概要及び 質問項目別集計結果等についても公表いたします。

なお、平成 29 年度においては昨年度に引き続き、授業の改善を図るとともに教員の教育力の向上に資するための制度的な取り組みの一環として、平成 28 年度に実施した学部学生に係る授業評価結果に基づき、各学部各学科の授業科目(講義・演習科目または実習・実験科目)において評価が最も高得点であった各学科教員合計 18 名に対して新たに学長顕彰を実施いたしました。

本学では授業評価実施結果を生かして授業内容・方法の創意工夫を行うなど、今後も 教育の質の向上に努めることといたしますので、よろしくお願いいたします。

平成 28 年度 医療保健学部看護学科の授業評価結果に対する考察

副学長・医療保健学部看護学科長 坂本 すが

1. 授業評価の結果について

- 授業・実習ともに比較的高い評価を得られており、これからも学生の意欲に応え、 取り組みを支援する授業を提供したいと思います。
- 少数ではありますが、評価の低い回答がありました。今年度は新カリキュラム導入後 2 年目を迎えますが、新カリキュラムは全学年に適用されていないこともあり、満足度や学習意欲に差が見られます。今後は、学生自身が主体的に学習できる教育方法をさらに取り入れ、学科全体で改善・工夫を重ねていきます。

2. 授業において工夫した点について

- 基礎実習では、往還型の学習システムを取り入れていますが、学習の順序を考慮 しながら、実習で活用できる実践的な資料を作成するなど、教材も工夫しました。 評価は追って行っていきます。
- 学生が明確な目標をもって学べるように、ルーブリック表を用いて評価を行いま した。縦軸に学習内容と評価の視点、横軸に到達度を明示し、多くの教員が同じ 視点で、公平に評価できるように工夫したものです。
- また、学生にも公表されていることから、学生自身も目標が明確にでき、教員と 目標を共有しながら進めていける評価システムだと考えています。
- 今後、基礎領域で継続的に評価・改善をしながら、全領域に導入できるかどうか、 検討していきたいと考えています。

3. 今後の授業への生かし方について

- 新カリキュラムは導入後 2 年目ですが、学生からの評価を真摯に受け止め、改善していきたいと考えています。
- 特に、今後も重点をおくのは、学生が主体的に学ぶことです。学生の関心を引き出し、主体的な取り組みを促進するために、グループダイナミクスの活用や、学生のモチベーションに働きかける工夫、教材やテーマなどを工夫していきます。
- 具体的には、小テストや中間テスト等のフィードバックを充実させるほか、 よりリアルな体験ができるように、今後は、授業における患者の参加(模擬患者など) も検討していきたいと思っています。

4. その他

- 今回、良い評価をいただいた項目については、今後も継続しながら、興味のわく 授業になるよう、内容の更新や改善を重ねていきます。
- 厳しい評価をいただいた項目については、学生の現状の能力や多様なニーズに対応 できるプログラムや資料を作成し、授業内容をわかりやすく伝える等、支援体制を 検討していきたいと考えています。
- 〇 また、社会の変化が激しい時代、未来を担っていく学生が、さらなる未知の課題を 乗り換えるために必要な力を身に付けられるよう、教員自らも「先を見る力」を 養い、学生を支援していく必要があると考えています。

平成 28 年度 医療栄養学科の授業評価結果に対する考察

副学長·医療保健学部医療栄養学科長 小西 敏郎

医療栄養学科では、社会で活躍できる優れた管理栄養士の育成を目指し、 卒業時には学生全員が管理栄養士国家試験に合格できることを目標に授業を 行っています。そのために、学科の教員全員が、毎年学生の皆さんからいただ く授業評価を参考にして、それぞれが授業の改善・工夫の努力をしています。

本年度の評価をまとめると、多くの授業は非常によい評価を受けているので、 学生の多くは集中して授業に取り組めたものと判断しています。しかし、厳し い評価の授業もあり、また具体的な問題点や改善希望の指摘も多くいただいた ので、授業改善のためにさらなる努力を重ねていく必要があると考えています。 以下に教員の主な意見をまとめました。

1. 授業評価に関しての感想

厳しい評価を受けた授業だけでなく、よい評価を受けた授業も、教員はさらなる改善に取り組んでいます。全体的な評価点数だけでなく、個々の学生の意見も参考にして、学生が何を授業に期待しているか、どのような点を不満に感じているかを判断しながら、来年度以降の授業改善を図っていきたいと考えています。そして、学生の皆さんが教員に対して、授業中に感じた不満点を指摘したり、あるいは改善希望点を具体的に提案できるように、教員も努力したいと思います。

2. 授業において工夫した点について

これまで少なかった「アクティブラーニング」をもっともっと取り入れる必要があると、ほとんどの教員は感じており、授業の中に学生参加型スタイルを取り入れるように改善しています。ミニテストや宿題形式で、前回の授業のまとめを次回の授業の冒頭に行っている教員が増えていますが、その際に、ミニテストの解答を学生がプレゼンテーションすることで、学生参加型の機会を増やす工夫をしています。また、東京都食育フェアにクラス全員が参加するように改善したり、授業中に Q&A 形式の講義で学生が発言する機会を設ける工夫も行っています。

これまでスライドよりも板書を重視した授業を行ってきた教員もいますが、「字が読み難い」「内容が理解しにくい」「ノートがとりにくい」との投書が多いことから、スライドとプリント配付に切り替えることが多くなっています。またプリントは重要な部分を空白にして、授業中に学生自身が書き込むようにすることや、重要箇所はカラーや太字とすることなどで、学生の注意力・集中力を高めるようにしています。

毎回の授業にミニテストを取り入れて、前回の授業を復習できるようにしている教員が増えていますが、なかにはミニテストに、学生からの質問や希望を

学生が書き込める欄をつくり、次回の授業でそれをとりあげることで、より多くの学生が重要点が理解できるように改善を図っています。授業によっては、授業の終わりに「まとめ」を行うことで、学生の理解度が増してきているように感じている教員もいます。このように授業ごとに講義内容を整理する方法を変えていく工夫を取り入れています。

3. 今後の授業について

今年度の新学年から新カリキュラムによる授業が開始されました。今後、 科目間の流れもよくなり、授業展開も大きく改善されていくことと思います。

自由記載で「レジュメがわかりやすかった」という意見もありました。 しかし、「字が小さい」あるいは「背景が黒のスライドのプリントでは字の 書き込みが難しい」との意見もいただきました。また教員によっては、自由 記載欄で「テンポの良い授業なので集中できた」「楽しく授業を受けることが できた」とよい評価を受けた反面「スライドの切り替えが早い」「レジメの字が 小さく読み難い」などと逆に厳しい意見もありました。このような場合は、 今後ノートを書き写す時間にも配慮したり、レジメの内容を改善・工夫して いきたいと教員は考えています。評価が低い、あるいは厳しい指摘の項目に ついては、反省して改善し、来年以降の授業計画や授業展開に積極的に反映 していきます。

多くの教員は、同じ授業を同じように行っても、学年やクラスによって学生の授業中の態度や授業に対する評価が異なることが少なくないと感じています。 学年、クラスによって学生の傾向や雰囲気が異なることが今回の評価を分析 してもよく理解できました。これからは、年度ごとに、あるいはクラスごとに、 授業中の学生の状態や反応を見極めて、同一の授業方法ではなく、授業展開を 変えていく工夫をいたします。

また基礎学力が足りないことから授業の理解が不十分で不満をもつ学生がいるのも確かなので、そのような学生を早く見出し、できるだけ多くの学生が理解できるような授業方法を考えていきたいと、多くの教員は考えています。

4. 学生に対して

授業中に私語を交わす、居眠りする学生が少なくありません。「授業がつまらない」「わかりにくい」「専門すぎる」「なぜこの授業が自分に必要なのかわからない」などが理由と思われます。教員も学生がもっと熱心に授業を受けるようになればと授業の改善を考えていますので、学生も具体的な改善点の希望があれば教員に伝えるようにしてほしいと思います。

能力、意欲に大きく個人差のある学生諸君に対して、学ぶことの楽しさや 学び方に学生が興味を持って取り組めるように、教員全体が熱意をもって授業 改善に努めて取り組んでいます。学生諸君は、それをよく理解して、授業中に 自分が理解できないことがあれば、自ら質問し、不満があればその都度教員に 伝えてもらいたいと思います。むしろ教員から学生諸君に質問はないか問い かけても反応がないことが多いので、もし、授業中に質問するのは恥ずかしい、 気後れがするようならば、授業終了後でも構わないので、どんどん質問し、 また意見を述べてほしいと思います。

平成 28 年度 医療情報学科の授業評価結果に対する考察

副学長·医療保健学部医療情報学科長石原 照夫

1. 授業評価結果アンケート結果の感想

- 本学科の場合、多くの科目で各評価項目の得点が全科目平均よりも低い評価になっています。この結果は、真摯に受け止め、各科目で分析・検討し、今後の授業計画に反映させていきたいと思います。
- これまでの授業評価結果に基づいて、講義内容の変更や講義方法の改善に 努めた科目の中には、必ずしも学生による評価の向上につながっていない ものがあります。この点については更なる改善に取り組んでいきたいと思い ます。
- 2 クラス展開の授業では、授業内容が同じにもかかわらず、評価がクラスによって異なる結果がみられています。クラス毎の学生の理解度をチェックしながら、きめ細かな講義の調整が必要と感じました。
- 複数科目を担当している教員の場合、科目によって評価が大きく異なるものが見受けられます。各教員においてその背景(教員の得意分野か否か、科目特性にあった講義方法を行っているか否か、学生の理解度のチェックは十分か等)を分析して、改善に結びつけていきたいと考えます。
- 重要項目が不明の配付資料があるとの指摘を受けました。科目によって資料 配付の目的が異なると思いますが、授業中にその配付の目的を説明すると 同時に、分かりやすい資料の作成に努めるようにいたします。
- 1 年次、2 年次の臨床医学総論・各論等の医学的な内容に関する科目の評価が低くなっています。また、これらの科目については、特に私語が多く、授業環境が悪く、その対応を求める意見が多く見られます。授業内容のレベル(専門的な内容)、一方向的な座学中心であることにその一因があると思います。

将来、実際に患者を診療することになるのであれば、積極的なアクティブ・ラーニングの活用を考えますが、医学・医療の現場を知る、診療録の内容を理解できるようにするということに到達目標が設定されると、最初の段階ではどうしても知識中心の座学にならざるを得ない面があるかと思います。医学においては反復学習が重要ですが、本学科の科目構成もその配慮がなれ、これら科目の内容は応用臨床医学、診療情報論演習、医療管理総論った観点からの授業が組まれています。また、これらの科目ではアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れているものもあります。医療・医学に対する個々の学生の関心の程度にはむらがあることから、専門的内容に偏対する個々の学生の関心の程度にはむらがあることから、専門的内容に偏対なるの学生の関心の程度にはむらがあることから、専門的内容に偏は網羅的でなく、ポイントを絞った、ゆったりした講義を検討していきたいと表えます。また、私語については、集中力が途切れないような授業を工夫しますが、注意喚起も厳しく行いたいと思います。ただ、他の科目でも私語が問題となっているものがあり、推移によっては、学科としての統一した対応を考えたいと思います。

- 患者シミュレータや教育用電子カルテ等の整備を行い、アクティブラーニングを行いやすい環境にした科目では、学生評価は例年同様平均的なものでした。原因を分析しつつ、改善に努めていきたいと思います。
- 情報系の科目では、例えば情報ワークショップⅡのように新しい技術について講義をする時に内容をどのレベルに設定すればよいのか、判断が難しい点があります。28 年度は多くの学生に理解してもらうために、一定レベルに内容を設定し、教材を選択しましたが、満足できない学生が多い結果になってしまいました。今回の授業結果で平均的なレベルが把握できましたので、次年度から修正したいと考えています。

2. 授業において工夫した点について

すべての科目に共通した工夫は行っていませんが、科目の特性を考慮に入れ、 各担当教員によって次のような工夫を行いました。なお、平成 28 年度入学生 からは新カリキュラムを導入し、体験型学習を増加させています。

- 〇 自学自習のための工夫
 - ・デスクネッツに事前・事後学習を準備したこと(医療情報総合演習 II)。
 - ・演習問題を多くして、自学自習のための素材を提供、予習の習慣をつける ために予習テストを実施(プログラミング演習 I)。
 - ・過去の講義の配付資料と講義動画を閲覧できるように「講義アーカイブ」 サイトを設置(情報システム開発論)。

〇 授業内容の工夫

- ・講義の最初に授業に期待するもの、情報関連の知識、将来の就職について のアンケートをとり、その結果を授業に反映(地域医療情報システム論)。
- ・病院での経営管理部門の責任者による講演と見学(医療産業研究)。
- ・就職試験のグループ面接に備え、グループでの議論や即興的表現の練習 (キャリア教育 II)。
- ・実験科目では実験前に、内容の理解を進めるために演習問題を追加。
- ・資格試験に対応した授業では、講義を 30-60 分とし、演習主体の授業としたこと(応用医療管理学)。
- ・診療情報管理士認定試験対応の授業では、過去問が公開されていないので、 受験した学生から聞き取った問題について小テストに取り込んだり、解説 を行ったこと。
- ・患者シミュレータを用いた電子カルテ記載体験のブラッシュアップを行い、 会話の記録を取りやすくするため部分的に合成音声を採用(医療情報総合 演習 IV)。
- ・DPC の公開データを用いた演習(医療情報総合演習 IV)。
- ・病院実習では、クリティカルパス委員会を実習引き受け部門とする新たな 形態の実習を導入。
- ・医学系の授業では、理解しやすいように病態生理をできるだけ図表化。
- ・配付資料に穴埋め箇所やメモを取るスペースを設けたこと(情報システム開発論)。
- ・グループ毎の演習の進捗状況に差がでず、落ちこぼれがでないようにする ため、PC での操作や分析方法、背景などを細かくマニュアル化したこと (生体情報演習 I)。

- ・学びを共有することで主体的な学びが広がるようにシィンク・ペア・ シェア法を導入(データベース論)。
- 学生の理解度等のチェックと対応
 - ・提出課題に対してのコメントの充実(情報システム開発論、IT入門)。
 - ・学生の集中時間が短いクラスでは、小テストの回数を増加(英会話)。
 - ・重要項目について授業終了時にミニテスト・レポートを課し、全学生の理解度を評価し、次回授業で理解が不十分な点を重点的に復習するようにしたこと(臨床医学総論、臨床医学各論 I・II・V)

3. 今後の授業にどう生かすか

- 全科目において、授業開始時に他の科目との関連性をより明確化したいと 考えています。
- 対外活動(学会、国際モダンホスピタルショウ等への参加)は、学生にとって 重要な課外学習と考えています。その場合の授業振替が負担をもたらすこと も起こりえますので、他の科目とも調整して負荷がかからないようにして いきたいと考えます。
- キャリア教育 II では就職活動での企業選択やインターンシップでのグループワークでも活用できる内容を加えていきます。
- 医療産業研究では医業経営コンサルタントの資格試験の対策の一環として、 概念の理解を深めるために財務分析シミュレーションや TMQ 演習などを実施 したいと考えています。
- O DPC 公開データを用いた演習では、学生ならではの新鮮な視点からの分析が みられ、有意義な演習だったと思われますので、今後もこのような医療 ビッグデータを用いた演習を増やしていきたいと考えています。
- 医療情報の重要な源の一つである診療記録を通じ人体の構造・機能や病態 生理を考え、診療情報の奥深さに興味を持てるように支援していくように したいと思います。
- 病院実習は学生にとって貴重な体験と考えていますので、今後も多様な実習 形態を開拓し、学生のニーズに合った実習ができるよう取り組んでいきたい と考えております。

4. その他

- 授業評価を次年度の授業に生かせるように、結果が早く(当該年度 3 月末) 出るようなアンケート法を考えて頂けたらと思います。授業の印象が残って いるうちに評価を頂くと、改善の取り組みも円滑になるように思います。
- 集計結果に、学科平均値、度数分布も知らせていただくと分析、改善策の検討に役立つのではないかと考えます。本学科の学生の各科目への意欲や意識には二極化の傾向がみられます。また、自由記述では「分かりやすかった」とあっても、各質問内容の評価では全科目平均よりも低くなっていることが少なくありません。高評価群と低評価群に値が分かれる二極分布なのか、平均値付近に値が集まっている正規分布なのか、分布とコメント内容とを合わせて改善の手がかりにしたいと考えています。また、各項目の結果をレーダーチャートなどを用いて表示して頂けると、比較も容易になると思いますので、ご検討いただけると有り難いです。

平成28年度 助産学専攻科の授業評価結果に対する考察

助産学専攻科長 坂本 すが

1. 授業評価に関しての感想

- 1)助産学専攻科の科目全体において 4.2 以上の評価であり、助産学実習全体の評価は 4.3 以上でした。学生が自ら評価する「意欲的に授業に出席したかどうか」の項目では、学生の出席率が高い点になっていました。学生にとってより重要である「授業内容がよく理解できたか」という評価も同様でした。
- 2) 幅広い知識や技術を得るために、医師や多分野の講師による授業展開、また、 授業の一環としてセミナーや学会に参加することなどを盛り込むことで 周産期医療の最新の動きを理解することに繋がっていると考えています。
- 3) 教員の姿勢については、助産診断・技術学 I・Ⅱなど、課題に対する症例検討やグループワーク、記録の方法などに関して、2年前に教員による指導の違いなどの指摘を受けました。今年度はそのような指摘はありませんでしたが、今後も学生が授業を理解し、分かる授業を目指していきます。

2. 授業において工夫した点について

- 1) 授業等では、授業と演習科目の連動を意識し、進行状況に合わせて具体的な 支援方法について教員間であらかじめ詳細にすり合わせをして授業に望む ことを継続しています。
- 2) 演習形式の授業は、学生の理解度が図れるように、デモンストレーションや 質問への対応などのため、複数の教員で対応しています。
- 3) 実習開始後に全体で帰校する日程を調整し、全学生に対して、臨地実習に おける実際例での分娩記録などの展開に関する問題や課題を検討し、施行の 訓練などを実施しています。分娩時の助産診断などの理解に繋いでいます。
- 4) 学生の実践力を高めるために、シナリオディベイトなどを導入して、実践の中から学生の聞く力や伝える力、考える力などの育成に反映させています。

3. 今後の授業について

授業や実習の評価を分析し、課題やグループワークの持ち方など、教員間での 授業や実習などの教育目標や指導方針を十分に共有してよい授業や教育が行え るように発展させていきます。

4. 学生に対して

助産学専攻科においては、大学を卒業し、すでに看護師の国家試験に合格し、 国家資格を持った方々を対象として助産師を育成しております。助産学の修得 には、大変な分娩介助実習等の壁を越えなければいけませんが、そのためにも 学生の皆さんには学びに対して自立した姿勢が求められます。今後、助産師と して自ら考え行動できる能力を培えるように一緒に頑張っていきましょう。

平成28年度授業評価実施結果についての概要

東京医療保健大学医療保健学部 助産学専攻科

- 〇本学では、毎年度全授業科目について学生による授業評価を実施しています。 この授業評価結果については当該教員に配布し、記述内容を確認した後、 調査結果に対する感想及び授業内容・方法への改善などの取り組みについて 記述したレポートを各教員から直接各学科長等に提出することとしており、 各学科長等は感想をまとめ学科長会議で報告した後、授業評価結果と併せて 公表しております。
- ○授業評価アンケートは、授業科目に対する評価をより正確に調査するため 「講義・演習科目」と「実習・実験科目」によって質問項目を分けております。 また「この授業(実習・実験)を受けて良かったと思うことがありますか。」 及び「この授業(実習・実験)の進め方等について改善を図るべき事項はありま すか。」について尋ねる記述式の質問を加えております。
- ○授業評価結果の各質問項目別の集計結果については、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」及び「無回答」のそれぞれの割合(%)により表記しております。また、自由記述については、「授業に対する肯定的評価」、「授業に対する要望等」及び「施設・設備等に関する要望等」について、その内容の主なものを表記しております。
- ○平成28年度の授業評価結果では「講義・演習科目」と「実習・実験科目」における共通質問項目について、肯定的な回答の「そう思う」及び「ややそう思う」の割合の前年度との比較でみるとポイントの高い順では、次のとおりです。

		前年度
・学生として、自分自身の授業態度について	81.7%	(81.2%)
・教員の姿勢について	76.4%	(76.6%)
・教員の教え方について	76.0%	(75.9%)
・授業内容について	75. 2%	(74.6%)

○授業評価結果の経年比較では、年度によって各項目のポイントに多少の増減が見られますが、授業評価実施の効果が確実に上がっており学生及び教員の 双方に、良い結果をもたらしていると評価することができます。

これらの集計結果を公表することにより、授業評価に対する理解推進・意識 啓発及び授業内容・方法の改善・充実がより一層図られるものと判断されます。

平成28年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学 医療保健学部・助産学専攻科

○全科目数 340科目

○調査対象者数 23,623人(延人数) ○総回答数 20,274枚(回答率 85.8%)

◆ 講義・演習科目及び実習・実験科目における共通質問項目別集計結果 〈上段()は平成27年度アンケート結果〉 〈質問項目番号の()は実習・実験科目における質問項目の番号である。〉

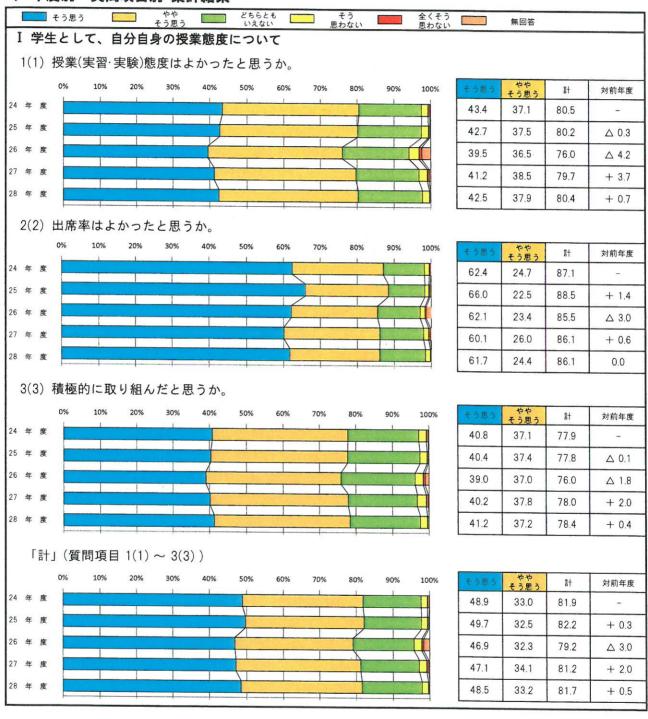
質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の授業態度について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1(1) 授業(実習・実験)態度はよかったと思うか。		(38.5)	(17.1)	(2.3)	(0.5)	(0.4)	(100)
(17) 及来(天日 天歌/ぶ及はながうたと心 ブが。	42.5	37.9	17.4	1.9	0.3	0.0	100
2(2) 出席率はよかったと思うか。	(60.1)	(26.0)	(11.8)	(1.4)	(0.5)	(0.2)	(100)
2(2) 田州中166797122187711。	61.7	24.4	12.4	1.3	0.2	0.0	100
3(3) 積極的に取り組んだと思うか。	(40.2)	(37.8)	(18.8)	(2.5)	(0.5)	(0.2)	(100)
こくの 利発性を行う 一般 フルニアング ここん フルッ	41.2	37.2	19.1	2.0	0.4	0.1	100
雷士	(47.1)	(34.1)	(15.9)	(2.1)	(0.5)	(0.3)	(100)
	48.5	33.2	16.3	1.7	0.3	0.0	100
Ⅱ 授業内容について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
4(4) 授業(実習·実験)に興味・関心が持てたと思うか。	(34.8)	(40.7)	(19.5)	(3.4)	(1.1)	(0.5)	(100)
	35.3	40.9	20.0	2.9	0.8	0.1	100
5(5) 授業(実習 実験)内容をよく理解できたと思うか。	(29.2)	(41.4)	(23.3)	(4.4)	(1.2)	(0.5)	(100)
0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、0、	29.2	41.8	23.8	4.0	1.2	0.0	100
6(6) この授業(実習·実験)内容は将来役立つと思うか。	(40.8)	(37.0)	(18.1)	(2.6)	(1.1)	(0.4)	(100)
(の) この以来(人自 人歌/下)音(は初水反立) こんりが。	41.6	36.7	18.6	2.4	0.7	0.0	100
ξ†	(34.9)	(39.7)	(20.3)	(3.5)	(1.1)	(0.5)	(100)
	35.4	39.8	20.8	3.1	0.9	0.0	100
Ⅲ 教員の教え方について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
8(7) 授業(実習・実験)はシラバスに沿って行われたと	(39.8)	(37.5)	(19.0)	(2.2)	(0.8)	(0.7)	(100)
思うか。	40.0	37.3	20.4	1.8	0.5	0.0	100
14(9) 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(37.6)	(36.8)	(20.8)	(2.7)	(1.2)	(0.9)	(100)
	38.1	36.6	21.5	2.8	0.9	0.1	100
計	(38.7)	(37.2)	(19.9)	(2.4)	(1.0)	(0.8)	(100)
	39.0	37.0	20.9	2.3	0.7	0.1	100
IV 教員の姿勢について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
15(10) 教員は限られた授業(実習・実験)時間を適切に活用	(40.3)	(37.3)	(17.8)	(2.7)	(1.2)	(0.7)	(100)
したと思うか。	40.3	37.2	19.0	2.5	0.8	0.2	100
16(11) 教員は授業(実習·実験)に熱意を持って臨んでいた	(41.9)	(36.4)	(17.2)	(2.2)	(1.1)	(1.2)	(100)
と思うか。	42.2	36.3	18.4	2.2	0.7	0.2	100
17(12) 教員は学生のレベルを把握して授業(実習·実験)を 行ったと思うか。	(36.0)	(37.9)	(20.2)	(3.4)	(1.6)	(0.9)	(100)
行つたと思うか。	35.9	37.3	21.9	3.3	1.3	0.3	100
計	(39.4)	(37.2)	(18.4)	(2.8)	(1.3)	(0.9)	(100)
	39.5	36.9	19.8	2.6	1.0	0.2	100
Ⅴ 総合評価	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
18(13) この授業(実習·実験)は総合的に満足できたと思うか。	(34.5)	(37.7)	(19.3)	(3.0)	(1.4)	(4.1)	(100)
	34.7	39.1	20.1	2.9	1.1	2.1	100
全質問項目の平均	(39.7)	(37.1)	(18.6)	(2.7)	(1.0)	(0.9)	(100)
	40.2	36.9	19.4	2.5	0.7	0.3	100

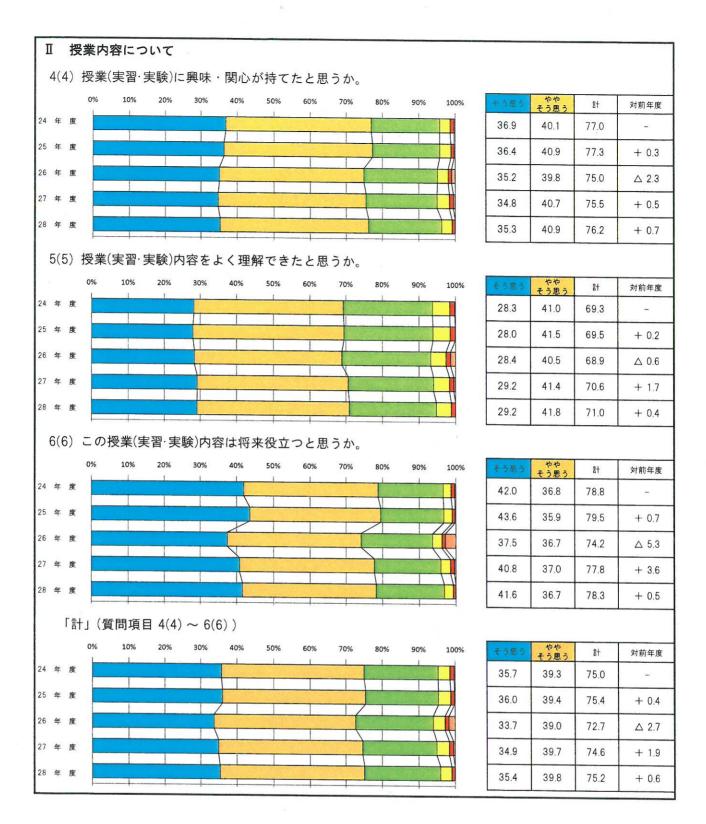
授業評価アンケート集計結果 年度別比較

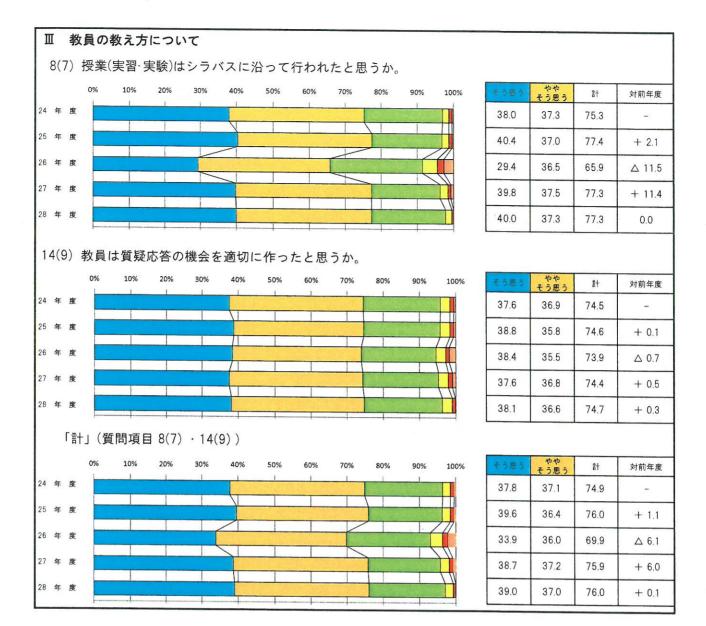
◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全科目数	324科目	314科目	327科目	340科目	340科目
調査対象者数	29,322人	25,791人	25,157人	24,002人	23,623人
総回答数(回答率)	19,599枚 (66.8%)	20,937枚 (81.2%)	22,510枚 (89.5%)	20,563枚 (85.7%)	20,274枚 (85.8%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果

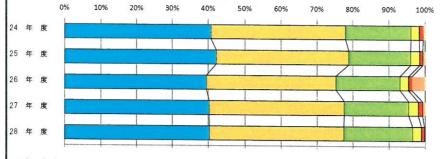






IV 教員の姿勢について

15(10) 教員は限られた授業(実習・実験)時間を適切に活用したと思うか。



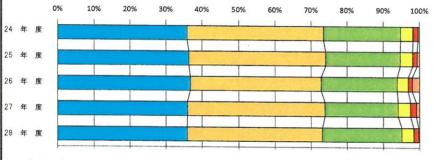
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
40.8	37.2	78.0	-
42.2	36.7	78.9	+ 0.9
39.5	35.8	75.3	△ 3.6
40.3	37.3	77.6	+ 2.3
40.3	37.2	77.5	△ 0.1

16(11) 教員は授業(実習・実験)に熱意を持って臨んでいたと思うか。

			0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100
24	年	度							PER STAN				
25	年	度											
26	年	度									7		7
27								T					
												SCHOOL ST	
8	年	度											

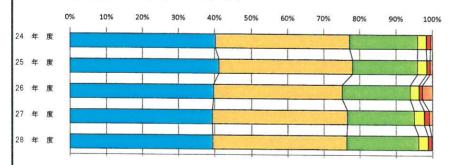
そう思う	やや そう思う	E †	対前年度
43.8	36.2	80.0	-
45.0	36.1	81.1	+ 1.1
42.8	34.5	77.3	△ 3.8
41.9	36.4	78.3	+ 1.0
42.2	36.3	78.5	+ 0.2

17(12) 教員は学生のレベルを把握して授業(実習·実験)を行ったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
35.9	37.6	73.5	-
36.4	37.7	74.1	+ 0.6
36.8	36.1	72.9	△ 1.2
36.0	37.9	73.9	+ 1.0
35.9	37.3	73.2	△ 0.7

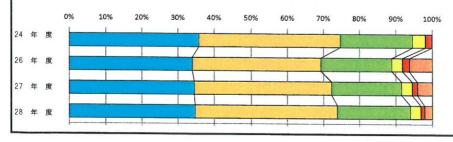
「計」(質問項目 15(10) ~ 17(12))



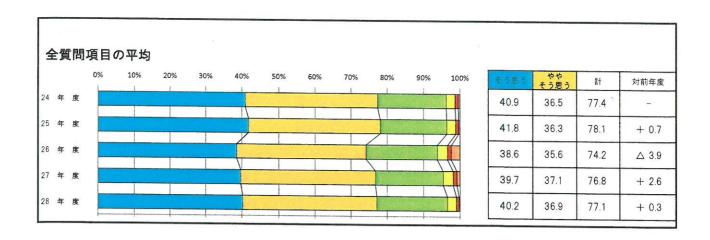
そう思う	やや そう思う	1 †	対前年度	
40.2	37.0	77.2	-	
41.2	36.8	78.0	+ 0.8	
39.7	35.5	75.2	Δ 2.8	
39.4	37.2	76.6	+ 1.4	
39.5	36.9	76.4	△ 0.2	

V 総合評価

18(13) この授業(実習·実験)は総合的に満足できたと思うか。



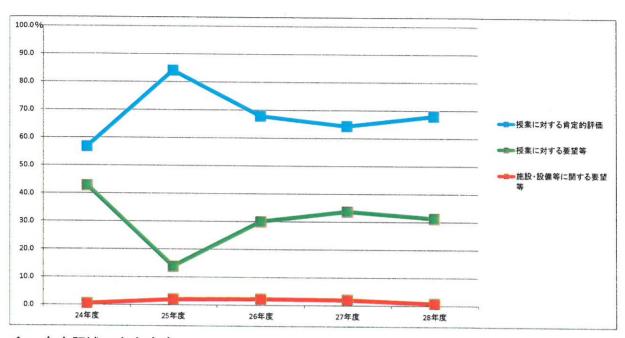
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
35.8	38.9	74.7	-
34.0	35.3	69.3	△ 5.4
34.5	37.7	72.2	+ 2.9
34.7	39.1	73.8	+ 1.6



◆ 年度別 自由記述集計結果

分類項目/年度	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
授業に対する肯定的評価	(56.7%)	546	(84.2%)	745	(67.8%)	429	(64.3%)	383	(66.8%)	427
授業に対する要望等	(42.8%)	413	(13.8%)	122	(30.0%)	190	(33.7%)	201	(32.1%)	205
施設・設備等に関する要望等	(0.5%)	5	(2.0%)	18	(2.2%)	14	(2.0%)	12	(1.1%)	7
総件数	(100.0%)	964	(100.0%)	885	(100.0%)	633	(100.0%)	596	(100.0%)	639

※ ()内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す



◆ 自由記述の主な内容

	件数	主な内容
受業に対する肯定的評価	427	 グループで取り組みをすることが多く、コミュニケーションのとりかた、チーム医療の難しさを 病感する授業でした。 最新の情報を分かりやすく、誤りなく伝えようとしていると感じました。講義アーカイブサイト も復習する上で非常に役立ちました。 パワーポイントがとても上手くまとまっており、復習する際に多いに役立った。配布資料が充実 していた。 実習を受講して、精神科を目指すよいきっかけとなりました。 実験中に腸内細菌の話をしてくれたとき、おもしろい内容で関心ある内容でした。 1つのテーマに関して、深く考えさせてくれる、受講生を奮起させてくれるような考え方と 相まって楽しい授業でした。
受業に対する要望等	205	・課題取り組み時間が短く、中途半端な授業で終わることが多かった。スライド発表では発表者のスライドを印刷して配布して頂けると、後から復習がしやすい。 ・最後の中間テストのような形式のものをストラテジ系、マネジメント系、テクノロジ系と分岐であると、より勉強しやすかったように思います。 ・日程変更する際は早めに言ってほしい。メールでの通知ミスや、冬期休暇以前と後で言っていることが違うことがあったので少し困りました。 ・レポートはパソコンにしてほしい。手書きだと色付けとかで評価が変わってしまうが、PC書きなら文字のみで差が生まれないと思う。
他設・設備等に関する要望等	7	・椅子の下に荷物を置くと汚れてしまうので、特に試験前の時は掃除してほしい。 ・室温が適正でなかったり、換気していてもカビ臭いなど、環境があまりよくないことがあるので 空調を整えてほしい。
計	639	

平成28年度 授業評価集計結果(議義・演習科目)

東京医療保健大学 医療保健学部・助産学専攻科

○講義・演習科目数 291科目

○調査対象者数 20,236人(延人数) ○総回答数 17,148枚(回答率 84.7%)

◆ 質問項目別集計結果

〈上段()は平成27年度アンケート結果〉

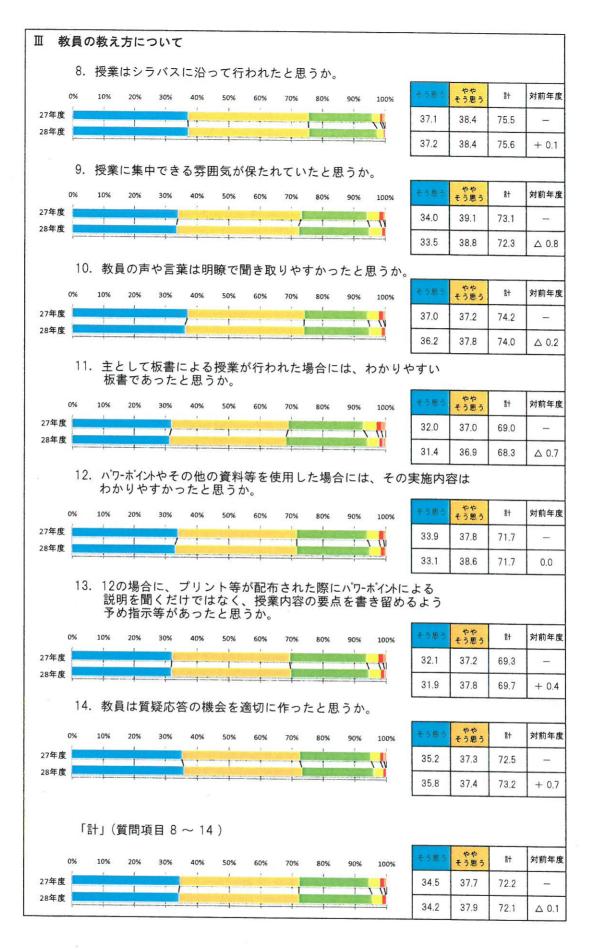
		そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I	学生として、自分自身の授業態度について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1	授業態度はよかったと思うか。	(38.4)	(39.8)	(18.5)	(2.4)	(0.5)	(0.4)	(100)
- ''	1文米心及はよがりにと心りが。	39.6	39.2	18.7	2.2	0.3	0.0	100
2	出席率はよかったと思うか。	(58.3)	(26.8)	(12.7)	(1.4)	(0.5)	(0.3)	(100)
	田川 中 はなる うたとば うが。	59.7	25.6	13.1	1.4	0.2	0.0	100
3	積極的に取り組んだと思うか。	(37.0)	(39.1)	(20.4)	(2.6)	(0.6)	(0.3)	(100)
<u> </u>	1度122月11日以 外面70万 と心 ブガ。	38.1	38.7	20.6	2.2	0.4	0.0	100
	8 †	(44.6)	(35.2)	(17.2)	(2.1)	(0.6)	(0.3)	(100)
		45.8	34.5	17.5	1.9	0.3	0.0	100
I	授業内容について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
4	授業に興味・関心が持てたと思うか。	(32.1)	(41.5)	(21.0)	(3.6)	(1.2)	(0.6)	(100)
т,	1文米に英体・民心が行くたと思うか。	32.7	42.0	21.3	3.1	0.9	0.0	100
5	授業内容をよく理解できたと思うか。	(26.9)	(41.6)	(24.8)	(4.7)	(1.5)	(0.5)	(100)
٥,	反来内台をよく理解できたと思うか。	26.8	42.4	25.1	4.4	1.3	0.0	100
6	この授業内容は将来役立つと思うか。	(38.1)	(37.7)	(19.7)	(2.9)	(1.1)	(0.5)	(100)
0.	この技業内谷は符米技立つと思うか。	39.2	37.7	19.7	2.6	0.8	0.0	100
7		(30.2)	(35.9)	(26.4)	(4.6)	(2.1)	(0.8)	(100)
7.	この授業は他学科の学生等にも薦めたいと思うか。	30.3	37.5	26.3	4.0	1.8	0.1	100
	-1	(31.8)	(39.2)	(23.0)	(3.9)	(1.5)	(0.6)	(100)
	計	32.3	39.9	23.1	3.5	1.2	0.0	100
Ш	教員の教え方について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)		
	300 000 000 000 000 000 000 000 000 000	(37.1)	(38.4)	(20.6)	(2.3)		(%)	(%)
8.	授業はシラバスに沿って行われたと思うか。	37.2	38.4	21.9	2,000,000	(8.0)	(0.8)	(100)
		(34.0)			1.9	0.5	0.1	100
9.	授業に集中できる雰囲気が保たれていたと思うか。	33.5	(39.1) 38.8	(21.2)	(3.7)	(1.4)	(0.6)	(100)
		(37.0)	200000000000000000000000000000000000000	22.7	3.8	1.2	0.0	100
10.	教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。	36.2	(37.2) 37.8	(20.2)	(3.4)	(1.5)	(0.7)	(100)
11	ナレナ アセキュート 7 切坐 パクレ レエコ 10 0 7 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1			21.0	3.7	1.2	0.1	100
11.	主として板書による授業が行われた場合には、 わかりやすい板書であったと思うか。	(32.0)	(37.0)	(24.0)	(4.1)	(1.5)	(1.4)	(100)
1.0		31.4	36.9	26.0	3.5	1.3	0.9	100
12.	パワーボイントやその他の資料等を使用した場合には、 その実施内容はわかりやすかったと思うか。	(33.9)	(37.8)	(22.4)	(3.7)	(1.5)	(0.7)	(100)
13.	12の場合に、プリンチが配布された際にパワーポイント	33.1	38.6	23.3	3.3	1.2	0.5	100
	による説明を聞くだけではなく、授業内容の要点	(32.1)	(37.2)	(24.5)	(3.7)	(1.5)	(1.0)	(100)
	を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。	31.9	37.8	24.9	3.7	1.2	0.5	100
14.	教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(35.2)	(37.3)	(22.6)	(2.9)	(1.2)	(8.0)	(100)
		35.8	37.4	22.9	2.8	0.9	0.2	100
	計	(34.5)	(37.7)	(22.2)	(3.4)	(1.3)	(0.9)	(100)
TC 7	# R O With I 1	34.2	37.9	23.2	3.3	1.1	0.3	100
IV	教員の姿勢について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
15.	教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。	(38.0)	(38.2)	(19.3)	(2.7)	(1.2)	(0.6)	(100)
		38.0	38.3	20.1	2.5	8.0	0.3	100
16.	教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(39.4)	(37.1)	(18.6)	(2.3)	(1.2)	(1.4)	(100)
	secure of automatical distributions of the control	39.8	37.4	19.6	2.3	0.7	0.2	100
17.	教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。	(33.6)	(38.6)	(21.8)	(3.6)	(1.6)	(8.0)	(100)
		33.5	38.2	23.2	3.4	1.4	0.3	100
	青十	(37.0)	(38.0)	(19.9)	(2.9)	(1.3)	(0.9)	(100)
		37.1	38.0	21.0	2.7	0.9	0.3	100
V	総合評価	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%
18	この授業は総合的に満足できたと思うか。	(32.1)	(38.3)	(20.9)	(3.2)	(1.4)	(4.1)	(100)
10.	この技術は何かに個定じさだと思うか。	32.4	40.1	21.5	3.1	1.1	1.8	100
<i>△B</i>	関係日の平均	(35.9)	(37.7)	(21.1)	(3.2)	(1.2)	(0.9)	(100)
土真	「問項目の平均	36.1	37.9	21.8	3.0	0.9	0.3	100
		150000000			0.0	0.0	0.0	100

◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果 (議義・演習科目)

	27年度	28年度		
全科目数	293科目	291科目		
調査対象者数	20,440人	20,236人		
総回答数(回答率)	17,520枚 (85.7%)	17,148枚 (84.7%)		

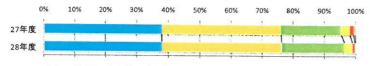
◆ 年度別・質問項目別 集計結果





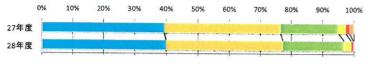
Ⅳ 教員の姿勢について

15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。



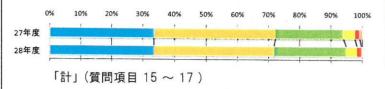


16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。





17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。



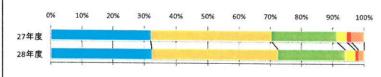


	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
		- 1	,	- 1		Ţ.	. 1	1	1	1	1
27年度											
			- 1					7			111
28年度									THE PARTY NAMED IN		
	-			-		-					2.00

そう思う	う思う やや そう思う		対前年度
37.0	38.0	75.0	-
37.1	38.0	75.1	+ 0.1

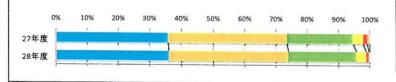
V 総合評価

18. この授業は総合的に満足できたと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
32.1	38.3	70.4	-
32.4	40.1	72.5	+ 2.1

全質問項目の平均



そう思う	やや そう思う	# +	対前年度
35.9	37.7	73.6	_
36.1	37.9	74.0	+ 0.4

◆ VII この授業を受けて良かったと思うことがありますか。 【総数 891】

学科	主な科目名	件数	主な内容
	看護学概論 【1年次前期】	13	基本的な看護の知識を身に付けられた。 自分なりの看護への考えを持つことが出来た。将来働く際に役に立つと感じる。 看護について深まった。
_	クリティカルシンキング I 【1年次前期】	11	文章を書くことが苦手でしたが、講義を受けて少し書く内容もスピードも上がったように感じます。 思考力の必要性がわかって良かった。 考え方、展開力がついたと思う。
看護学科	機能看護学 I 【1年次前期】	8	グループワークに慣れた。自分の意見を言えるようになった。 コラボレーションする力が身についた。意見を発する、人の意見を聞く・取り込むということができるようになった。 他人からの自分の評価がわかって良かった。
	基礎看護援助方法 I 【1年次前期】	8	まず知識を頭に入れてから演習をしたおかげで十分に理解することができた。 『体の仕組みと働き』の 復習になった。 専門的に学べた。
	治療学総論 【1年次後期】	4	臨床に興味がもてた。 看護技術は看護師になるためにとても重要なものなので、様々なことが学べてよかったです。
	精神看護援助論Ⅱ 【2年次後期】	3	先生方がみんな親切で授業も楽しかった。
	総合学習 I 【1年次前期】	18	栄養士になるための良い知識がたくさんあってよかったです。 複数の授業と内容が繋がっていたので、他の授業での理解が進みました。 食品成分など、将来役に立つことが多かった。
医療栄養学	基礎栄養学特論 【2年次前期】	13	スライドや話しだけでなく実際にサプリメントなど配ってくれて興味がより深まった。 管理栄養士の国家試験に必要な内容、先生が研究している内容がとても面白かったです。 将来為になる内容がたくさんあり、楽しかったです。
7	応用栄養学 I 【2年次前期】	7	先生の実体験を合わせて話して下さったのがわかりやすかった。 妊娠期や授乳期のことを学べて良かった。
	調理学 【1年次後期】	5	食品についての構造が詳しく知れて、将来とても大切な知識を得ることができました。 ・ 学問的な内容だけでなく、身近な事柄についても教えていただいて、日々の生活に役立てられそうだと思った。
医	医療情報総合演習 I 【1年次前期】	5	レポートに使用する表現が学べて良かった。 メールの出し方を学べたので良かったです。
療情報学	臨床検査総論 【3年次後期】	5	難しい分野を出来るだけ簡単に教えて頂きありがとうございます。 内容をとてもわかりやすく教えて下さり、理解しやすかったです。
科	臨床医学各論 【1年次後期】	5	専門的な言葉を詳しく説明していたこと。 医学への関心が深まった。

◆ Ⅷ この授業の進め方等について改善を図るべき事項はありますか。 【総数 506】

	主な科目名	件数	主な内容
	急性期看護援助論【2年次後期】	33	先生たちの意見がバラバラで、結局答えで、正しいのか間違っているのかわからない授業が多く不満。 重要なところをまとめて伝えてほしかった。答えはないといっても、明らかな間違いなどははっきりと伝えて ほしかった。 グループワークで途中から発信しない人もでてきて、グループワークの意味がない時もあったと思う。
看誰	地域保健活動演習 【2年次前期】	21	教員ごとに言っていること(説明)が異なる時があったため統一した方がいいと思います。 パワポの提出日を急に10日ほど早められたのは困る。
護学科	クリティカルシンキング I 【1年次前期】	11	課題1つ1つに対して評価をしっかりと伝えてほしい。良かったのか、悪かったのかわからないから、対策ができない。 慣れないPCで課題が多く、大変だった。 クリティカルパスの高齢者の事例がまだ習っていなくて考えにくかった。
	疾病治療論 I 【2年次前期】	10	レジュメを最初に配ってほしい。青背景に赤字のスライドは、見づらい。 先生によって、分かりやすさが違った。分かりやすい先生はとても分かりやすかったけれど分かりにくい先生の ところは全く理解できなかった。
Œ	栄養教育論Ⅲ 【3年次前期】	24	スライドを切り替えるタイミングが早すぎてノートがとれない。 スライドに集中しすぎて先生の話をききとれない。
医療栄養学	医療栄養学概論 I 【2年次後期】	14	スライドの速度がとても速い。時間が取れないならすべてプリントで配るべき。 先生が一方的に話していて辛い。
字科	基礎栄養学特論 【2年次前期】	6	まとまりがなく全体として何を学ぶべきなのかわかりづらかった。 パワーポイントを用いる際、メモをするべきところがある場合は、長めに写しておいてもらいたい。
	献立作成演習【2年次前期】	6	少しペースがはやくて、理解しないまま進んでしまったのでもっと解説をゆっくりしてほしい。 説明をもっと詳しくしてほしいです。ちゃんと理解できませんでした。
	臨床医学各論 【1年次後期】	5	私語が目立ち集中できなかった。しっかり勉強している人のために注意するなど対策をとり、集中できる 環境をつくってほしい。 最後に書くレポートを穴うめなどにするかもう少し時間がほしい。時間が足りなくなることが多くあり少し 負担である。
療情報学	プログラミング演習 I 【1年次後期】	4	レベルにあわせてクラス分けをすべき。 もう少し授業の進行の仕方を変えるべきだと思う。
科	プログラム言語 I 【2年次前期】	3	もう少し黒板の文字を大きくしてもらいたいです。 聞いて欲しいことはわかるが、説明がまわりくどい。教室内を歩いて見て下さるとき、後ろまで回れない 理由があるのでしょうか。

平成28年度 授業評価集計結果(実習・実験科目)

東京医療保健大学 医療保健学部・助産学専攻科

○実習・実験科目数 49科目

○調査対象者数 3,387人(延人数) ○総回答数 3,126枚(回答率 92.3%)

◆ 質問項目別集計結果

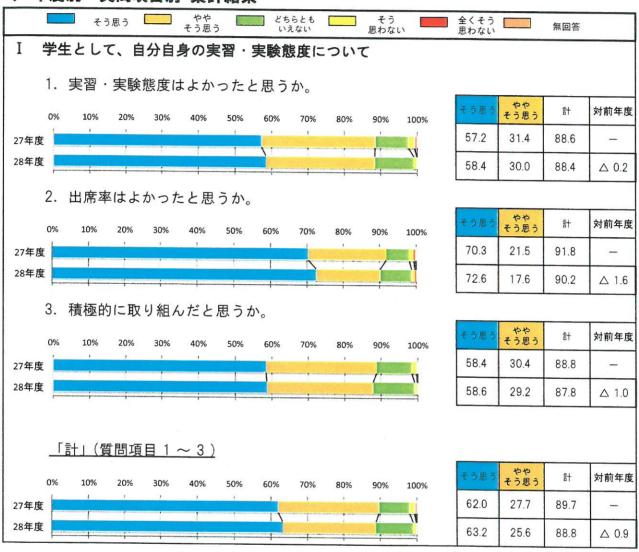
〈上段()は平成27年度アンケート結果〉

質 問 項 目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の実習・実験態度について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
 1. 実習・実験態度はよかったと思うか。	(57.2)	(31.4)	(9.0)	(1.6)	(0.2)	(0.6)	(100)
	58.4	30.0	10.7	0.8	0.1	0.0	100
 2. 出席率はよかったと思うか。	(70.3)	(21.5)	(6.3)	(1.2)	(0.4)	(0.3)	(100)
	72.6	17.6	8.6	0.9	0.3	0.0	100
 3. 積極的に取り組んだと思うか。	(58.4)	(30.4)	(9.6)	(1.3)	(0.0)	(0.3)	(100)
	58.6	29.2	11.3	0.7	0.1	0.1	100
<u> </u>	(62.0)	(27.7)	(8.3)	(1.4)	(0.2)	(0.4)	(100)
T	63.2	25.6	10.2	0.8	0.2	0.0	100
Ⅱ 実習・実験内容について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
 4. 実習・実験に興味・関心が持てたと思うか。	(50.7)	(36.1)	(10.4)	(2.0)	(0.5)	(0.3)	(100)
	49.8	35.0	13.3	1.4	0.4	0.1	100
 5. 実習・実験内容をよく理解できたと思うか。	(42.2)	(40.0)	(14.5)	(2.4)	(0.5)	(0.4)	(100)
	41.7	38.5	16.9	2.3	0.6	0.0	100
 6. この実習・実験内容は将来役立つと思うか。	(55.6)	(33.0)	(9.2)	(1.5)	(0.5)	(0.2)	(100)
	54.5	30.8	12.9	1.4	0.3	0.1	100
il	(49.5)	(36.4)	(11.3)	(2.0)	(0.5)	(0.3)	(100)
	48.7	34.8	14.4	1.7	0.4	0.0	100
Ⅲ 教員の実習・実験指導について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
│ │ 7. 実習・実験はシラバスに沿って行われたと思うか。	(55.1)	(32.8)	(9.9)	(1.3)	(0.6)	(0.3)	(100)
12 13 11 11 2 12 13	55.0	31.5	12.2	0.9	0.4	0.0	100
8. 教員の指導は実習・実験内容に応じて適切だったと	(52.3)	(34.0)	(9.7)	(2.4)	(1.1)	(0.5)	(100)
思うか。	52.2	32.7	12.5	1.9	0.7	0.0	100
 9. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(51.2)	(34.2)	(10.6)	(2.1)	(0.9)	(1.0)	(100)
	50.7	32.2	13.9	2.3	0.9	0.0	100
<u>=</u> +	(52.9)	(33.7)	(10.1)	(1.9)	(8.0)	(0.6)	(100)
	52.6	32.1	12.9	1.7	0.7	0.0	100
Ⅳ 教員の姿勢について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
10. 教員は限られた実習・実験時間を適切に活用したと 思うか。	(53.2)	(32.3)	(9.5)	(2.2)	(1.2)	(1.6)	(100)
心りが。	52.8	30.9	12.7	2.4	1.1	0.1	100
 11. 教員は実習・実験に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(56.0)	(32.3)	(9.0)	(1.4)	(1.1)	(0.2)	(100)
	55.3	30.3	11.7	1.7	0.8	0.2	100
12. 教員は学生のレベルを把握して実習・実験を行った	(50.2)	(33.8)	(11.3)	(2.2)	(1.5)	(1.0)	(100)
と思うか。	48.8	32.1	14.9	2.8	1.3	0.1	100
計	(53.1)	(32.8)	(9.9)	(2.0)	(1.2)	(1.0)	(100)
900	52.3	31.1	13.1	2.3	1.1	0.1	100
V 総合評価	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
 13. この実習・実験は総合的に満足できたと思うか。	(48.4)	(34.3)	(10.2)	(1.9)	(0.9)	(4.3)	(100)
	47.4	33.7	12.3	1.6	1.0	4.0	100
全質問項目の平均	(53.9)	(32.8)	(9.9)	(1.8)	(0.7)	(0.9)	(100)
- Colored Colored	53.7	31.1	12.6	1.6	0.6	0.4	100

◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果(実習・実験科目)

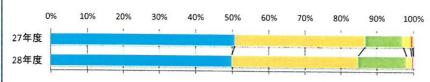
	27年度	28年度	
全科目数	47科目	49科目	
調査対象者数	3,562人	3,387人	
総回答数(回答率)	3,043枚 (85.4%)	3,126枚 (92.3%)	

◆ 年度別・質問項目別 集計結果





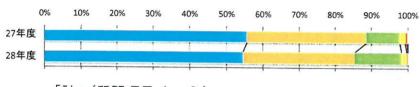
4. 実習・実験に興味・関心が持てたと思うか。



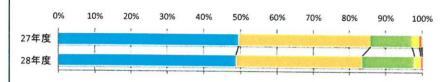
5. 実習・実験内容をよく理解できたと思うか。

0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
27年度	1	,			Contractor of the Contractor o	1	1		E PROPERTO NAME	
-		1	1	11						7 11
28年度						and the same of the same	AMA PERSONAL PROPERTY AND A			(4.00) New 2

6. この実習・実験内容は将来役立つと思うか。



「計」(質問項目 4 ~6)



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
50.7	50.7 36.1		_	
49.8	35.0	84.8	△ 2.0	

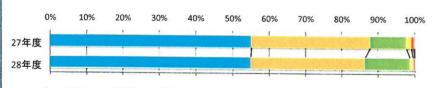
そう思う	う思う やや 計		対前年度	
42.2	40.0	82.2	_	
41.7	38.5	80.2	△ 2.0	

そう思う	う思う そう思う		う思う やや 計		対前年度
55.6	33.0	88.6	_		
54.5	30.8	85.3	△ 3.3		

そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
49.5	36.4	85.9	_	
48.7	34.8	83.5	△ 2.4	

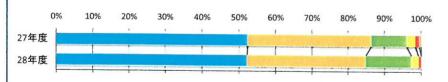
Ⅲ 教員の実習・実験指導について

7. 実習・実験はシラバスに沿って行われたと思うか。



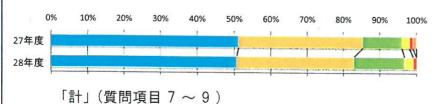
そう思う	やや そう思う	計	対前年度		
55.1	32.8	87.9	_		
55.0	31.5	86.5	△ 1.4		

8. 教員の指導は実習・実験内容に応じて適切だったと思うか。___



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
52.3	34.0	86.3	_
52.2	32.7	84.9	△ 1.4

9. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。



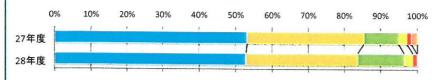
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
51.2	34.2	85.4	_
50.7	32.2	82.9	△ 2.5

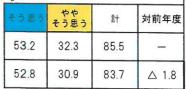
	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
27年度		1	,	,	!	- 1	1	1		- Bulbirous	
28年度				1				7			1.10

そう思う	やや そう思う	計	対前年度
52.9	33.7	86.6	_
52.6	32.1	84.7	△ 1.9

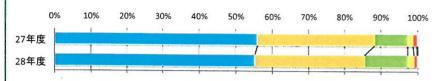
Ⅳ 教員の姿勢について

10. 教員は限られた実習・実験時間を適切に活用したと思うか。



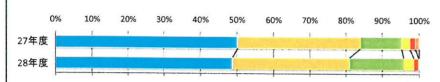


11. 教員は実習・実験に熱意を持って臨んでいたと思うか。



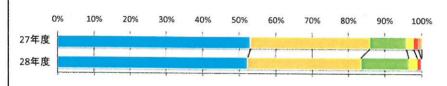
そう思う	思う やや そう思う 計		やや そう思う 計 対前年度		
56.0	32.3	88.3	-		
55.3	30.3	85.6	△ 2.7		

12. 教員は学生のレベルを把握して実習・実験を行ったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
50.2	33.8	84.0	_	
48.8	32.1	80.9	△ 3.1	

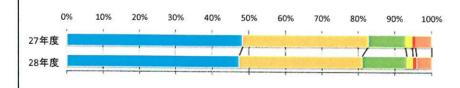
「計」(質問項目 10 ~ 12)



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
53.1	32.8	85.9	-	
52.3	31.1	83.4	△ 2.5	

Ⅴ 総合評価

13. この実習・実験は総合的に満足できたと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
48.4	34.3	82.7	-	
47.4	33.7	81.1	△ 1.6	

全質問項目の平均

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
27年度		1	,	-	,	,		1		1	
28年度							1				1 10
	-										1400

そう思う	う思う やや 計		対前年度		
53.9	32.8	86.7	-		
53.7	31.1	84.8	△ 1.9		

◆ VI この実習·実験を受けて良かったと思うことがありますか。 【総数 193】

学科	主な科目名	件数	主な内容
	基礎看護援助実習 I 【1年次後期】	12	1年生の間から臨地での経験ができて良かったです。 自分の将来を想像することができたこと。 実習でしか学べないことが学べてよかった。 学内では分からない事を知れた。
	小児看護学実習 【3年次後期·4年次前期】	2	小児期の発達段階や健康レベルに合わせた看護について学べた。 先生の指導が良く、頑張ろうと思えた。
	調理学実習Ⅱ 【1年次後期】	18	調理の下ごしらえの方法など、基礎が身に付けられたので良かったと思う。 将来的に確実に役に立つと思うし必要だと思う。調理の知識はよく身について良いと思った。
医療栄養学科	調理学実習 I 【1年次前期】	15	現場に出る前の厳しくも適確な指導のもと学習できたこと。 包丁の使い方、姿勢を正しく学べて、料理の大変さを知ることができて良かったです。
養学科	栄養教育論実習 I 【2年次後期】	15	実際に栄養教育を行うことでわかる反省点が見えた。小学生など自分とは違う年代の人へのアプローチについて考えられる良い機会だった。 大変な作業が多かったけれど人前に立つことや正確に情報をとることなどたくさん学べた。
	給食経営管理論実習 【2年次後期】	12	給食においての作業の仕方(大人数での)がわかった。 グループワークの難しさや協働力を知ることができた。
療	情報システム実験 【2年次前期】	5	PCに詳しくなった。(気がする)先生が面白いから聞きやすい。
報	情報ネットワーク実験 【2年次後期】	2	情報システムを頭ではなく身をもって学べたこと。
学 科	病院実習 【3年次後期】	1	病院内での仕事、病院ごとの仕事内容を知ることができてよかったです。

◆ VII この実習·実験の進め方等について改善を図るべき事項はありますか。【総数 100】

学科	主な科目名	件数	主な内容
看護学	基礎看護援助実習 I 【1年次後期】	8	2~3回目の実習は間をあけない方がいい。最後の実習後からレポート提出までは一週間程度時間がほしい。 学内実習の時間の配分がよくない。
学科	小児看護学実習 【3年次後期·4年次前期】	3	行く施設によっての学生の負荷・負担に差がありすぎると思った。 同じ単位なのにNICUと保育園では不平等であると思う。 説明が分かりにくかったです。
臨床栄養学実習 I 医 【 ^{3年次前期} 】		18	大切な内容のスライドが多いのに、スライドを進めるスピードが速すぎてメモしきれないことが多々あった。 もう少し学生の様子を見てスライドを次に進めて欲しい。 座学の時間が長く、実習時間が短い。実習時間中に課題が終わらないほど課題量が多い。
療栄養学	解剖生理学実験 II 【2年次前期】	17	他のクラスもやって3回目の授業なはずなのに先生自身が手順を分かっていなかったり、時間の使い方が悪かった。 学生の能力を全く把握していないため、実習が時間内に終わらなかったり、おざなりに終わることが目立った。
科	食品衛生学実験 【2年次後期】	7	同じ授業を別クラスでやっているにも関わらず手際が悪いときが多かったです。 実験の説明がざっくりな所があったのでもう少し丁寧にしてほしい。
医 療 情	企業実習 【3年次後期】	3	発表できないグループがあったり、質疑応答の時間がなかったので、実習報告会を二回に分けたほうが良い と思います。
報 学 科	情報システム実験 【2年次前期】	1	3人でも質問の対応が間に合ってない。

平成 28 年度 大学院医療保健学研究科の授業評価結果に対する考察

大学院医療保健学研究科長 坂本 すが

1. 授業評価アンケートについて

- 〇14 の質問項目全体の授業評価集計結果の前年度別比較では、「そう思う」と「ややそう思う」を含めると平均 92.5%で前年度の 94.5%より 2 ポイント減少した。
- 〇14 項目中「授業内容をよく理解できたと思いますか(85.5%)」「この授業は期待していた通りの内容でしたか(86.4%)」「教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思いますか(86.9%)」以外はすべて90%以上の評価であった。
 - 授業評価集計結果より、低下した結果に対しては研究科長会議を開催し、講義 方法の改善に努力してゆきたい。今後も院生が授業に積極的に取り組めるような 講義方法を行うなどの工夫が必要であると言える。
- 〇医療機関や関連企業において、感染制御との関わりのある職種においては、基本 的感染制御を身に付ける上で大変役立っている様子が窺えた。他領域における ものとしては、実践に効果があるとの評価を個々にいただいており、さらに内容 を発展させたい。
- ○大学院の授業評価は対象となる人数も少ないので、面接形式など併用することを 検討してもよいのではないか。
- ○質問に対する回答は肯定的だったが、受講人数が少ないことや回答者の背景を 考えると、学部と同じアンケート項目である必要はなく、授業評価アンケートの 質問内容について再検討すべき点は多いと考えている。

2. 授業において工夫した点

- ○看護実践開発特論Ⅲは開講 2 年目となるが、オムニバスで行っており、教員間の調整、目標の共有を行えるよう、科目会議を開き、事前学習課題などの共有を 行った。
- ○履修者はすべて実践家であるため、課題を出す場合は、学習内容が実践と結びつ くような内容とし、授業ではディスカッションを積極的に取り入れた。
- 〇看護実践研究方法論は受講生のニーズに合うように、受講生の論文進度を考慮して、授業内容を決めた。精神保健学受講生の調べ学習を発表する時間及びディスカッションの時間を十分取るように工夫した。
- 〇上述した目的を達成しやすくするよう、資料作成にむけてガイドラインを作成し、 事前配布と説明を行った。
- 〇開講日程は、事前課題に取り組む時間と講義内で十分にディスカッションできる 時間を確保するよう調整した。
- 〇シラバス全体の中の担当回の授業であることから、他の担当者の授業内容にも 配慮し、授業の位置づけや意義について説明している。

- 〇昨年と違い、学生一人一人のテーマに合わせた、文献の選択、構造的な文献内容 の把握の方法を実施した。
- 〇助産における教育力・実践能力・研究力の向上によるキャリアアップを図ることを目的として大学院に来ているので、課題学習を通して目標の明確化、伝える力をつけるために課題についてプレゼンテーション、その際の学習教材の選択や発表の方法の検討など、学生と共に工夫及び探求を行っている。また、災害看護など、助産学専攻科の学生と共に授業に参加することにより、自己肯定感や教育的指導などに繋がっているようなので、継続していきたいと考えている。さらに、医療機器製造工場の見学や沖縄島嶼医療での体験など、ユニークな取り組みを通しての学習も行っている。
- ○例年の研究報告会などから、研究の視点が乏しい院生が多い印象を受けている。 授業の中で、業務における漠然とした疑問が明確なリサーチクエスチョンに繋が ること、そして遂行した研究結果がその後の医療保健の根拠となっていくことを 印象づけるよう工夫している。
- ○平成 28 年度の授業では、学生がすでに研究や経験が豊富であったため、現場で 役に立つ、もしくは研究ですぐに用いることができる内容をできる限り、学生の 意見を聞きながら、新しい論文情報を取り入れるようにした。
- 〇基本的なガイドラインである日本人の食事摂取基準を主体に、現在の食生活を 考えるような流れにした。
- 〇担当科目が専門特化されているところなので、どの程度の基礎知識があるか学生 の背景を考慮して、基礎的なところから現在の最新の状況についてなるべく詳し く説明した。
- 〇授業を十分に理解できるように授業中及び授業後に質問を受け、また参考資料を できるだけ配付した。

3. 授業評価結果を今後の授業にどの様に生かしていくか

- ○資料の文字の大きさについても指摘をいただいたので、印刷時の大きさには注意 していきたいと思う。
- 〇高い評価が得られた項目は継続して取り組みたいと思います。質問 1 の「この授業に意欲的に取り組めたと思いますか」や質問 3 の「授業内容をよく理解できたと思いますか」が他の項目と比べると低いため、課題や授業内容を履修者の関心やレベルに合せて検討していきたい。
- ○資料作成ガイドラインをより分かりやすく修正する。
- 〇シラバス全体の中の担当回の授業であることから、他の担当者の授業内容にも 配慮し、授業の位置づけや意義についての説明を引き続き行っていきたい。
- 〇今回の結果から、「学生のレベルを把握して授業を行ったと思いますか」の項目 の平均が低かったため、今後は、学生のニーズやレベル等を考慮しながら、授業 の組み立てを行っていきたい。

- 〇クリニカル・クウェスチョンからリサーチクウェスチョンへの探求を試み、自ら の研究課題を明らかにすること、また、文献検討、まとめを討議するなどの授業 の工夫を実践することを通してわかりやすい授業や研究指導を検討していきたい。
- ○教員からの意向もあり、英文抄録を読む演習を取り入れており、一部の院生には 負担に感じられていることも承知しているが、修士課程では求められるレベル だと思うので、今後も続けていきたい。
- ○課題は、こちらの指示するテーマに合った英文論文を探して、概要をまとめるものである。能力として、求めている論文を pubmed で探し出せること、英文の論文を読んでそれを概説できることは求めているが、それが主たる目的ではなく、この科目で学んだポイントを押さえられているかを把握するための課題である。そのあたりを平成 29 年度にはしっかりと伝えていきたい。
- 〇総合人間栄養学特論の担当 5 コマでも、英論文の課題を出そうと考えていたが、 Abstract のみで今年度の院生の様子を見ることにしたい。ライフステージ栄養学 特論では、人のライフステージと栄養学との関係を深めることができるように 工夫したい。
- 〇今後は映像など使用し、さらに分かりやすくイメージしやすい授業を実施して いきたい。
- 〇授業を楽しく理解させるために質問に丁寧に答えるとともに研究に対する姿勢を 事前の経験を通じて"努力"なくして、成熟しないことを教えていきたい。

4. その他

- ○教員は、学生が自ら考え行動できる能力を培える教育を探求し、実行していきたいと思っており、助産学の大学院生として、多くの本や文献を読み、積極的に 授業や演習に取り組み、自信を持って頑張って欲しい。
- ○全領域の院生が受講することから、講義内容とそのレベルの設定に、毎年悩んでいる。「期待していた通りの内容」かどうかの設問があるが、こちらの方が院生が何を期待しているのかを知りたい。自由記述にそういったことを書いてもらえるよう工夫できないか。
- 〇学生達からも学ぶことが多い。今年度の2年次学生も1年次学生もデータ収集が 大変なので、その部分も含めてしっかり整えるサポートをしていきたい。
- ○授業内容の不明点についての質問はメールなどでも受け付けるようにしたい。

以上

平成28年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程

○全科目数 53科目 ○調査対象者数

〇総回答数

379人(延人数) 212枚(回答率55.9%)

◆ 質問項目別集計結果 (上段()は平成27年度集計結果)

▼貝回坝日別集訂紹力		は平成27年度集計結果】					(%)	
質 問 項 目	=	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
 1. この授業に意欲的に取り組めたと思し	きすか	(62.8)	(30.9)	(5.6)	(0.4)	(0.3)	(0.0)	(100.0)
		71.0	26.0	3.0	0.0	0.0	0.0	100.0
 2. この授業に興味、関心が持てたと思し	きすか	(70.6)	(25.7)	(2.6)	(0.4)	(0.4)	(0.3)	(100.0)
7,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1	0.77	77.0	19.0	4.0	0.0	0.0	0.0	100.0
 3. 授業内容をよく理解できたと思います	- h)	(47.2)	(40.9)	(10.0)	(1.5)	(0.4)	(0.0)	(100.0)
2,7,10,10,10,10,10,10,10,10,10,10,10,10,10,		47.5	38.0	13.0	1.5	0.0	0.0	100.0
 4. この授業内容は将来役立つと思います	- か	(72.5)	(22.7)	(3.7)	(0.7)	(0.0)	(0.4)	(100.0)
		73.7	20.6	5.7	0.0	0.0	0.0	100.0
 5. この授業は期待していた通りの内容で	5 <i>t- t</i>)	(63.2)	(28.6)	(6.7)	(0.7)	(0.4)	(0.4)	(100.0)
- 一つ 意味のが得っていた にかられる	0723	63.8	22.6	13.6	0.0	0.0	0.0	100.0
 6. この授業を、ほかの人にも勧めたいと	思いますか	(65.4)	(27.5)	(6.0)	(0.0)	(1.1)	(0.0)	(100.0)
	この以来を、1878の人にも動めたいと心いよりが、				0.0	0.0	0.0	100.0
. 授業はシラバスに沿って行われたと思いますか		(67.3)	(27.5)	(4.1)	(0.7)	(0.4)	(0.0)	(100.0)
12x100 0 111000 0 1110000 0 11		73.0	22.1	4.9	0.0	0.0	0.0	100.0
8. この授業の進め方は適切だったと思し	きまか	(67.7)	(27.9)	(3.0)	(0.7)	(0.7)	(0.0)	(100.0)
- 一切人人の足の方は足引にうたこと	- 6 9 73	70.0	23.0	7.0	0.0	0.0	0.0	100.0
 9. この授業の教材・教具等は適切だった	・と思いますか	(65.4)	(29.0)	(4.1)	(1.1)	(0.4)	(0.0)	(100.0)
	- C 100 V · S 9 13 ·	69.4	22.8	7.8	0.0	0.0	0.0	100.0
 10. 教員は質疑応答の機会を適切に作っ	たと思いますか	(76.2)	(20.1)	(2.6)	(0.0)	(1.1)	(0.0)	(100.0)
TO MAKE MAKE TO THE STREET OF		72.0	22.0	6.0	0.0	0.0	0.0	100.0
 11. 教員は限られた授業時間を適切に活用	31 たと思いますか	(71.7)	(25.7)	(0.7)	(0.7)	(0.7)	(0.5)	(100.0)
		77.0	18.0	5.0	0.0	0.0	0.0	100.0
12. 教員は授業に熱意を持って臨んでい	たと思いますか	(84.0)	(14.1)	(1.1)	(0.4)	(0.4)	(0.0)	(100.0)
	たと思いようが	81.5	16.1	2.4	0.0	0.0	0.0	100.0
13. 教員は学生のレベルを把握して授業を	行ったと思いますも	(69.5)	(23.4)	(5.6)	(1.1)	(0.4)	(0.0)	(100.0)
がたい, エット・ルと心座して収集で		65.5	21.4	12.6	0.5	0.0	0.0	100.0
14. この授業は総合的に満足出来たと思	いますか	(75.1)	(21.2)	(2.6)	(0.7)	(0.4)	(0.0)	(100.0)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	v . o. y . N .	71.2	20.5	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
全質問項目の平均	平成27年度	(68.5)	(26.0)	(4.2)	(0.7)	(0.5)	(0.1)	(100.0)
エス内大日の下め	平成28年度	70.3	22.2	7.4	0.1	0.0	0.0	100.0

授業評価集計結果 年度別比較

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 修士課程

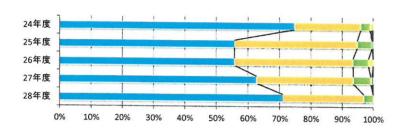
◆ 年度別 授業評価集計結果

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全科目数	44科目	46科目	48科目	55科目	53科目
調査対象者数(延人数)	375人	421人	314人	421人	379人
総回答数(回答率)	323枚 (86%)	314枚 (75%)	202枚 (64%)	269枚 (64%)	212枚 (56%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果

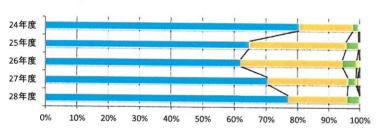


Q1.この授業に意欲的に取り組めたと思いますか



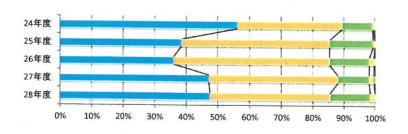
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	74.9	21.4	96.3	-
25年度	55.7	39.2	94.9	△ 1.4
26年度	55.7	37.8	93.5	△ 1.4
27年度	62.8	30.9	93.7	+0.2
28年度	71.0	26.0	97.0	+3.3

Q2.この授業に興味・関心が持てたと思いますか



				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	80.5	17.3	97.8	_
25年度	64.7	30.9	95.6	△ 2.2
26年度	62.0	32.5	94.5	△ 1.1
27年度	70.6	25.7	96.3	+1.8
28年度	77.0	19.0	96.0	△ 0.3

Q3.授業内容をよく理解できたと思いますか



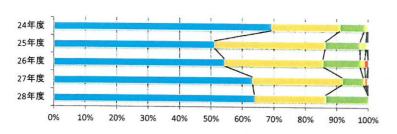
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	56.3	33.1	89.4	-
25年度	38.6	46.8	85.4	△ 4.0
26年度	36.1	49.5	85.6	+0.2
27年度	47.2	40.9	88.1	+2.5
28年度	47.5	38.0	85.5	△ 2.6

Q4.この授業は将来役立つと思いますか

24年度					1		 / 1
25年度	-	-1-	 -		 		
26年度				1	No. of Concession, Name of Street, or other teams, and the street, and the str	en aleman	
27年度							\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
28年度					1		/ \

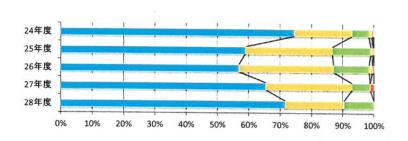
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	82.4	14.2	96.6	-
25年度	66.3	29.3	95.6	Δ 1.0
26年度	67.4	25.2	92.6	△ 3.0
27年度	72.5	22.7	95.2	+2.6
28年度	73.7	20.6	94.3	△ 0.9

Q5.この授業は期待していた通りの内容でしたか



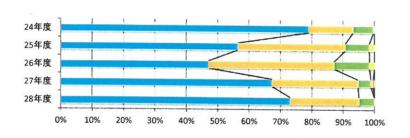
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	69.3	21.7	91.0	-
25年度	51.3	35.4	86.7	△ 4.3
26年度	54.3	31.3	85.6	Δ 1.1
27年度	63.2	28.6	91.8	+6.2
28年度	63.8	22.6	86.4	△ 5.4

Q6.この授業を、ほかの人にも勧めたいと思いますか



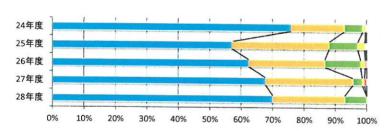
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	74.6	18.3	92.9	_
25年度	59.0	27.7	86.7	△ 6.2
26年度	56.9	30.2	87.1	+0.4
27年度	65.4	27.5	92.9	+5.8
28年度	71.6	18.8	90.4	△ 2.5

Q7.授業はシラバスに沿って行われたと思いますか



				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	78.9	14.2	93.1	-
25年度	56.4	34.4	90.8	△ 2.3
26年度	47.0	40.1	87.1	△ 3.7
27年度	67.3	27.5	94.8	+7.7
28年度	73.0	22.1	95.1	+0.3

Q8.この授業の進め方は適切だったと思いますか



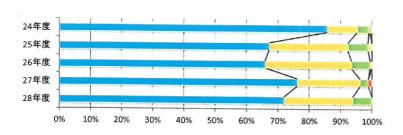
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	75.9	17.0	92.9	-
25年度	57.1	30.9	0.88	△ 4.9
26年度	62.4	24.3	86.7	△ 1.3
27年度	67.7	27.9	95.6	+8.9
28年度	70.0	23.0	93.0	△ 2.6

Q9.この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか

-		- 1	-	T	 	 -	-	71
25年度					 7	 		
6年度	1				/	1		M.
7年度						1	1	7
-					 		/	A
8年度		al annual contraction of				CHECKE	DESIGNATION OF THE PERSON NAMED IN	

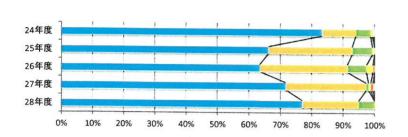
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	76.2	18.3	94.5	_
25年度	57.6	30.6	88.2	△ 6.3
26年度	55.8	30.8	86.6	△ 1.6
27年度	65.4	29.0	94.4	+7.8
28年度	69.4	22.8	92.2	△ 2.2

Q10.教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思いますか



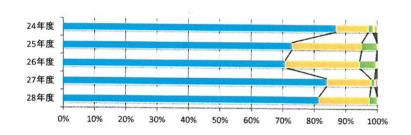
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	85.8	9.6	95.4	_
25年度	67.2	25.2	92.4	△ 3.0
26年度	65.9	27.7	93.6	+1.2
27年度	76.2	20.1	96.3	+2.7
28年度	72.0	22.0	94.0	△ 2.3

Q11.教員は限られた授業時間を適切に活用したと思いますか



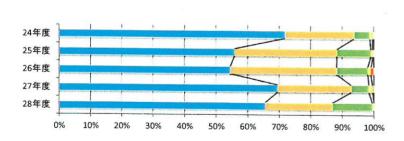
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	83.3	10.8	94.1	_
25年度	66.2	26.8	93.0	Δ 1.1
26年度	63.5	27.9	91.4	△ 1.6
27年度	71.7	25.7	97.4	+6.0
28年度	77.0	18.0	95.0	△ 2.4

Q12.教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思いますか



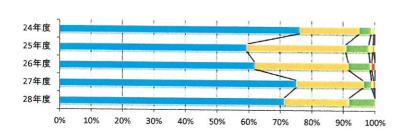
				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	87.0	10.2	97.2	_
25年度	72.9	22.3	95.2	△ 2.0
26年度	70.8	23.8	94.6	△ 0.6
27年度	84.0	14.1	98.1	+3.5
28年度	81.5	16.1	97.6	△ 0.5

Q13.教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思いますか (24年度新規質問項目)



				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	71.8	22.0	93.8	_
25年度	55.8	32.5	88.3	△ 5.5
26年度	54.5	33.7	88.2	△ 0.1
27年度	69.5	23.4	92.9	+4.7
28年度	65.5	21.4	86.9	△ 6.0

Q14.この授業は総合的に満足出来たと思いますか

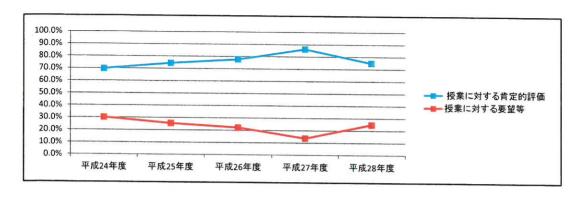


				(%)
	そう思う	やや そう思う	計	対前年度
24年度	76.2	18.9	95.1	-
25年度	59.3	31.5	90.8	△ 4.3
26年度	61.9	29.7	91.6	+0.8
27年度	75.1	21.2	96.3	+4.7
28年度	71.2	20.5	91.7	△ 4.6

◆ 年度別 自由記述集計結果

	24年	度	25年	度	26年	度	27年	度	28年	度
授業に対する肯定的評価	(69.7%)	23	(74.4%)	87	(77.6%)	59	(86.2%)	75	(75.0%)	48
授業に対する要望等	(30.3%)	10	(25.6%)	30	(22.4%)	17	(13.8%)	12	(25.0%)	16
総件数	(100.0%)	33	(100.0%)	117	(100.0%)	76	(100.0%)	87	(100.0%)	64

※()内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す



古书司法不予补内数 / 亚巴()0左座/

これからの自分の課題が見えました。大変よい機会となりました。 様々な先生方の専門分野が大変面白く、興味が持てました。国別、歴史の変遷、日: 国内の地域別と様々な視点から医療経済について考えられるようになり、視野が広がりました。 研究を進めるにあたって、どのように尺度を設定・分析していくか良く分かりました。今まで参考書を読むだけでは理解できなかったことが、先生の講義を聞いて理ができました。 全体の様子を丁寧に見極めながら進めて下さり、スピード・内容共に大変満足のい内容でした。改めて、沢山の課題や新しく考えていく必要があることなど、キーワードを頂きました。ありがとうございました。 クリティークや、概念枠組み、理論に基づいた事例展開など、今後の実践や、臨床にがつく内容で大変良かったです。ブレゼンテーションに慣れていない為、緊張したが、非常に良い経験になりました。ありがとうございましたが、非常に良い経験になりました。ありがとうございました。 自分が今まで学んだ中の不明瞭なところ、理解が浅い項目がクリアになるとても深学びが出来ました。来年、同じ内容でももう一度学びたい授業です。ありがとうごいました。 色々な資料を元に、難しいトピックスを分かりやすく講義していただきました。関する項目との相関も分かり、今後も興味深く関心を持っていきます。学ぶことの楽さを休感した授業でした。 毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。 毎での講義や講演が今後あったらぜひ参加したいです。 学生の理解のペースに合わせて行ってくれていることと、記録をして下さるので、「業は非常に分かりやすかったです。しかし、その時は分かったような気がするので、「業は非常に分かりやすかったです」しかし、未習問題など実践できるものを多取り入れてもらうとより理解が深まったのではないかと思いました。 「要望等	自由記述の主な	门容	(平成28年度)
これからの自分の課題が見えました。大変よい機会となりました。 様々な先生方の専門分野が大変面白く、興味が持てました。国別、歴史の変遷、日: 国内の地域別と様々な視点から医療経済について考えられるようになり、視野が広がまました。 研究を進めるにあたって、どのように尺度を設定・分析していくか良く分かりました。今まで参考書を読むだけでは理解できなかったことが、先生の講義を聞いて理ができました。 全体の様子を丁寧に見極めながら進めて下さり、スピード・内容共に大変満足のい内容でした。改めて、沢山の課題や新しく考えていく必要があることなど、キーワ・ドを頂きました。ありがとうございました。 クリティークや、概念枠組み、理論に基づいた事例展開など、今後の実践や、臨床にがつく内容で大変良かったです。ブレゼンテーションに慣れていない為、緊張したが、非常に良い経験になりました。ありがとうございました。 自分が今まで学んだ中の不明瞭なところ、理解が浅い項目がクリアになるとても深いました。 を々な資料を元に、難しいトピックスを分かりやすく講義していただきました。製する項目との相関も分かり、今後も興味深く関心を持っていきます。学ぶことの楽さを体感した授業でした。 毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。 毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。 毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、課であるが、深い理解は得られませんでした。もう少し、練習問題など実践できるものを多取り入れてもらうとより理解が深まったのではないかと思いました。 研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、今だからかかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かつと思いました。		件数	主な内容
国内の地域別と様々な視点から医療経済について考えられるようになり、視野が広りました。 研究を進めるにあたって、どのように尺度を設定・分析していくか良く分かりました。今まで参考書を読むだけでは理解できなかったことが、先生の講義を聞いて理りできました。今は一下さり、スピード・内容共に大変満足のい内容でした。改めて、沢山の課題や新しく考えていく必要があることなど、キーワードを頂きました。ありがとうございました。クリティークや、概念枠組み、理論に基づいた事例展開など、今後の実践や、臨床はびつく内容で大変良かったです。プレン・サーションに慣れていない為、緊張したが、非常に良い経験になりました。ありがとうございました。自分が今まで学んだ中の不明瞭なところ、理解が浅い項目がクリアになるとても深いがあれました。来年、同じ内容でももう一度学びたい授業です。ありがとうごいました。 をなる資料を元に、難しいトピックスを分かりやすく講義していただきました。関うさを体感した授業でした。毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。学での講義や講演が今後あったらぜひ参加したいです。学生の課解のペースに合わせて行ってくれていることと、記録をして下さるので、対策は非常に分かりやすかったです。しかし、その時は分かったような気がするのでが、深い理解は得られませんでした。もう少し、練習問題など実践できるものを多取り入れてもらうとより理解が深まったのではないかと思いました。研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、決定は対する要とはあるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、と思いました。医床現場で知識を利用出来る内容で、大変分かりやすくご教授いただき感謝してお		39	他の領域のプレゼンテーションにて、院生全員の意見を聞けて現状と課題がわかり、 これからの自分の課題が見えました。大変よい機会となりました。
た。今まで参考書を読むだけでは理解できなかったことが、先生の講義を聞いて理りできました。 全体の様子を丁寧に見極めながら進めて下さり、スピード・内容共に大変満足のい内容でした。改めて、沢山の課題や新しく考えていく必要があることなど、キーワードを頂きました。ありがとうございました。 クリティークや、概念枠組み、理論に基づいた事例展開など、今後の実践や、臨床にもびつく内容で大変良かったです。プレゼンテーションに慣れていない為、緊張してしたが、非常に良い経験になりました。ありがとうございました。自分が今まで学んだ中の不明瞭なところ、理解が浅い項目がクリアになるととても深いが出来ました。来年、同じ内容でももう一度学びたい授業です。ありがとうごいました。 色々な資料を元に、難しいトピックスを分かりやすく講義していただきました。関する項目との相関も分かり、今後も興味深く関心を持っていきます。学ぶことの楽さを体感した授業でした。 毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。発発での講義や講演が今後あったらぜひ参加したいです。テンスに合わせて行ってくれていることと、記録をして下さるので、業は非常に分かりやすかったです。しかし、その時は分かったような気がするるので、次第い理解は得られませんでした。もう少し、練習問題など実践できるものを多取り入れてもうとより理解が深まったのではないかと思いました。研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、分だからわかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かつ、と思いました。 臨床現場で知識を利用出来る内容で、大変分かりやすくご教授いただき感謝してお			様々な先生方の専門分野が大変面白く、興味が持てました。国別、歴史の変遷、日本 国内の地域別と様々な視点から医療経済について考えられるようになり、視野が広が りました。
接業に対する 肯定的評価 48 48 48 48 48 48 48 48 48 4			た。今まで参考書を読むだけでは理解できなかったことが、先生の講義を聞いて理解
特定的評価	授業に対する		全体の様子を丁寧に見極めながら進めて下さり、スピード・内容共に大変満足のいく 内容でした。改めて、沢山の課題や新しく考えていく必要があることなど、キーワー ドを頂きました。ありがとうございました。
学びが出来ました。来年、同じ内容でももう一度学びたい授業です。ありがとうごにいました。 色々な資料を元に、難しいトピックスを分かりやすく講義していただきました。関うする項目との相関も分かり、今後も興味深く関心を持っていきます。学ぶことの楽さを体感した授業でした。 毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。発での講義や講演が今後あったらぜひ参加したいです。 学生の理解のペースに合わせて行ってくれていることと、記録をして下さるので、業は非常に分かりやすかったです。しかし、その時は分かったような気がするのでが、深い理解は得られませんでした。もう少し、練習問題など実践できるものを多取り入れてもらうとより理解が深まったのではないかと思いました。研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、今だからわかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かったのあり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、会にあたり、もうかし早い時期に学べたらというようにも思いましたが、会がからわかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かった。と思いました。		48	クリティークや、概念枠組み、理論に基づいた事例展開など、今後の実践や、臨床に 結びつく内容で大変良かったです。プレゼンテーションに慣れていない為、緊張しま したが、非常に良い経験になりました。ありがとうございました。
する項目との相関も分かり、今後も興味深く関心を持っていきます。学ぶことの楽さを体感した授業でした。 毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。発での講義や講演が今後あったらぜひ参加したいです。 学生の理解のペースに合わせて行ってくれていることと、記録をして下さるので、対策は非常に分かりやすかったです。しかし、その時は分かったような気がするのでが、深い理解は得られませんでした。もう少し、練習問題など実践できるものを多取り入れてもらうとより理解が深まったのではないかと思いました。研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、今だからわかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かったと思いました。 臨床現場で知識を利用出来る内容で、大変分かりやすくご教授いただき感謝してお	,		自分が今まで学んだ中の不明瞭なところ、理解が浅い項目がクリアになるとても深い 学びが出来ました。来年、同じ内容でももう一度学びたい授業です。ありがとうござ いました。
発での講義や講演が今後あったらぜひ参加したいです。 学生の理解のペースに合わせて行ってくれていることと、記録をして下さるので、禁は非常に分かりやすかったです。しかし、その時は分かったような気がするのでが、深い理解は得られませんでした。もう少し、練習問題など実践できるものを多取り入れてもらうとより理解が深まったのではないかと思いました。 研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、今だからわかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かったと思いました。 臨床現場で知識を利用出来る内容で、大変分かりやすくご教授いただき感謝してお			色々な資料を元に、難しいトピックスを分かりやすく講義していただきました。関連 する項目との相関も分かり、今後も興味深く関心を持っていきます。学ぶことの楽し さを体感した授業でした。
業は非常に分かりやすかったです。しかし、その時は分かったような気がするのでが、深い理解は得られませんでした。もう少し、練習問題など実践できるものを多取り入れてもらうとより理解が深まったのではないかと思いました。 研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、今だからわかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かったと思いました。 臨床現場で知識を利用出来る内容で、大変分かりやすくご教授いただき感謝してお			毎回テーマに基づいた幅広いディスカッションや、講義がとても為になりました。単 発での講義や講演が今後あったらぜひ参加したいです。
要望等			
臨床現場で知識を利用出来る内容で、大変分かりやすくご教授いただき感謝しておます。 もっとこのような講義の割合を増やしていただけたらと思います。		16	研究を進めるにあたり、もう少し早い時期に学べたらというようにも思いましたが、 今だからわかることも大変多かったです。できれば夏の集中講義に学べたら良かった と思いました。
			臨床現場で知識を利用出来る内容で、大変分かりやすくご教授いただき感謝しております。 もっとこのような講義の割合を増やしていただけたらと思います。
計 64	計	64	

平成 28 年度 東が丘・立川看護学部の授業評価結果に対する考察

 副学長
 学部長
 山西
 文子

 副学長
 草間
 朋子

- ○授業評価の対象になった科目数は 190 科目で、授業評価に参加した学生数 延べ 18,836 人である。アンケートへの回答率は 94%であり、授業評価に対す る学生の関心・意識は高い。臨床看護学コース・災害看護学コースともに 1 年次生から 4 年次生まで揃った状態での授業評価は本年度が初めてである。
- 〇自己の授業態度については、「講義・演習科目」に対して 87.9%、「実習・実験科目」に対して 96%の学生が肯定的な回答をしており、学生の学習への取り組み態度に期待していきたい。一方、授業評価とは別に実施している「学生生活実態調査」の結果では、1 日当たりの自主学習の時間が想像以上に短いことが示されており、専門職をめざす学生にとって、事前学習、事後学習(本年度からシラバス上にも取り入れている)の必要性をしっかり認識させていく必要があると考えている。
- ○「授業内容」については、「講義・演習科目」に対して 81%、「実習・実験科目」 に対して 94.9%の学生が肯定的な回答をしている。しかし、十分に授業内容 を理解している(「そう思う」に回答)学生が 40%に満たない(例年も同様)結果 から、教員は、学生の理解度をその都度、確認しながら授業を展開する工夫が 必要とされる。
- 〇教員の教え方については、「講義・演習科目」に対して 80.4%、「実習・実験科目」に対して 92.5%の学生が肯定的な回答をしている。
- 〇教員の姿勢については、「講義・演習科目」に対して 82.1%、「実習・実験科目」 に対して 92.1%の学生が肯定的な回答をしている。
- ○「講義・演習」に比べて、参加型の授業である「実習・実験」に対する評価 が高いことは当然予測されることではあるが、本学が進めている「実習連携 会議」などを通して、実習現場の指導者のみなさまにご協力いただいている 成果の反映でもあると感謝している。
- 〇本学部は、1年次から実習を取り入れて、1年次に2回(6月に1週間、2月に2週間)の基礎看護学領域の臨地実習を配置し、入学後の早い時期から「看護学」「看護」に対する目的意識、意欲を高め、看護学を学ぶことへのモチベーションを高めることとしている。実習に対して肯定的な意見が多いことなどからも、本学のカリキュラム・ポリシーが授業評価の結果にも反映されているものと確信している。
- 〇授業評価の結果は、授業を提供する教員達にとっては、概ね満足のいくものと受け止めている。授業評価の結果を真摯に受け止め、改善すべきところは改善し、本学部が教育目標に揚げている「tomorrow's Nurseの育成」を目指して教職員一同、教育の質の向上にさらに努めていきたい。
- 〇学習環境とくに講義室の整備に対して学生から毎年改善の要望が出されている。看護学を学ぶ学生にとっては、必須科目が多く、しかも科目を段階的に 履修していかなければならず講義室に滞在する時間が長いことに鑑み、講義室 の整備にはさらに尽力いただくよう働きかけていく所存である。

平成28年度 授業評価実施結果についての概要

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部

- 〇本学部では、前期・後期に実施された講義・演習科目及び実習・実験科目の 全授業科目について、学生による授業評価を実施しました。授業評価結果に ついては、当該教員に配布し、次年度以降の授業改善の基礎データとして 活用していただくこととしており、その具体的な内容等については、学部 年報に記載し公表するとともに、授業評価結果に対する考察を公表しており ます。
- ○授業評価アンケートは、授業科目に対する評価をより正確に調査するため「講義・演習科目」と「実習・実験科目」によって質問項目を分けております。また「この授業(実習・実験)を受けて良かったと思うことがありますか。」及び「この授業(実習・実験)の進め方等について改善を図るべき事項はありますか。」について尋ねる記述式の質問を新たに加えております。また、自由記述件数は、各年度により記述項目の増減があり、これに伴い、総件数も増減していますが、「授業に対する肯定的評価」は総件数の概ね8割で安定的に推移しています。
- ○授業評価結果の各質問項目別の集計結果については、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」及び「無回答」のそれぞれの割合(%)により表記しております。また、自由記述については、「授業に対する肯定的評価」、「授業に対する要望等」及び「施設・設備等に関する要望等」に分類するとともに、その主な

具体的意見等が分かるよう表記しております。

質問項目別の肯定的な回答の「そう思う」「ややそう思う」の割合は以下のとおりとなっています。

			前年度
Ι.	学生として自分自身の授業態度について	88.9%	(86.4%)
${\rm I\hspace{1em}I}$.	授業内容について	83.6%	(81.3%)
Ш.	教員の教え方について	83.1%	(80.9%)
IV.	教員の姿勢について	83.3%	(80. 7%)
全質	(82.0%)		

平成28年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部

○全科目数 190科目 ○調査対象者数 18,836人(延人数) ○総回答数 17,709枚(回答率 94.0%)

◆ 講義・演習科目及び実習・実験科目における共通質問項目別集計結果 〈上段()は平成27年度アンケート結果〉 〈質問項目番号の()は実習・実験科目における質問項目の番号である。〉

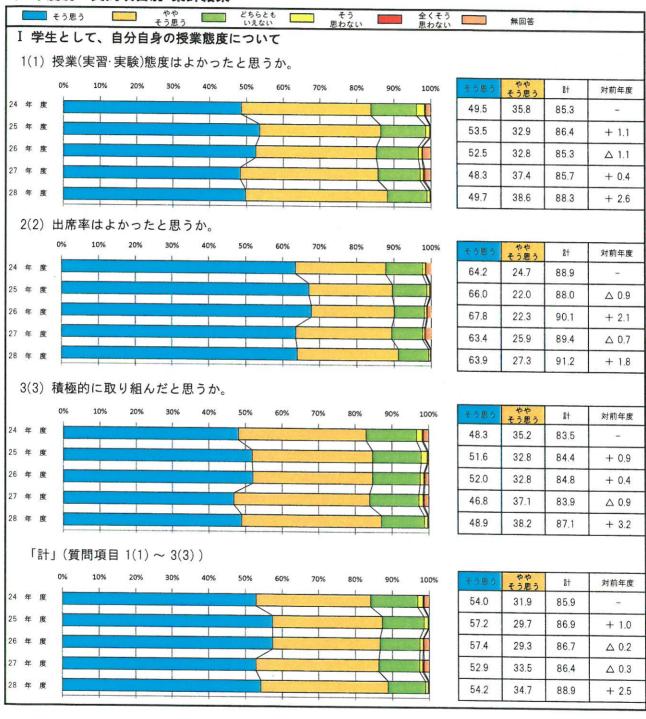
質 問 項 目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の授業態度について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1(1) 授業(実習・実験)態度はよかったと思うか。		(37.4)	(11.4)	(1.0)	(0.4)	(1.5)	(100)
TO TOTAL DESCRIPTION OF THE PROPERTY OF THE PR	49.7	38.6	10.6	0.9	0.2	0.0	100
2(2) 出席率はよかったと思うか。		(25.9)	(8.3)	(0.6)	(0.3)	(1.5)	(100)
	63.9	27.3	8.1	0.5	0.2	0.0	100
3(3) 積極的に取り組んだと思うか。	(46.8)	(37.1)	(13.4)	(1.2)	(0.4)	(1.1)	(100)
	48.9	38.2	11.7	0.9	0.3	0.0	100
計	(52.9)	(33.5)	(11.0)	(0.9)	(0.3)	(1.4)	(100)
	54.2	34.7	10.1	0.8	0.2	0.0	100
Ⅱ 授業内容について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
4(4) 授業(実習·実験)に興味・関心が持てたと思うか。	(42.5)	(39.5)	(13.6)	(1.9)	(0.9)	(1.5)	(100)
	43.3	40.8	13.3	1.8	0.7	0.1	100
5(5) 授業(実習・実験)内容をよく理解できたと思うか。	(37.4)	(41.5)	(16.0)	(2.5)	(1.1)	(1.5)	(100)
	39.0	42.8	15.2	2.3	0.7	0.0	100
6(6) この授業(実習・実験)内容は将来役立つと思うか。	(46.0)	(36.9)	(13.0)	(1.7)	(8.0)	(1.6)	(100)
	46.9	37.8	12.8	1.7	0.7	0.1	100
dž	(42.0)	(39.3)	(14.2)	(2.1)	(0.9)	(1.5)	(100)
	43.1	40.5	13.7	1.9	0.7	0.1	100
Ⅲ 教員の教え方について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
8(7) 授業(実習·実験)はシラバスに沿って行われたと 思うか。	(44.2)	(37.9)	(13.9)	(1.5)	(0.7)	(1.8)	(100)
思うか。	45.2	39.1	13.6	1.4	0.5	0.2	100
14(9) 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(42.3)	(37.3)	(15.3)	(2.1)	(1.0)	(2.0)	(100)
	43.4	38.5	14.8	2.2	0.9	0.2	100
計	(43.3)	(37.6)	(14.6)	(1.8)	(8.0)	(1.9)	(100)
	44.3	38.8	14.2	1.8	0.7	0.2	100
IV 教員の姿勢について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
15(10) 教員は限られた授業(実習·実験)時間を適切に活用 したと思うか。	(43.7)	(37.4)	(14.0)	(1.9)	(1.0)	(2.0)	(100)
Secretary and the secretary an	45.3	38.6	13.5	1.7	0.7	0.2	100
16(11) 教員は授業(実習·実験)に熱意を持って臨んでいた と思うか。	(45.2)	(36.7)	(13.3)	(1.7)	(0.9)	(2.2)	(100)
	46.1	38.0	13.3	1.6	0.7	0.3	100
17(12) 教員は学生のレベルを把握して授業(実習・実験)を	(41.3)	(37.8)	(14.9)	(2.3)	(1.2)	(2.5)	(100)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43.1	38.8	14.9	2.1	8.0	0.3	100
計	(43.4)	(37.3)	(14.1)	(2.0)	(1.0)	(2.2)	(100)
V 総合評価	44.8	38.5	13.9	1.8	0.7	0.3	100
V 総合評価	(%)	(%)	(%)		(%)	(%)	(%)
18(13) この授業(実習·実験)は総合的に満足できたと思うか。	(40.6)	(37.2)	(14.4)	(2.0)	(1.1)	(4.7)	(100)
	42.7	37.2	14.0	2.3	0.8	3.0	100
全質問項目の平均	(45.1)	(36.9)	(13.5)	(1.7)	(8.0)	(2.0)	(100)
	46.4	38.0	13.0	1.6	0.6	0.4	100

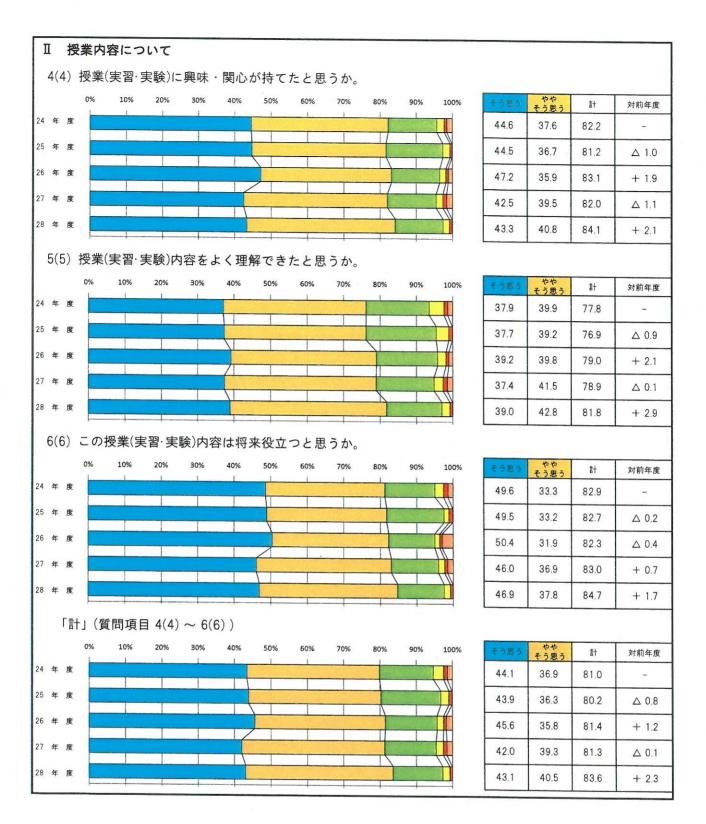
授業評価アンケート集計結果 年度別比較

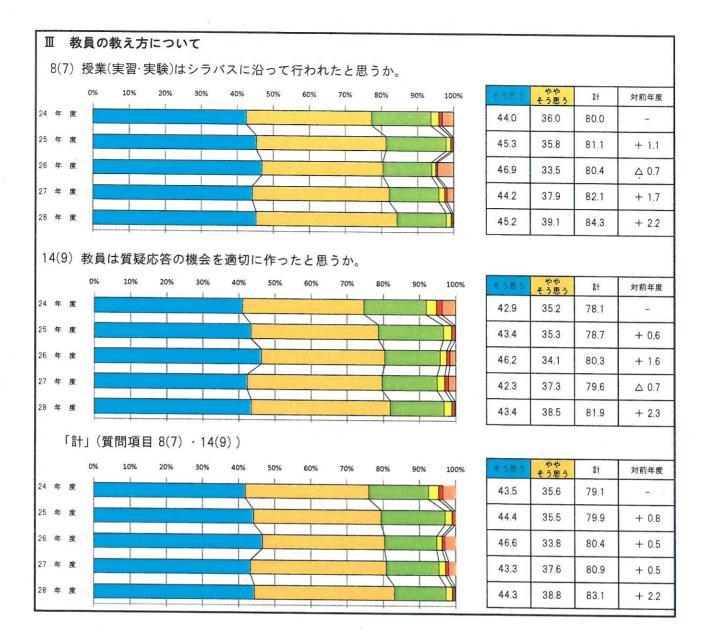
◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全科目数	103科目	103科目	119科目	157 科目	190科目
調査対象者数	9,499人	10,115人	12,915人	14,772人	18,836人
総回答数(回答率)	8876枚 (93.4%)	9,195枚 (90.9%)	12,360枚 (95.7%)	14,383枚 (97.4%)	17,709枚 (94.0%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果

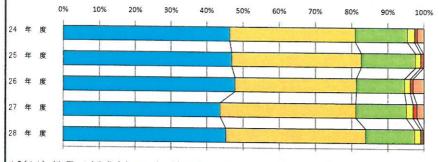






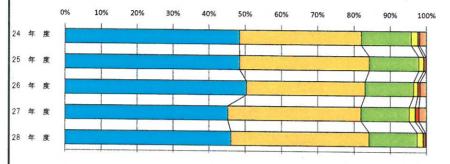
IV 教員の姿勢について

15(10) 教員は限られた授業(実習・実験)時間を適切に活用したと思うか。



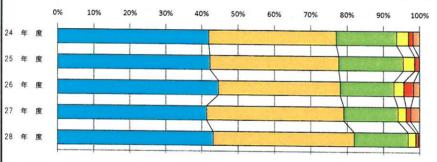
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
46.6	34.8	81.4	-
46.2	35.3	81.5	+ 0.1
47.8	33.5	81.3	△ 0.2
43.7	37.4	81.1	△ 0.2
45.3	38.6	83.9	+ 2.8

16(11) 教員は授業(実習・実験)に熱意を持って臨んでいたと思うか。



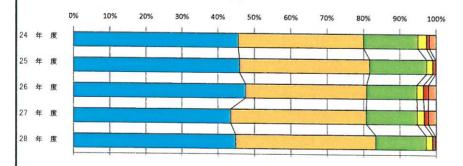
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
48.8	33.9	82.7	-
47.8	35.3	83.1	+ 0.4
50.3	32.7	83.0	Δ 0.1
45.2	36.7	81.9	Δ 1.1
46.1	38.0	84.1	+ 2.2

| 17(12)|| 教員は学生のレベルを把握して授業(実習·実験)を行ったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
42.9	36.0 78.9		_
42.8	35.9	78.7	△ 0.2
44.6	33.5	78.1	△ 0.6
41.3	37.8	79.1	+ 1.0
43.1	38.8	81.9	+ 2.8

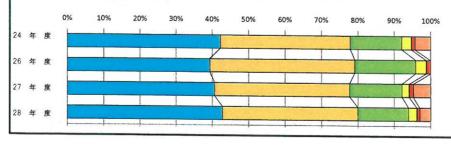
「計」(質問項目 15(10) ~ 17(12))



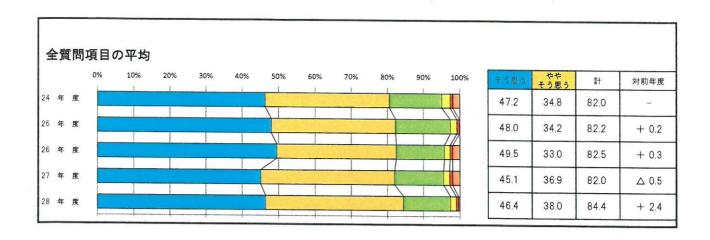
	やや		
そう思う	そう思う	計	対前年度
46.1	34.9	81.0	-
45.6	35.5	81.1	+ 0.1
47.6	33.3	80.9	△ 0.2
43.4	37.3	80.7	△ 0.2
44.8	38.5	83.3	+ 2.6

V 総合評価

18(13) この授業(実習・実験)は総合的に満足できたと思うか。



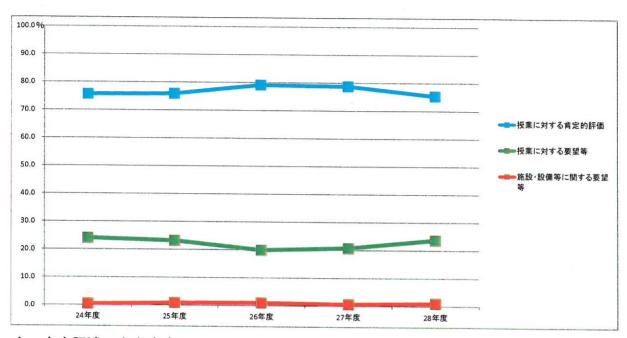
そう思う	そう思う		対前年度	
42.2				
39.3	39.8	79.1	+ 1.2	
40.6	37.2	77.8	△ 1.3	
42.7	37.2	79.9	+ 2.1	



◆ 年度別 自由記述集計結果

分類項目/年度	24年	=度	25年	度	26年	度	27年	度	28年	度
授業に対する肯定的評価	(75.6%)	1,853	(75.9%)	245	(79.1%)	743	(78.7%)	373	(75.3%)	492
授業に対する要望等	(24.0%)	589	(23.2%)	75	(19.9%)	187	(20.7%)	98	(23.7%)	155
施設・設備等に関する要望等	(0.4%)	9	(0.9%)	3	(1.0%)	9	(0.6%)	3	(1.0%)	6
総件数	(100.0%)	2,451	(100.0%)	323	(100.0%)	939	(100.0%)	474	(100.0%)	653

※ ()内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す



◆ 自由記述の主な内容

	件数	主な内容
受業に対する肯定的評価	492	・質疑応答があってよく理解できた。 ・興味がある内容ばかりで、とてもおもしろい授業でした。 ・今まで自分が考えていたことが、講義を受けたことで考えが変わり、深まった。 ・とても充実した実習でした。この時期にこのような実習を行えたことはとても価値のあることだと思いました。 ・これから働き始める上で、とても役に立ちそうなことを学べたのでよかった。内容に関心があったので面白く学べた。
受業に対する要望等	155	 ・学生との対話を増やして欲しかった。 ・もっと、プリントの穴埋めを増やして欲しかった。 ・書きながら話を聞くのが難しいので、ゆっくり話して欲しい。 ・チーム分けは自由が良かった。
施設・設備等に関する要望等	6	・平面教室の黒板は見えづらい。 ・教室の椅子はパソコンに適さない。首が疲れた。
計	653	

平成28年度 授業評価集計結果(講義・演習科目)

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部

○講義・演習科目数 166科目

○調査対象者数 16,308人(延人数) ○総回答数 15,569枚(回答率 95.5%)

◆ 質問項目別集計結果

〈上段()は平成27年度アンケート結果〉

		そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I	学生として、自分自身の授業態度について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1.	授業態度はよかったと思うか。	(45.8)	(39.0)	(12.4)	(1.0)	(0.4)	(1.4)	(100)
		46.8	40.4	11.5	1.0	0.3	0.0	100
2	出席率はよかったと思うか。	(60.9)	(27.7)	(9.0)	(0.7)	(0.3)	(1.4)	(100)
	1717 - 10:01 N 572 C 18:57 N 6	61.8	28.7	8.8	0.5	0.2	0.0	100
3.	積極的に取り組んだと思うか。	(43.8)	(38.7)	(14.5)	(1.3)	(0.4)	(1.3)	(100)
	REPUTE CENTRAL	45.9	40.0	12.8	1.0	0.2	0.1	100
	計	(50.2)	(35.1)	(12.0)	(1.0)	(0.4)	(1.4)	(100)
		51.5	36.4	11.1	0.8	0.2	0.0	100
I	授業内容について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
4	授業に興味・関心が持てたと思うか。	(39.5)	(41.3)	(14.4)	(2.1)	(1.0)	(1.7)	(100)
		40.2	42.5	14.5	2.0	0.7	0.1	100
5	授業内容をよく理解できたと思うか。	(35.0)	(42.5)	(17.1)	(2.7)	(1.2)	(1.5)	(100)
٠.	及来引音とよく生解しさんと思うが。	36.0	44.0	16.6	2.5	0.8	0.1	100
6	この授業内容は将来役立つと思うか。	(43.4)	(38.7)	(14.0)	(1.9)	(0.9)	(1.5)	(100)
· · ·	この技术内容は特殊技立っと思うが。	43.7	39.5	14.1	1.9	0.8	0.0	100
7	この授業は他学科の学生等にも薦めたいと思うか。	(37.4)	(38.8)	(17.9)	(2.6)	(1.5)	(1.8)	(100)
٠.	この技業は他子科の子生寺にも罵めたいと思うか。	38.6	39.6	17.9	2.6	1.2	0.1	100
	5 1	(38.8)	(40.3)	(15.9)	(2.3)	(1.1)	(1.6)	(100)
	計	39.6	41.4	15.8	2.2	0.9	0.1	100
Ш	教員の教え方について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
0	柳桃江	(42.0)	(39.1)	(14.7)	(1.6)	(0,7)	(1.9)	(100)
8.	授業はシラバスに沿って行われたと思うか。	42.7	40.4	14.6	1.5	0.6	0.2	100
_	10 W - 4	(39.5)	(40.1)	(15.2)	(2.5)	(1.1)	(1.6)	(100)
9.	授業に集中できる雰囲気が保たれていたと思うか。	40.0	40.5	15.8	2.6	1.0	0.1	100)
	**	(41.7)	(38.1)	(15.3)	(2.2)	(1.2)	(1.5)	(100)
10.	教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。	41.9	39.4	15.0	2.5	1.0	0.2	100)
11.	主として板書による授業が行われた場合には、	(36.9)	(37.2)	(18.0)	(2.5)	(1.3)	(4.1)	(100)
	わかりやすい板書であったと思うか。	38.8	38.7	17.5	2.4	1.0	1.6	100
12.	パワーポイントやその他の資料等を使用した場合には、	(39.6)	(38.8)	(16.0)	(2.6)	(1.2)	(1.8)	(100)
	その実施内容はわかりやすかったと思うか。	40.4	39.8	16.1	2.4	0.9	0.4	100)
13.	12の場合に、プリ가等が配布された際にパワーポイン	(38.5)	(38.5)	(17.2)	(2.4)	(1.2)	(2.2)	
	による説明を聞くだけではなく、授業内容の要点 を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。	39.3	39.9	16.8	2.5		1.00000-10	(100)
W 46		(39.9)	(38.8)	(16.1)		1.1	0.4	100
14.	教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	40.8	39.7	16.1	(2.2)	(1.1)	(1.9)	(100)
	100000000000000000000000000000000000000	(39.7)	(38.7)	(16.1)	2.3	0.9	0.2	100
	計	40.6	39.8	16.0	(2.3)	(1.1)	(2.1)	(100)
IV	教員の姿勢について	(%)	(%)	(%)		0.9	0.4	100
		(41.8)			17-7		(%)	(%)
15.	教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。	42.8	(38.8) 39.9	(14.9) 14.6	(1.9)	(1.0)	(1.6)	(100)
		(43.0)			1.7	0.7	0.3	100
16.	教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。	43.5	(38.2) 39.4	(14.1)	(1.7)	(1.0)	(2.0)	(100)
Name of the last		(39.4)	(39.1)	14.3	1.7	0.7	0.4	100
17.	教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。	40.6	40.0	(15.7)	(2.5)	(1.3)	(2.0)	(100)
		(41.4)	AND CONTRACTOR	16.1	2.2	0.8	0.3	100
	計	42.3	(38.7)	(14.9)	(2.0)	(1.1)	(1.9)	(100)
V	総合評価		39.8	15.0	1.9	0.7	0.3	100
		(%)	(%)			(%)	(%)	(%)
18.	この授業は総合的に満足できたと思うか。	(38.3)	(38.6)	(15.2)	(2.1)	(1.3)	(4.5)	(100)
		40.1	38.6	15.2	2.4	0.8	2.9	100
全質	間項目の平均	(41.5)	(38.5)	(15.0)	(2.0)	(1.0)	(2.0)	(100)
		42.4	39.5	14.9	2.0	0.8	0.4	100

◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果(講義・演習科目)

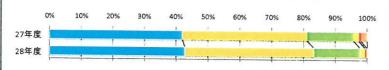
	27年度	28年度
全科目数	140科目	166科目
調査対象者数	13,052人	16.308人
総回答数 (回答率)	12,803枚 (98.0%)	15,569枚 (95.5%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果



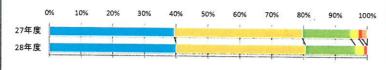
Ⅲ 教員の教え方について

8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。



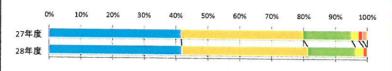
そう思う	やや そう思う	ft.	対前年度	
42.0	42.0 39.1		_	
42.7	40.4	83.1	+ 2.0	

9. 授業に集中できる雰囲気が保たれていたと思うか。



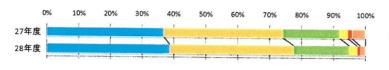
そう思う	やや そう思う	11	対前年度
39.5	40.1	79.6	-
40.0	40.5	80.5	+ 0.9

10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。



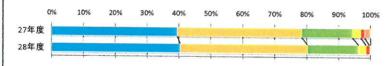
そう思う	そう思う やや そう思う 41.7 38.1		う やや 計		対前年度
41.7			-		
41.9	39.4	81.3	+ 1.5		

11. 主として板書による授業が行われた場合には、わかりやすい 板書であったと思うか。



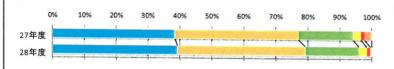
そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
36.9	37.2	74.1	_	
38.8	38.7	77.5	+ 3.4	

12. パワーポイントやその他の資料等を使用した場合には、その実施内容は わかりやすかったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
39.6	38.8	78.4	-	
40.4	39.8	80.2	+ 1.8	

13. 12の場合に、プリント等が配布された際にパワーポイントによる説明を聞くだけではなく、授業内容の要点を書き留めるよう予め指示等があったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
38.5	38.5	77.0	-	
39.3	39.9	79.2	+ 2.2	

14. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
		,	1	1		1		,	1		- 1
7年度					E STATE				- S 5536	1	
					N.			and the second second	A	-	111
8年度			and the same	and the second	100				A		

そう思う	やや そう思う	計	対前年度
39.9	38.8	78.7	_
40.8	39.7	80.5	+ 1.8

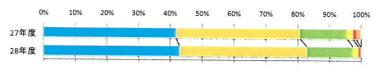
「計」(質問項目 8 ~ 14)

0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	1009
- e- e-	-	1	-	-	1		,	1		
7年度		-,-					-			
8年度		1	-	-		and the last of th		1		111
0年度							Andrew Control of the Control			

そう思う	やや そう思う	計	対前年度
39.7	38.7	78.4	-
40.6	39.8	80.4	+ 2.0

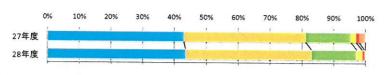


15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。



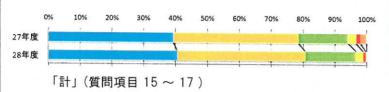


16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。





17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。



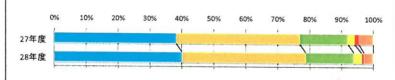


	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
	-	,	j.		,	Г	1	- 1	1	1	
7年度	-				-,						
28年度						NEW PROPERTY.		HOUSE TRUE		-	1111

そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
41.4	38.7	80.1	-	
42.3	39.8	82.1	+ 2.0	

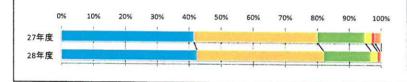
V 総合評価

18. この授業は総合的に満足できたと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
38.3	38.6	76.9	-	
40.1	38.6	78.7	+ 1.8	

全質問項目の平均



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
41.5	38.5	80.0	-	
42.4	39.5	81.9	+ 1.9	

◆ VII この授業を受けて良かったと思うことがありますか。 【総数 1,100】

科目名	件数	主な内容
看護実践技術論 I (日常生活における援助技術と判断) 【臨床看護学コース:1年次前期】	36	・将来役に立つ技術なので受けてよかったと思う。 ・看護について深いことが知ることができ、将来の仕事のためになる内容をたくさん学べた。 ・看護師になるために必要不可欠な丁寧な技術を得ることができて良かった。
慢性期看護論 【臨床看護学コース:2年次前期】	9	・終末期について学べてよかった。・また看護師になるために1歩進めたと思う。・とても考えさせられる授業だった。
ヘルスアセスメント 【災害看護学コース:1年次前期】	10	・基礎知識が身についた。 ・看護師になる上でのモチベーションを上げるきっかけになりました。
成人看護の探求 【災害看護学コース:3年次後期】	2	・事例を振り返ることができてよかった。 ・ナラティブブラクティスを通して、自分の看護感を考えるきっかけになりました。今後の実習 などで生かしていきます。

◆ Ⅷ この授業の進め方等について改善を図るべき事項はありますか。 【総数 434】

科目名	件数	主な内容
自然科学の基礎 【臨床看護学コース:1年次前期】	25	・パワーポイントがレジュメだったので少し分かりづらかったです。 ・高校である程度みんなやったはずの内容を丁寧にやりすぎていて、遅すぎた。 ・教員が変わると授業の進め方がかわるのでやりにくかったです。
小児看護実践論 【臨床看護学コース:3年次前期】	34	・スライドの文字が多すぎて、後ろだと全くみえなかった。 ・レジュメに穴埋めがあるのに、記述する時間が十分に設けられていなかった。 ・教員同士での意見の違いがあって混乱します。
看護学概論 【災害看護学コース:1年次前期】	3	・プリントを穴埋めにしてほしいです。 ・後方の席で私語が多く、集中できる環境にない。注意もあまりしないため、授業中ずっとしゃべっている人がいる。
在宅看護実践論 【災害看護学コース:3年次後期】	4	・パワーポイント・レジュメなど見にくい。 ・時間配分も進行も悪く内容もよくわかりませんでした。

平成28年度 授業評価集計結果(実習・実験科目)

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部

○実習・実験科目数 24科目

○調査対象者数 2,528人(延人数) ○総回答数 2,140枚(回答率 8

2,140枚 (回答率 84.7%)

◆ 質問項目別集計結果

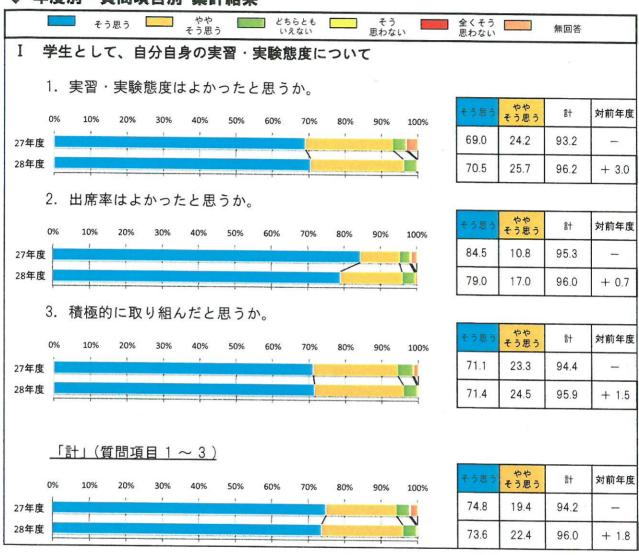
〈上段()は平成27年度アンケート結果〉

質 問 項 目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
I 学生として、自分自身の実習·実験態度について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1. 実習・実験態度はよかったと思うか。	(69.0)	(24.2)	(3.6)	(0.3)	(0.2)	(2.7)	(100)
	70.5	25.7	3.6	0.2	0.0	0.0	100
2. 出席率はよかったと思うか。	(84.5)	(10.8)	(2.8)	(0.3)	(0.2)	(1.5)	(100)
	79.0	17.0	3.4	0.4	0.2	0.0	100
3. 積極的に取り組んだと思うか。	(71.1)	(23.3)	(4.1)	(0.3)	(0.1)	(1.1)	(100)
	71.4	24.5	3.6	0.4	0.1	0.0	100
計	(74.8)	(19.4)	(3.5)	(0.3)	(0.2)	(1.8)	(100)
T	73.6	22.4	3.6	0.3	0.1	0.0	100
Ⅱ 実習・実験内容について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
4. 実習・実験に興味・関心が持てたと思うか。	(66.6)	(24.6)	(6.9)	(0.4)	(0.3)	(1.2)	(100)
	66.4	28.7	4.1	0.5	0.3	0.0	100
5. 実習・実験内容をよく理解できたと思うか。	(56.9)	(33.5)	(7.1)	(0.5)	(0.1)	(1.9)	(100)
	60.2	34.2	4.8	0.6	0.2	0.0	100
6. この実習・実験内容は将来役立つと思うか。	(71.4)	(22.2)	(4.5)	(0.7)	(0.1)	(1.1)	(100)
	69.5	25.6	4.0	0.5	0.2	0.2	100
≣ †	(65.0)	(26.8)	(6.1)	(0.5)	(0.2)	(1.4)	(100)
	65.4	29.5	4.3	0.5	0.2	0.1	100
Ⅲ 教員の実習・実験指導について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
7. 実習・実験はシラバスに沿って行われたと思うか。	(62.4)	(28.1)	(6.9)	(0.9)	(0.3)	(1.4)	(100)
	63.4	29.7	5.8	0.7	0.3	0.1	100
8. 教員の指導は実習・実験内容に応じて適切だったと 思うか。	(59.1)	(27.3)	(8.1)	(2.2)	(0.6)	(2.7)	(100)
心りか。	62.8	29.5	5.9	1.0	0.7	0.1	100
9. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(62.0)	(24.9)	(7.8)	(1.6)	(0.3)	(3.4)	(100)
	62.1	29.9	6.0	1.3	0.6	0.1	100
盲十	(61.2)	(26.8)	(7.5)	(1.6)	(0.4)	(2.5)	(100)
	62.8	29.7	5.9	1.0	0.5	0.1	100
Ⅳ 教員の姿勢について	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
10. 教員は限られた実習・実験時間を適切に活用したと 思うか。	(59.9)	(25.0)	(6.9)	(1.7)	(0.7)	(5.8)	(100)
心 ソル。	62.9	29.0	6.0	1.4	0.5	0.2	100
11. 教員は実習・実験に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(64.2)	(23.8)	(6.4)	(1.8)	(0.6)	(3.2)	(100)
	64.9	27.8	5.6	1.0	0.6	0.1	100
12. 教員は学生のレベルを把握して実習・実験を行った と思うか。	(57.2)	(26.9)	(7.7)	(1.1)	(0.6)	(6.5)	(100)
C 16. 7 11.°	61.3	30.4	6.4	1.3	0.5	0.1	100
計	(60.4)	(25.2)	(7.0)	(1.5)	(0.6)	(5.3)	(100)
V 総合評価	63.0	29.1	6.0	1.2	0.5	0.2	100
V 総合評価	(%)	(%)		(%)	(%)	(%)	(%)
13. この実習・実験は総合的に満足できたと思うか。	(59.7)	(25.3)	(7.7)	(1.2)	(0.1)	(6.0)	(100)
	61.7	26.9	5.0	1.4	0.4	4.6	100
全質問項目の平均	(64.9)	(24.6)	(6.2)	(1.0)	(0.3)	(3.0)	(100)
	65.8	27.6	5.0	0.8	0.4	0.4	100

◆ 年度別 授業評価アンケート集計結果(実習・実験科目)

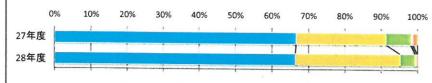
	27年度	28年度
全科目数	17科目	24科目
調査対象者数	1,720人	2.528人
総回答数(回答率)	1,580枚 (91.8%)	2,140枚 (84.7%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果



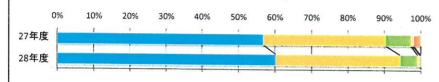


4. 実習・実験に興味・関心が持てたと思うか。



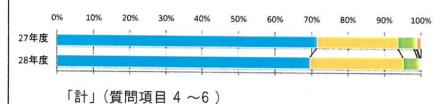


5. 実習・実験内容をよく理解できたと思うか。





6. この実習・実験内容は将来役立つと思うか。



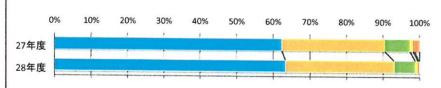
そう思う	やや そう思う	計	対前年度
71.4	22.2	93.6	_
69.5	25.6	95.1	+ 1.5

0)%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
27年度		1	,	,	j	1	- 1	# 1 A A A A A A A A A A A A A A A A A A			,
28年度			1	1			T	1			W
20十段	-,140-,-,000							Alternative and the same of			

そう思う	やや そう思う	計	対前年度
65.0	26.8	91.8	_
65.4	29.5	94.9	+ 3.1

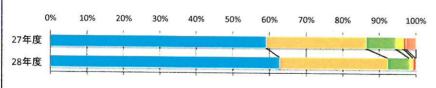
Ⅲ 教員の実習・実験指導について

7. 実習・実験はシラバスに沿って行われたと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度			
62.4	28.1	90.5	-			
63.4	29.7	93.1	+ 2.6			

8. 教員の指導は実習・実験内容に応じて適切だったと思うか。__



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
59.1	27.3	86.4	-
62.8	29.5	92.3	+ 5.9

9. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。

	ı	!	y.	1		60%	70%	80%	90%	100%
27年度				and the paper with	and the same of					
							1	Marigan Array - Wild America	<u> </u>	11
28年度	 									

そう思う	やや そう思う	計	対前年度
62.0	24.9	86.9	-
62.1	29.9	92.0	+ 5.1

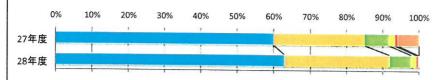
0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	1009
-	1	1		- 1	1	1	1		1	
						1000			THE RESERVE	No. of Lot, Lot, Lot, Lot, Lot, Lot, Lot, Lot,

	そう思う	H I	N1 01-
61.2	26.8	88.0	_
62.8	29.7	92.5	+ 4

0	1%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
年度		1	,	,			1	1		i	
年度							17				10

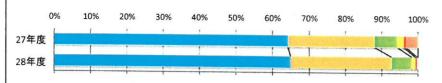
Ⅳ 教員の姿勢について

10. 教員は限られた実習・実験時間を適切に活用したと思うか。



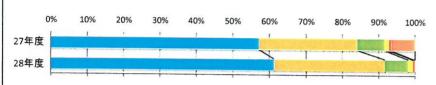


11. 教員は実習・実験に熱意を持って臨んでいたと思うか。



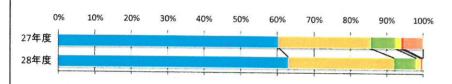
そう思う	やや そう思う	計	対前年度		
64.2	23.8	88.0	_		
64.9	27.8	92.7	+ 4.7		

12. 教員は学生のレベルを把握して実習・実験を行ったと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
57.2	26.9	84.1	_	
61.3	30.4	91.7	+ 7.6	

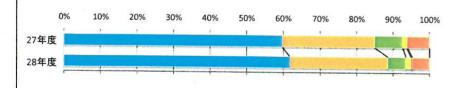
「計」(質問項目 10 ~ 12)



そう思う	やや そう思う	計	対前年度	
60.4	25.2	85.6	_	
63.0	29.1	92.1	+ 6.5	

V 総合評価

13. この実習・実験は総合的に満足できたと思うか。



そう思う	やや そう思う	計	対前年度
59.7	25.3	85.0	_
61.7	26.9	88.6	+ 3.6

全質問項目の平均

0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
27年度	- 1	1	,	į		1	1			E 1000
							<u> </u>	one man napped		1
28年度										

そう思う	やや そう思う			
64.9	24.6	89.5	_	
65.8	27.6	93.4	+ 3.9	

◆ VI この実習・実験を受けて良かったと思うことがありますか。 【総数 227】

科目名	件数	主な内容
日常生活援助展開実習 【臨床看護学コース:1年次後期】	13	・実際に患者さんを受けもって学ぶことが多くあった。 ・実際の病院内でのケアなどの難しさなどを理解することができたので良かった。 ・看護師のやりがいを感じることができ、看護師になりたいと思えたこと
精神看護学実習 【臨床看護学コース:3年次後期】	4	・アルコール専門病棟での実習だったため、とても勉強になった。 ・井ノ頭病院で実習させて頂いたが、今までの実習で一番学が得られた。環境も良く指導者も分かりやすく、 教員の指導も分かりやすかった。さすが精神看護領域だと感じた。
看護過程展開実習 【災害看護学コース:1年前期】	5	・担当教員の先生が声をかけてくださったり、学生のことを見てくれた。 ・「個別性」の大切さを身をもって学べた。 ・自分の足りないところがわかった。
老年看護学実習 I 【災害看護学コース:2年後期】	5	・レクが盛り上がってうれしかった。 ・Ⅱ週目が大変だったが、得るものもその分多かった。 ・レクが好評価で利用者と一緒に楽しめた為よかった。

◆ WI この実習·実験の進め方等について改善を図るべき事項はありますか。 【総数 80】

科目名	件数	主な内容
在宅看護学実習 【臨床看護学コース:4次前期】	15	・実習助手と教科責任者の間で情報共有をしっかりして欲しい。 ・記録の書き方について、みんな書き方がばらばらだったので統一して欲しかったかなと思います。
母性看護学実習 【臨床看護学コース:3年後期】	4	・沐浴をもう少しやりたかったです。 ・赤ちゃんを1回しか抱っこ出来なかった。もっと抱っこしたかった。
看護学体験実習 【災害看護学コース:1年前期】	10	・カンファレンスの前準備の時間がほしかった。 ・もう少し色々な(手術室など)所を見たかった。
成人看護学実習Ⅲ 【災害看護学コース:3年後期】	4	・実習を始めるタイミング。一番初めに終末期が来るのは、久しぶりの実習ということもあり、なかなかキツかった。 ・受け持ちの看護師で、時間をつくってくれず、実習の進め方がどうしようもない日が数日あった。学べる機会を減らされて気分が悪い。

平成 28 年度 大学院看護学研究科の授業評価結果に対する考察

副学長・研究科長 草間 朋子

「高度実践看護コース」「高度実践助産コース」「看護科学コース」の学生による授業評価の対象科目数は、それぞれ 21 科目、31 科目、14 科目であり、回答した大学院生は、延べ 362 名、221 名、38 名、回答率は、96.4%、83.7%、100%であった。3 コースともに授業に対する総合的な満足度は約 75%を超えており、院生の期待に応える授業が提供できたと考える。

「高度実践看護コース」

8 つの評価項目すべてにおいて「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の割合が前年度に比べて低下しており、「期待していた通りの内容であったか」「授業の進め方は適切であったか」「教材、教具は適切であったか」の3つの評価項目では、60%台であった。大学としては数年間かけて設備・備品の充実を図り改善に努めてきたが、学生の受け止めとの間に齟齬のあることが分かった。授業展開に関しては、グループワークの進め方等に改善が必要である。時間が足りないとの意見があるが、限定された2年間で必要とされる知識・技術・態度を修得するためには事前学習、事後学習を効果的に活用することを徹底していく必要がある。本コースは、昼間開講であるにも拘わらず、「授業時間外に、よく自己学習をしたと思う」の評価項目に「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の割合が65%に過ぎなかった。

「高度実践助産コース」

8 項目の評価項目すべてにおいて「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の割合が前年度に比べて減少しており、「期待していた通りの内容であったか」「授業の進め方は適切であったか」「教材、教具は適切であったか」の3つの評価項目では、60%台であった。大学として、設備・備品の充実にはかなり力を入れ改善に努めてきた(学外の非常勤講師の先生方からは、備品の整備状況を評価いただいている)が、学生の受け止めとの間に齟齬のあることが分かった。助産の中核的な科目の中に、授業内容の理解度、授業に対する満足度等が50%に達していない科目があることを真摯に受け止め、授業のあり方・進め方に対する改善が必要とされる。また、授業評価の回答率が低く、学生からの自由意見の記載も他の2つのコースに比べて極端に少ないことも学生の授業内容等に対する意思表示の一面を表しているのではないかと考えている。

「看護科学コース」

授業評価の対象学生が数名(科目により異なり 1~4 名)であるが、ほぼすべての科目において学生の評価は高い(「非常にそう思う」との評価が 100%の科目が 14 科目中 8 科目ある)。すべての科目が、夜間開講であるが、授業に対する満足感、学生たちの達成感が高いことは、自由意見記載の中からも明らかである。個々の学生の問題意識も高く、チュートリアル形式で授業が展開されるために、学生の満足感も高いものと思われる。

平成28年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程

〇全科目数 66科目

○調査対象者数 621枚(延人数)

〇総回答数

572枚(回答率92.1%)

◆ 質問項目別集計結果 [上段()は平成27年度集計結果]

(%)

(%)							
質問項目	質問項目			どちらとも 言えない 3	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。		(30.5)	(59.7)	(8.4)	(1.3)	(0.2)	(100.0)
		25.9	62.9	9.3	1.7	0.2	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思	2 極業内容を上ノ理解できょう。		(58.1)	(16.8)	(5.5)	(0.2)	(100.0)
- Joseph Sid Co. (SEI) C. C. C. C. C. C.	6 7 8 8	13.8	63.1	18.7	4.0	0.3	100.0
3 授業時間以外に よく自己学習	たしたと思いますか.	(28.1)	(44.0)	(22.6)	(4.9)	(0.4)	(100.0)
	3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。		48.3	25.2	5.2	1.7	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。		(50.5)	(44.4)	(4.2)	(0.9)	(0.0)	(100.0)
	す。この技業的各は付未収に立りと思いますか。			10.1	1.4	0.2	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。		(27.4)	(45.6)	(20.8)	(5.3)	(0.9)	(100.0)
	7) 11 C 0/2 %	17.5	51.9	23.6	5.6	1.4	100.0
6. この授業の進め方は適切だった	と思いますか	(25.4)	(43.5)	(23.6)	(6.2)	(1.3)	(100.0)
	C/60 V & 9 /1/ .	16.4	51.7	24.7	4.7	2.4	100.0
7. この授業の数材・数具等は適切	だったと思いますか	(25.4)	(47.4)	(22.1)	(4.6)	(0.5)	(100.0)
10000000000000000000000000000000000000	7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。		51.6	25.0	4.0	2.8	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。		(26.3)	(52.2)	(15.5)	(5.5)	(0.5)	(100.0)
		19.9	55.9	18.9	3.8	1.4	100.0
全質問項目の平均	平成27年度	(29.1)	(49.4)	(16.7)	(4.3)	(0.5)	(100.0)
	平成28年度	20.9	54.5	19.4	3.8	1.3	100.0

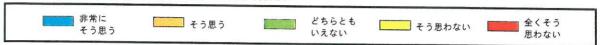
授業評価集計結果 年度別比較

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程

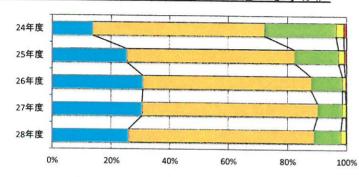
◆ 年度別 授業評価集計結果

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全科目数	48科目	48科目	63科目	67科目	66科目
調査対象者数(延人数)	588人	621人	584人	608人	621人
総回答数(回答率)	343枚 (58.3%)	524枚 (84.4%)	497枚 (85.1%)	549枚 (90.3%)	572枚 (92.1%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果



Q1.この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。

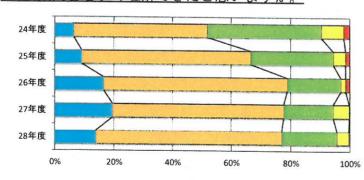


	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	13.7	58.6	72.3	-
25年度	25.3	57.1	82.4	+10.1
26年度	30.8	57.1	87.9	+5.5
27年度	30.5	59.7	90.1	+2.2
28年度	25.9	62.9	88.8	△ 1.3

(%)

(%)

Q2.授業内容をよく理解できたと思いますか。



	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	6.4	45.5	51.9	-
25年度	9.1	57.5	66.6	+14.7
26年度	16.5	62.3	78.8	+12.2
27年度	19.5	58.1	77.6	△ 1.2
28年度	13.8	63.1	76.9	△ 0.7

Q3.授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。

 24年度

 25年度

 26年度

 27年度

 28年度

 0%

 20%

 40%

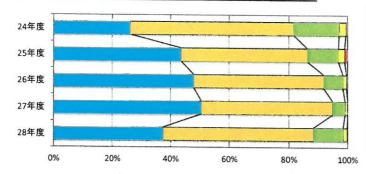
 60%

 80%

 100%

				(%)
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	11.8	43.1	54.9	-
25年度	17.0	48.3	65.3	+10.4
26年度	22.8	49.3	72.1	+6.8
27年度	28.1	44.0	72.1	0.0
28年度	19.6	48.3	67.9	△ 4.2

Q4.この授業内容は将来役に立つと思いますか。



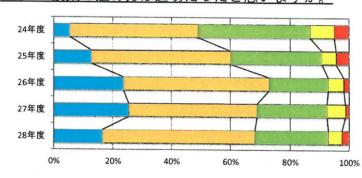
	45 AM 14	Control Control		
	非常にそう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	26.2	55.4	81.6	_
25年度	43.6	42.7	86.3	+4.7
26年度	47.9	43.9	91.8	+5.5
27年度	50.5	44.4	94.9	+3.1
28年度	37.4	50.9	88.3	△ 6.6

Q5.この授業は期待していた通りの内容でしたか。

-			 17
:5年度	-		
:6年度			
7年度		- ,	
8年度			

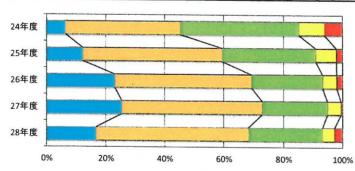
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	7.3	44.6	51.9	_
25年度	14.9	46.3	61.2	+9.3
26年度	26.6	48.9	75.5	+14.3
27年度	27.4	45.6	73.0	△ 2.5
28年度	17.5	51.9	69.4	△ 3.6

Q6.この授業の進め方は適切だったと思いますか



	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	5.5	43.4	48.9	T -
25年度	12.8	47.2	60.0	+11.1
26年度	23.6	49.3	72.9	+12.9
27年度	25.4	43.5	68.9	△ 4.0
28年度	16.4	51.7	68.1	△ 0.8

Q7.この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。



	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	6.4	38.8	45.2	_
25年度	12.2	47.2	59.4	+14.2
26年度	23.0	46.3	69.3	+9.9
27年度	25.4	47.4	72.8	+3.5
28年度	16.6	51.6	68.2	△ 4.6

Q8.この授業は総合的に満足できたと思いますか。

25年度 26年度 27年度	4年度			
27年度	5年度			
	6年度			
99年度	7年度			
0.418	8年度			

				(%)
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	8.5	52.2	60.7	-
25年度	15.3	57.3	72.6	+11.9
26年度	27.5	51.6	79.1	+6.5
27年度	26.3	52.2	78.5	△ 0.6
28年度	19.9	55.9	75.8	△ 2.7

(%)

(%)

(%)

(%)

◆ 年度別 自由記述集計結果

高度実践看護コース

	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
授業に対する肯定的評価	(39.3%)	178	(58.1%)	265	(58.0%)	145	(59.6%)	124	(59.3%)	169
授業に対する要望等	(60.7%)	275	(41.9%)	191	(42.0%)	105	(40.4%)	84	(40.7%)	116
計	(100.0%)	453	(100.0%)	456	(100.0%)	250	(100.0%)	208	(100.0%)	285

高度実践助産コース

	24年度		254	25年度		26年度		27年度		F度
授業に対する肯定的評価	(73.3%)	11	(71.6%)	58	(57.4%)	35	(59.8%)	67	(42.1%)	16
授業に対する要望等	(26.7%)	4	(28.4%)	23	(42.6%)	26	(40.2%)	45	(57.9%)	22
計	(100.0%)	15	(100.0%)	81	(100.0%)	61	(100.0%)	112	(100.0%)	38

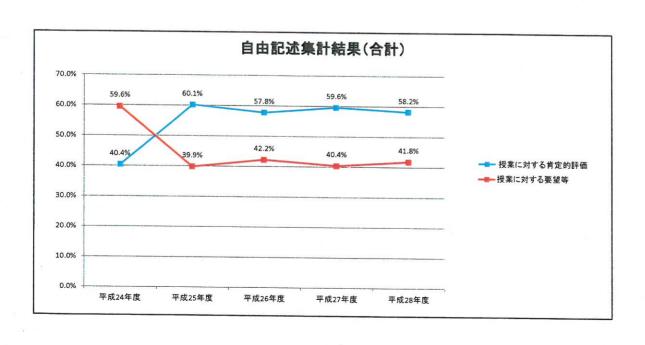
看護科学コース

	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
授業に対する肯定的評価	-	-	_	_	(55.6%)	10	(55.6%)	5	(69.2%)	18
授業に対する要望等	_	_	_	_	(44.4%)	8	(44.4%)	4	(30.8%)	8
計	_	-	-	-	(100.0%)	18	(100.0%)	9	(100.0%)	26

3コースの合計 24年度、25年度は高度実践看護コースと高度実践助産コースの2コースの合計

	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
授業に対する肯定的評価	(40.4%)	189	(60.1%)	323	(57.8%)	190	(59.6%)	196	(58.2%)	203
授業に対する要望等	(59.6%)	279	(39.9%)	214	(42.2%)	139	(40.4%)	133	(41.8%)	146
合計	(100.0%)	468	(100.0%)	537	(100.0%)	329	(100.0%)	329	(100.0%)	349

※()内のパーセント表示は、総件数に対する項目比率を表す



◆ 自由記述の主な内容(平成28年度)

高度実践看護コース

	件数	主な内容
		クリティカル領域の医学的知識は大変不足していたので、医長のドクターから疾患について教えていただけたのは本当に勉強になりました。
		NPには大切な科目のため、各講師の方が丁寧に教えてくれ、とても理解できた。
授業に対する 肯定的評価	169	覚えることがあって大変だけど、患者1人を見るのに、いろんな視点でみることの重要性を再認識した。
		解剖演習では、自分に足りないことをあらためて学ぶことができました。
		よく現場で行っていたことでも再度勉強し直すことで、考え直すいい機会になった。
授業に対する 要望等	116	もっと時間をかけて学びたかった。
		講義資料のハンドアウトが欲しい。
	110	内容により、他の科目と混同することがありました。
	*	倫理の問題は非常に難しく、取り組むのに苦労しました。大学院生としては、もっと深く踏み込んだ学びが必要だったと思います。
計	285	

高度実践助産コース

	件数	主な内容	
		他学生のプレゼンを通しての学びや自分とは異なる視点での物事のとらえ方が学べてよかった。	
授業に対する 肯定的評価	16	助産院実習で本来の助産師のあり方を学ぶことができ、自分の理想の助産師像や助産観を構築できた。	
	10	分たちで地域の子育てしている親子を対象にワークショップを企画・実施できて良かった。	
		2週間を通して受持ちの方と密に関わることができ、とても貴重な実習になりました。	
授業に対する 要望等	22	研究的な授業展開の科目と実際の研究の時期が重なったので、時期を検討して欲しい。	
		テスト前にたくさん授業があったので、もう少し余裕をもって受講したかったです。	
	22	先生方からの講義時間をもう少し充実させてほしいと思う。	
		臨床経験のある他コースとの共通科目では、経験のない学生でも分かるように補足が欲しかった。	
at a	38		

看護科学コース

	件数	主な内容
授業に対する 肯定的評価		学んだことがすぐ実践に活かせる内容だったと思います。
	18	現場の見学など貴重な体験をさせていただき、この大学でなければ学べなかったものと考えています
	10	自己課題があることで、より学びを深めることができました。
		丁寧に学生のレベルに合わせてくり返しご指導いただきました。
授業に対する 要望等		論文抄読、クリティークの時間がもう少しほしかったです。
	8	演習科目では、予習できるように各回ごとの内容を事前に教えていただけるとありがたかったです。
計	26	

平成28年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程 高度実践看護コース

〇全科目数 21科目

○調査対象者数 362人(延人数)

〇総回答数

349枚(回答率96.4%)

◆ 質問項目別集計結果 [上段()は平成27年度集計結果]

(%)

A Selicity H (13Me) I that I was indix.							(%)
質問項目		非常に そう思う 5	そう思う 4	どちらとも 言えない 3	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	計
1. この授業に意欲的に取り組めた	(25.6)	(64.2)	(8.4)	(1.5)	(0.3)	(100.0)	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	・・・ ニッパス米に必めないこ以り阻めたこだいまりか。			7.4	2.9	0.3	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思いますか。		(12.5)	(66.3)	(17.7)	(3.2)	(0.3)	(100.0)
333K 7 II 2 3 K 7 I M C 7 I C 1 I C	6 7 7 7 0	13.8	63.0	18.3	4.3	0.6	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。		(23.0)	(48.8)	(23.3)	(4.4)	(0.6)	(100.0)
		20.1	44.7	26.1	6.6	2.6	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと	(50.0)	(45.9)	(3.5)	(0.6)	(0.0)	(100.0)	
, AND THE HOLD THE	す。この1文末P3合は行木仪に立って心いますか。			6.9	1.7	0.3	100.0
5. この授業は期待していた通りの	(20.6)	(52.3)	(20.9)	(4.9)	(1.2)	(100.0)	
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	18.1	51.3	24.1	4.3	2.3	100.0	
6. この授業の進め方は適切だった	(17.2)	(49.3)	(27.1)	(5.0)	(1.5)	(100.0)	
ここの人が、この方には、ころには、このでは、このでは、この方には、この方には、この方には、この方には、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こので		15.8	51.0	25.5	5.2	2.6	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。		(17.5)	(51.9)	(24.8)	(5.0)	(0.9)	(100.0)
		15.5	50.4	26.1	4.6	3.4	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。		(19.0)	(59.5)	(15.2)	(5.5)	(0.9)	(100.0)
		19.8	56.2	18.3	4.6	1.1	100.0
全質問項目の平均	平成27年度	(23.2)	(54.8)	(17.6)	(3.7)	(0.7)	(100.0)
	平成28年度	21.4	53.6	19.1	4.3	1.6	100.0

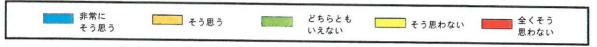
授業評価集計結果 年度別比較

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程 高度実践看護コース

◆ 年度別 授業評価集計結果

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全科目数	20科目	20科目	20科目	22科目	21科目
調査対象者数(延人数)	410人	383人	343人	388人	362人
総回答数(回答率)	331枚 (80.7%)	377枚 (98.4%)	322枚 (93.9%)	345枚 (88.9%)	349枚 (96.4%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果



Q1.この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。

 24年度

 25年度

 26年度

 27年度

 28年度

 0%

 20%

 40%

 60%

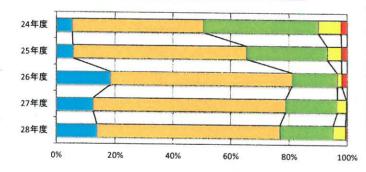
 80%

 100%

	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	11.2	60.1	71.3	-
25年度	20.2	62.9	83.1	+11.8
26年度	37.6	54.0	91.6	+8.5
27年度	25.6	64.2	89.8	△ 1.8
28年度	24.9	64.5	89.4	△ 0.4

(%)

Q2.授業内容をよく理解できたと思いますか。



				(%)	
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度	
24年度	5.4	45.3	50.7	-	
25年度	5.6	59.9	65.5	+14.8	
26年度	18.4	62.6	81.0	+15.5	
27年度	12.5	66.3	78.8	△ 2.2	
28年度	13.8	63.0	76.8	△ 2.0	

Q3.授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。

 24年度

 25年度

 26年度

 27年度

 28年度

 0%

 20%

 40%

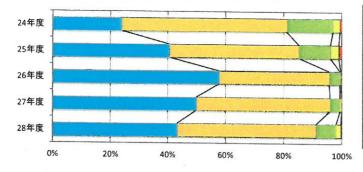
 60%

 80%

 100%

(%						
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度		
24年度	10.9	43.2	54.1	-		
25年度	15.2	50.1	65.3	+11.2		
26年度	25.2	53.1	78.3	+13.0		
27年度	23.0	48.8	71.8	△ 6.5		
28年度	20.1	44.7	64.8	△ 7.0		

Q4.この授業内容は将来役に立つと思いますか。



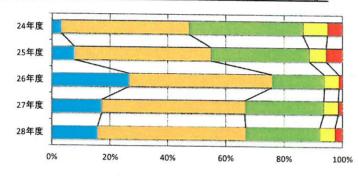
(%)					
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度	
24年度	23.9	57.1	81.0	-	
25年度	40.6	44.6	85.2	+4.2	
26年度	57.8	37.9	95.7	+10.5	
27年度	50.0	45.9	95.9	+0.2	
28年度	43.3	47.9	91.2	△ 4.7	

Q5.この授業は期待していた通りの内容でしたか。

24年度					
25年度					
26年度					
27年度					
28年度					
0%	20%	40%	60%	80%	100

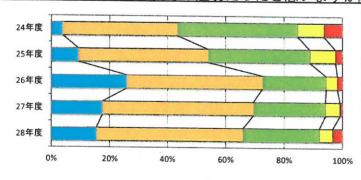
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	4.8	45.9	50.7	_
25年度	12.2	45.1	57.3	+6.6
26年度	29.8	49.7	79.5	+22.2
27年度	20.6	52.3	73.0	△ 6.5
28年度	18.1	51.3	69.4	△ 3.6

Q6.この授業の進め方は適切だったと思いますか。



	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	3.3	44.1	47.4	-
25年度	7.7	47.3	55.0	+7.6
26年度	26.6	49.1	75.7	+20.7
27年度	17.2	49.3	66.5	△ 9.2
28年度	15.8	51.0	66.8	+0.3

Q7.この授業の教材·教具等は適切だったと思いますか。



(
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	3.9	39.6	43.5	_
25年度	9.3	44.7	54.0	+10.5
26年度	25.9	46.6	72.5	+18.5
27年度	17.5	51.9	69.4	△ 3.1
28年度	15.5	50.4	65.9	△ 3.5

Q8.この授業は総合的に満足できたと思いますか。

25年度			
(5年度			
26年度	0000000		\rightarrow
27年度			
8年度		7	

(%)				
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	6.1	53.5	59.6	-
25年度	13.0	57.3	70.3	+10.7
26年度	31.5	51.0	82.5	+12.2
27年度	19.0	59.5	78.4	△ 4.1
28年度	19.8	56.2	76.0	△ 2.4

(%)

(%)

(%)

8

平成28年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程 高度実践助産コース

〇全科目数 31科目

○調査対象者数 221人(延人数)

〇総回答数

185枚(回答率83.7%)

◆ 質問項目別集計結果 [上段()は平成27年度集計結果]

(%)

質 問 項 目	3	非常に そう思う 5	そう思う 4	どちらとも 言えない 3	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	青十
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。		(39.3)	(50.8)	(8.7)	(1.1)	(0.0)	(100.0)
The state of the s	C/050 & 9 /J.	18.4	67.0	14.6	0.0	0.0	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思	いますか	(32.6)	(41.3)	(15.8)	(10.3)	(0.0)	(100.0)
- XXIII ES VEIT CEIECIS	V 6 7 13 °	9.2	67.0	19.5	4.3	0.0	100.0
3. 授業時間以外に、よく自己学習	をしたと思いますか	(37.2)	(36.1)	(20.2)	(6.6)	(0.0)	(100.0)
3. 32.3.10.0.10.0.0.10.10.10.10.10.10.10.10.10.	20122130.3911.	17.3	54.6	25.4	2.7	0.0	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと	4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。		(40.8)	(6.0)	(1.6)	(0.0)	(100.0)
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			60.5	17.3	1.1	0.0	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。		(38.8)	(35.5)	(18.6)	(6.6)	(0.5)	(100.0)
- 1238.050111 0 0 0 1222 7 05	THE COLUMN	9.7	56.8	24.3	9.2	0.0	100.0
6. この授業の進め方は適切だった	と思いますか	(39.3)	(33.9)	(16.4)	(9.3)	(1.1)	(100.0)
	C 10.0 - 6. 9 10 - 6.	10.3	56.8	25.4	4.9	2.7	100.0
7. この授業の教材・教具等は適切	だったと思いますか	(38.6)	(40.8)	(16.3)	(4.3)	(0.0)	(100.0)
3277 3277 3277	7.2.2.12.0.2.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.3.	10.3	58.4	25.9	3.2	2.2	100.0
8. この授業は総合的に満足できた	と思いますか	(38.0)	(40.8)	(15.2)	(6.0)	(0.0)	(100.0)
131-131 H 131-131 C C / C	C/2/0 6 7 // 6	13.0	60.0	21.6	3.2	2.2	100.0
全質問項目の平均	平成27年度	(39.4)	(40.0)	(14.6)	(5.7)	(0.2)	(100.0)
	平成28年度	13.6	60.1	21.8	3.6	0.9	100.0

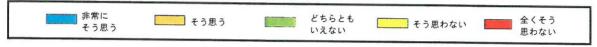
授業評価集計結果 年度別比較

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程 高度実践助産コース

◆ 年度別 授業評価集計結果

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全科目数	28科目	28科目	31科目	33科目	31科目
調査対象者数(延人数)	178人	244人	205人	198人	221人
総回答数(回答率)	12枚 (6.7%)	141枚 (57.8%)	144枚 (70.2%)	183枚 (92.4%)	185枚 (83.7%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果



Q1.この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。

 24年度

 25年度

 26年度

 27年度

 28年度

 0%

 20%

 40%

 60%

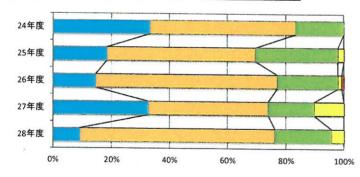
 80%

 100%

	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	83.3	16.7	100.0	-
25年度	39.1	41.8	80.9	△ 19.1
26年度	18.1	63.9	82.0	+1.1
27年度	39.3	50.8	90.2	+8.2
28年度	18.4	67.0	85.4	△ 4.8

(%)

Q2.授業内容をよく理解できたと思いますか。



				(%)
	非常に そう思う	そう思う	āt	対前年度
24年度	33.3	50.0	83.3	-
25年度	18.4	51.1	69.5	△ 13.8
26年度	14.6	62.5	77.1	+7.6
27年度	32.6	41.3	73.9	△ 3.2
28年度	9.2	67.0	76.2	+2.3

Q3.授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。

 24年度

 25年度

 26年度

 27年度

 28年度

 0%

 20%

 40%

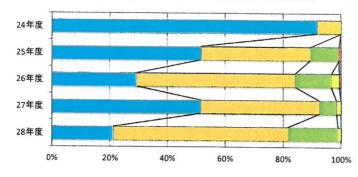
 60%

 80%

 100%

	(%)			
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	33.3	41.7	75.0	2
25年度	22.0	43.3	65.3	△ 9.7
26年度	18.8	43.1	61.9	△ 3.4
27年度	37.2	36.1	73.2	+11.3
28年度	17.3	54.6	71.9	△ 1.3

Q4.この授業内容は将来役に立つと思いますか。



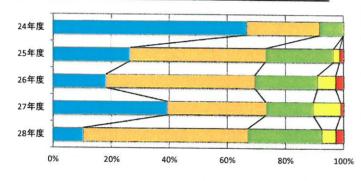
	非常に そう思う	そう思う	<u>ā</u> †	対前年度	
24年度	91.7	8.3	100.0	_	
25年度	51.8	37.6	89.4	△ 10.6	
26年度	29.2	54.9	84.1	△ 5.3	
27年度	51.6	40.8	92.4	+8.3	
28年度	21.1	60.5	81.6	△ 10.8	

Q5.この授業は期待していた通りの内容でしたか。

4年度	 	
5年度		
6年度		
7年度		
8年度		

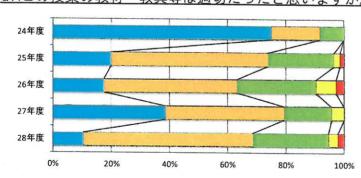
				(%)
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	75.1	8.3	83.4	-
25年度	22.1	49.6	71.7	△ 11.7
26年度	20.2	48.6	68.8	△ 2.9
27年度	38.8	35.5	74.3	+5.5
28年度	9.7	56.8	66.5	△ 7.8

Q6.この授業の進め方は適切だったと思いますか。



	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度	
24年度	66.7	25.0	91.7	_	
25年度	26.3	46.8	73.1	△ 18.6	
26年度	18.1	51.4	69.5	△ 3.6	
27年度	39.3	33.9	73.2	+3.7	
28年度	10.3	56.8	67.1	△ 6.1	

Q7.この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。



	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度		
24年度	75.0	16.7	91.7	-		
25年度	19.9	53.9	73.8	△ 17.9		
26年度	17.4	45.8	63.2	△ 10.6		
27年度	38.6	40.8	79.3	+16.1		
28年度	10.3	58.4	68.7	△ 10.6		

Q8.この授業は総合的に満足できたと思いますか。

24年度					
25年度					
26年度					
27年度					
28年度					
0%	20%	40%	60%	80%	1 1 100

	(%)			
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
24年度	75.0	16.7	91.7	_
25年度	21.4	57.4	78.8	△ 12.9
26年度	18.8	54.9	73.7	△ 5.1
27年度	38.0	40.8	78.8	+5.1
28年度	13.0	60.0	73.0	△ 5.8

(%)

平成28年度 授業評価集計結果

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程 看護科学コース

※平成26年度設置

〇全科目数 14科目

〇調査対象者数

38人(延人数)

〇総回答数

38枚(回答率100.0%)

◆ 質問項目別集計結果 [上段()は平成27年度集計結果]

(%)

(%)							
質問項目		非常に そう思う 5	そう思う 4	どちらとも 言えない 3	そう 思わない 2	全くそう 思わない 1	計
1. この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。		(33.3)	(61.9)	(4.8)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
	C 16.0. & 9 10.	71.1	28.9	0.0	0.0	0.0	100.0
2. 授業内容をよく理解できたと思	いますか	(19.0)	(71.4)	(9.5)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
2. 及来内容であく遅かしてたこか	0 · & 9 /J·°	36.8	44.7	18.4	0.0	0.0	100.0
		(33.3)	(33.3)	(33.3)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
0. 汉朱时间次/广气、6、日已于自	3. 授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。		50.0	15.8	5.3	2.6	100.0
4. この授業内容は将来役に立つと思いますか。		(47.6)	(52.4)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
		63.2	31.6	5.3	0.0	0.0	100.0
5. この授業は期待していた通りの内容でしたか。		(38.1)	(23.8)	(38.1)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
		50.0	34.2	15.8	0.0	0.0	100.0
6 この授業の進め方は適切だった	6. この授業の進め方は適切だったと思いますか。		(33.3)	(28.6)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
0. 2010年9月18月17日			34.2	13.2	0.0	0.0	100.0
7 この授業の教材・教具等仕簿切	7 - 0 哲学 0 松 + - * * 日		(33.3)	(28.6)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
7. この授業の教材・教具等は適切だったと思いますか。		57.9	28.9	10.5	2.6	0.0	100.0
8. この授業は総合的に満足できたと思いますか。		(42.9)	(33.3)	(23.8)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
		55.3	34.2	10.5	0.0	0.0	100.0
全質問項目の平均	平成27年度	(36.3)	(42.9)	(20.8)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
エヌ門スロットの	平成28年度	51.6	35.9	11.2	1.0	0.3	100.0

授業評価集計結果 年度別比較

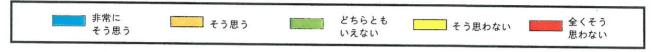
東京医療保健大学大学院 看護学研究科 修士課程 看護科学コース

※平成26年度設置

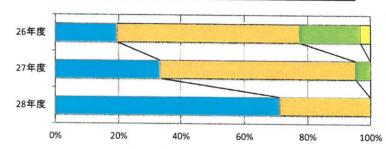
◆ 年度別 授業評価集計結果

	26年度	27年度	28年度
全科目数	12科目	12科目	14科目
調査対象者数(延人数)	36人	22人	38人
総回答数(回答率)	31枚 (86.1%)	21枚 (95.5%)	38枚(100.0%)

◆ 年度別・質問項目別 集計結果

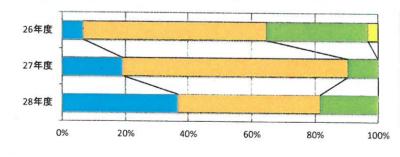


Q1.この授業に意欲的に取り組めたと思いますか。



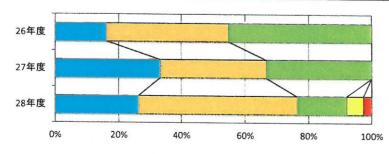
	非常に	そう思う	±1	(%)
	そう思う	てつ思う	計	対前年度
26年度	19.4	58.0	77.4	-
27年度	33.3	61.9	95.2	+17.8
28年度	71.1	28.9	100.0	+4.8

Q2.授業内容をよく理解できたと思いますか。



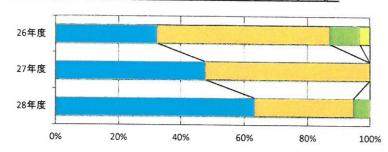
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度	
26年度	6.5	58.1	64.6	-	
27年度	19.0	71.4	90.5	+25.9	
28年度	36.8	44.7	81.5	△ 9.0	

Q3.授業時間以外に、よく自己学習をしたと思いますか。



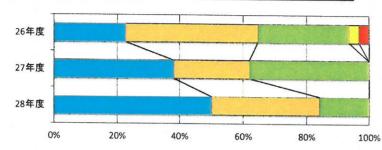
(%					
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度	
26年度	16.1	38.7	54.8	=	
27年度	33.3	33.3	66.7	+11.9	
28年度	26.3	50.0	76.3	+9.6	

Q4.この授業内容は将来役に立つと思いますか。



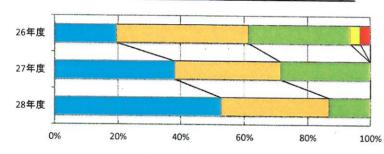
				(%)
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
26年度	32.3	54.8	87.1	-
27年度	47.6	52.4	100.0	+12.9
28年度	63.2	31.6	94.8	△ 5.2

Q5.この授業は期待していた通りの内容でしたか。



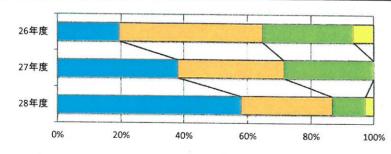
				(%)		
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度		
26年度	22.6	42.0	64.6	-		
27年度	38.1	23.8	61.9	△ 2.7		
28年度	50.0	34.2	84.2	+22.3		

Q6.この授業の進め方は適切だったと思いますか。



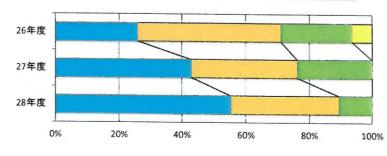
				(%)
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
26年度	19.4	41.9	61.3	-
27年度	38.1	33.3	71.4	+10.1
28年度	52.6	34.2	86.8	+15.4

Q7.この授業の教材·教具等は適切だったと思いますか。



				(%)
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
26年度	19.4	45.2	64.6	-
27年度	38.1	33.3	71.4	+6.8
28年度	57.9	28.9	86.8	+15.4

Q8.この授業は総合的に満足できたと思いますか。



				(%)
	非常に そう思う	そう思う	計	対前年度
26年度	25.8	45.2	71.0	-
27年度	42.9	33.3	76.2	+5.2
28年度	55.3	34.2	89.5	+13.3

公開講座実施状況(平成27年度~平成29年度)

				神座关旭仏が(千0		<u>次 </u>	:				
実施	五日時	29.6.11(日)10:00~12	:00	29.9.15(金)10:00~11	: 30	29.9.15(金)14:00~15	5:30	29.10.7(土)10:00~12	:00	29.11.18(土)10:00~12	:00
実施	返場 所	こみゅにていプラザハ (品川区八潮)	潮	国立病院機構キャンパ (目黒区東が丘)	国立病院機構キャンパス (目黒区東が丘)		世田谷キャンパス (世田谷区世田谷)		五反田キャンパス (品川区東五反田)		
受	講料	無料		無料		無料		無料		無料	
講座の内容		「在宅における歯科医 口腔機能向上につ(「卒乳・断乳の時の大切が	なこと」	「共に乗り越える安産 [・] ヒケツ」	・沐浴の	「認知症予防に役立つ食事	と生活」	「トイレのことばかり気になる 生活から一歩前へ」	
		医療保健学部医療情報	 学科	東が丘・立川看護学部看護	美学科	東が丘・立川看護学部看	護学科	医療保健学部医療栄養学	学科	医療保健学部看護学	科
講	師	講師 柴野 荘一		講師 平出 美栄子	<u>-</u>	講師 平出 美栄 -	7	講師 細田 明美		教授 阿部 桃子	
参加	口者 数			大人51名、子供37名	<u> </u>	16名		43名			
アンケー	-ト回答者数			41名		10名		41名		63名	
		(回収率 92.3%)		(回収率 80.4%)		(回収率 62.5%)		(回収率 95.3%)		(回収率 98.4%)	
年	代	70歳以上	45.8%	-	-	-	-	70歳以上	48.7%	70歳以上	68.3%
		50~69歳	45.8%	-	_	-	-	50~69歳	41.5%	50~69歳	28.5%
		50歳未満	8.4%	-	-	-	-	50歳未満	9.8%	50歳未満	3.2%
在	住	品川区内	83.3%	目黒区内	39.1%	目黒区内	30.0%	世田谷区内	70.7%	品川区内	77.8%
		品川区以外	12.5%	目黒区以外	43.9%	目黒区以外	40.0%	世田谷区以外	17.1%	品川区以外	15.9%
		東京都以外	4.2%	東京都以外	14.6%	東京都以外	10.0%	東京都以外	2.4%	未記入	6.3%
				未記入	2.4%	未記入	20.0%	未記入	9.8%		
感	想	とてもわかりやすかった	66.7%	とてもわかりやすかった	95.2%	とてもわかりやすかった	100.0%	とてもわかりやすかった	70.8%	とてもわかりやすかった	69.8%
		わかりやすかった	29.1%	普通	2.4%			わかりやすかった	26.8%	わかりやすかった	25.4%
		やや難解だった	4.2%	やや難解だった	2.4%			無回答	2.4%	やや難解だった	1.6%
講座を知	知った方法	チラシ	45.8%	チラシ・ポスター	46.5%	チラシ・ポスター	40.0%	世田谷区公開講座情報誌	36.5%	広報しながわ	45.8%
		広報しながわ	41.7%		23.2%		10.0%		31.7%		33.3%
		品川区HP	4.2%		14.0%		50.0%		12.2%		11.1%
		その他	8.3%		7.0%			友人・知り合いからの誘い	9.8%		2.8%
				その他	9.3%			大学HP	4.9%	その他	7.0%
								その他	4.9%		

1

					平成2				
実施	日時	28.6.11(土)10:00~1	2:00	28.10.23(日)10:00~12	2:00	28.11.20(日)10:00~12	:00	28.12.10(土)10:00~12	2:00
実施	退場 所	こみゅにてぃプラザ <i>(</i> (品川区八潮)	八潮	特別養護老人ホーム 上北沢ホーム (世田谷区上北沢)	•	五反田キャンパス (品川区東五反田)		国立病院機構キャンパス (目黒区東が丘)	
受	講料	無料		無料		無料		無料	
講座	の内容	「知って得する食品債	前生」	「この冬気をつけたい感	染症」	「逆境を乗り越える力、折れ (レジリエンス)をはぐくむー ー」		「最期まで自分らしく生きる	ために」
		医療栄養学科講師	師		講師	 看護学科准教授			
講	講師			松本 和史		秋山 美紀		櫻井 智穂子	
参加	1者数	31名		10名		60名		63名	
アンケー	·卜回答者数	29名		10名		60名		59名	
		(回収率 93.5%))	(回収率 100%)		(回収率 100%)		(回収率 93.7%)	
性	別	女性22名、男性7年	名	女性6名、男性4名		女性41名、男性18名、未訂	己入1名	女性43名、男性14名、未記	記入2名
年	代	70歳以上	44.8%	70歳以上	30.0%	70歳以上	23.4%	70歳以上	54.2%
		50~69歳	51.7%	50~69歳	60.0%	50~69歳	48.3%	50~69歳	33.9%
		50歳未満	3.5%	50歳未満	10.0%	50歳未満	25.0%	50歳未満	11.9%
						未記入	3.3%		
在	住	品川区内	100.0%	世田谷区内	90.0%	品川区内	85.0%	目黒区内	71.2%
				世田谷区以外	10.0%	品川区以外	11.7%	目黒区以外	25.4%
						未記入	3.3%	東京都以外	3.4%
感	想	とてもわかりやすかった	75.9%	とてもわかりやすかった	90.0%	とてもわかりやすかった	86.7%	とてもわかりやすかった	62.7%
		普通	20.7%	普通	10.0%	普通	11.7%	普通	28.8%
		やや難解だった	3.4%			やや難解だった	1.6%	やや難解だった	6.8%
								その他	1.7%
講座を知	们った方法	チラシ・ポスター	57.1%	チラシ・ポスター	80.0%	広報しながわ	41.4%	めぐろ区報	44.6%
		品川区HP等	37.2%	世田谷区報	10.0%	チラシ・ポスター	32.9%	チラシ・ポスター	40.0%
		その他	5.7%	その他	10.0%	品川区HP	11.4%	目黒区HP	9.2%
						友人・知り合いからの誘い	2.9%	本学HP	3.1%
						その他		友人・知り合いからの誘い	3.1%

				 平成27年度				
実施	百日時	27.6.6(土)10:00~12:	:00	27.10.18(日)10:00~1	12:00	27.11.14(土)10:00~12	2:00	
実施	5 場 所	こみゅにていプラザハ (品川区八潮)	.潮	特別養護老人ホー。 上北沢ホーム (世田谷区上北沢)		五反田キャンパス (品川区東五反田)		
受	講料	無料		無料		無料		
講座の内容		「スマホでできる!健康・	管理」	「認知症ケア 発症と進行 策として家族にできること	ᄓᄀᄓ	「逆境を乗り越える力、折れ を育てるーレジリエンスとは か一」		
		医療情報学科講師	ī	東が丘・立川看護学部	7講師	看護学科准教授		
講	師	 瀬戸 僚馬		 岩渕 起江		秋山 美紀		
矣 tr		40名		23名		80名		
	- 1			20名				
,,,,	TELLA	(回収率 97.5%)		(回収率 87.0%))	(回収率 98.0%)		
 性	別	女性27名、男性11名、無言	记入1名	女性14名、男性6		女性56名、男性22名	2	
'-	,,,			341244 24 33124		21,231,231,231,231,231,231,231,231,231,2		
年	代	70歳以上	61.6%	 70歳以上	30.0%	70歳以上	25.0%	
		50~69歳	35.9%	50~69歳	55.0%	50~69歳	47.0%	
		未記入	2.5%	50歳未満	15.0%	50歳未満	28.0%	
在	住	品川区	100.0%	世田谷区	100.0%	品川区内	90.0%	
						品川区以外	4.0%	
						東京都以外	6.0%	
感	想	とてもわかりやすかった	53.8%	とてもわかりやすかった	70.0%	とてもわかりやすかった	77.0%	
		普通	35.9%	普通	30.0%	普通	15.0%	
		やや難解だった	10.3%			やや難解だった	4.0%	
						未記入	4.0%	
		チラシ・ポスター	31.6%					
		大学のHP等	17.5%					
講座を知	細った方法	友人・知り合いからの誘い	12.8%	その他	10.0%	本学ホームページ	2.0%	
		広報しながわ	8.5%			友人・知り合いからの誘い	2.0%	
		その他	14.9%			その他	11.0%	

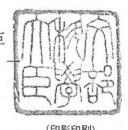


28 文科高第 1023 号 平成 29 年 2 月 17 日

大学を設置する関係各地方公共団体の長 関係各国立大学法人学長 関係各公立大学法人の理事長 大学を設置する関係各学校法人の理事長

殿

文部科学大臣



(印影印刷)

設置計画履行状況等調査の結果について (通知)

このことについて,大学設置・学校法人審議会大学設置分科会における審議の結果を 踏まえ、別紙のとおり意見を付すこととしましたので通知します。

意見が付された趣旨を十分御理解の上,意見への対応はもとより,設置の趣旨、目的 等に沿った教育研究活動を行い、設置計画の着実な履行に努めてください。

なお, 文部科学省ホームページに, 今年度の調査結果「設置計画履行状況等調査の結 果等について(平成28年度)」を掲載しておりますので、御参照ください。

その他意見	○ 自大学の教員を学生として研究指導等をする 場合、公本公正な研究指導等が行われるよう、指導方法や内容等に関する取扱いを内据 等に定めることが望ましい。(看護学研究科 看護学専攻(D))	
	改善意見	改善意見
是正意見又は改善意見	○ 学生が予見性を持って計画的な学修ができる よう、博士論女の審査までにどのような要件 を課すのか、学生に対して事前に周知すること。 (看護学研究科看護学専攻(D))	○ 校業改善およびハラスメント等の防止のため、匿名性に留意しつつ学生の意見を聞く仕組みを構築すること。(権護学研究科権護学専攻(D))
開設年度	56	
华部名·研究科名等	看護学研究科 看護学專攻(D)	
雷区分	設 整 変 更	
関文部	国出 専攻 は課	
大华名 鄉	東京医療保健大学大学院	
設置	学校法人青葉学	
設置备区分	私立	
NO.	74	

注3

大学番号:096

[平成26年度設置]

計画の区分:研究科の専攻に係る課程の変更

注 1



東京医療保健大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(D) 注2

【届出】設置に係る改善意見等対応状況報告書

学校法人青葉学園 平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局名 東が丘・立川看護学部等事務部

職名・氏名 事務部長 利光 重信

電話番号 03-5779-5031

(夜間) 03-5779-5031

F A X 03-5431-1481

e — mail higashigaoka-po@thcu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「OO大学大学院 ・・・」と記入してください。 設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に
 - () 書きにて、現在の名称を記載してください。
 - 例) ○○大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合:「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学研究科

<₹	養学専攻> ペーラ	ジ
1.	周査対象大学等の概要等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.	既設大学等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3.	数員組織の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
4.	前年度のAC調査において付された意見への対応状況 ・・・・・・・	5

- 1 調査対象大学等の概要等
- (1) 設置者

学校法人青葉学園

- (2) 大学名 東京医療保健大学大学院
- (3) 大学の位置

T152-8558 T141-8648 東京都目黒区東が丘二丁目5番1号 (東京都品川区東五反田四丁目1番17号)

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載して ください。
- (4)調査対象研究科等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科の 分野		設置時の計	備考	
#14444 (2009) 201 10 VO 200	0.0000000	修業年限	入学定員	収容定員	
看護学研究科 看護学専攻(博士課程) 博士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	3	2	6	基礎となる学部等 東が丘・立川看護学部

- (注) ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を () 書きで記入してください。・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

2 既設大学等の状況

大学の名称	東	京 医	療	保	健	大	学				備	考
既設学部等の名称	修業 年限	入学定	組定	入学	収定	容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設年 度	所 在 地		
	年	,	1	年次	fi.	人		倍				
≪AC対象学部等≫				人								
医療保健学部					9					東京都品川区		
看護学科	4	10	이	-		400	学士 (看護学)	1. 16	平成17年度	東五反田4-1-17		
医療栄養学科	4	10	0	-		400	学士 (医療栄養 学)	1. 07	平成17年度	東京都世田谷区 世田谷3-11-3		
医療情報学科	4	8	0	-		320	学士 (医療情報 学)	0. 81	平成17年度	同上		
東が丘・立川看護学部							*** T			東京都目黒区 東が丘2-5-1		
看護学科	4	20	0	-		800	学士(看護学)	1.09	平成22年度	東が丘2-5-1		
医療保健学研究科							16.			東京都品川区		
医療保健学専攻	2	2	5	-		50	修士 (看護マネ ジメント	1. 10	平成19年度	東五反田4-1-17		
(修士課程)							ジメント 学) (感染制御 学)					
							(医療栄養 学)					
9							(医療保健情報学) (助産学)					
							(周手術医療 安全学) (滅菌供給管 理学)	1				
							(看護実践開 発学)					
医療保健学専攻	3		4	_		12	博士	1. 25	平成21年度	同上		
(博士課程)							学) (周手術医療安全学)					
							(看護学)					
看護学研究科										東京都目黒区		
看護学専攻	2	;	30	-		60	【看瓶学 】	1. 01	平成22年度	+ 18F0 F 1		
(修士課程)							(助産学)					
看護学専攻	3		2	_		6	博士	1. 33	平成26年度	同上		
(博士課程)							(看護学)					
			w/100 -									
大学の名称	0	O 短	_		学			I may 2 mg	T		備	考 ———
既設学部等の名称	修業 年限	入章	学系	編入学 定 員	収定	容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設年 度	所 在 地		
	年		시	年次		人		倍				
				人								
								1	J	1		

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
 - ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - 「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、<u>入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、</u> 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

3 教員組織の状況

〈看護学研究科 看護学専攻(博士課程)〉

(1) 設置基準上の必要専任教員数

現在(報告書提出 時)における設置 基準上の必要研究 指導教員数	うち、現在(報告 書提出時)におけ る設置基準上の必 要教授数	現在(報告書提出 時)における設置 基準上の必要研究 指導補助教員数				
6	4	6				
名	名	名				

(注)・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日 文部省告示第百七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2) 専任教員数

	現在(報告書提出時)の状況													
教 授	准教授	講自	師助)教	計	教	授	准	教授	講	師	助	教	計 (A)
6	4	4		0	14		6		6	1			0	13
(6)	(4)	(4)		(0)	(14)				6027)					
研究指導 員数		旨導補 員数	講義のみ担 当の教員数			研究指導教員 数 11		八員	研究指導補 助教員数		講当	講義のみ担 当の教員数		
12		2	0					2			0			
(12)	(2)	(0)		/					, ,				

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、 ()内に開設時の状況を記入してください。
 - 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数) を記入してください。

(3) 年齡構成

年齢構成							
定年規定の定め る定年年齢 (歳)	報告書提出時(上記(A))の教 員のうち、定年を延長して採用し ている教員数						
65	1						
歳	名						

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢 (特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて 専任教員として採用されている 教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」 に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」 と修正して記入してください。

4 前年度のAC調査において付された意見への対応状況

意見		履行状況	未履行事項についての実施計画		
・学生が予見性を持って計画 ではるとのでででで、 を書すのよこと。 ・学生があること。	改善意見	理学で1し究口討正(員連チ見2は集研に表意め3コーにコ状分すに分は次が 部努進に士ををできた。マキしを*が分々交・、会究おを見方・ロ 指確口況野る把レ、は選ュの力渉人を審を徹整と1び)応 程集てを集2の1番を第三ででを員程よ*に 課にいどる程果看日頭、行考文で にわでせを研こー員教)び、す。3名でを員程よ*に 課にいどる程果看日頭、行考文で にわでせを研こー員教)び、す。3名のン学 ンに、オーウ、行)定野一換博研(学い通交等博・			
・授業改善およびハラスメント等の防止のため、匿名性に 留意しつつ学生の意見を聞く 仕組みを構築すること。	改善意見	博士課程の学生を対象にしたペーパー () の授業評価を行い、学名の出きでは、学るの授業評価を行い、学るのでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生のでは、学生がいる。は、学生がいる。は、学生がいる。は、学生がいるには、学生がいるには、学生がいるには、学生がいる。			

・自大学の教員を学生として 研究指導等をする場合、公平 公正な研究指導等が行われる よう、指導方法や内容等に関 する取扱いを内規等に定める ことが望ましい。

看護学の将来を担う研究教育者を 育成するという喫緊の必要性を背景 として、博士課程に在籍する本学の 教員は少なくない。このような状況 で、公平公正な指導や評価が重要で あることは当初から強く認識してい る。とくに審査の過程での公正性の 確保は不可欠である。そこで、審査 は5名の審査員によって行うことと し、内2名を学外の審査員にお願い している。学外の審査員の選考にあ たっては、当該論文の専門性を最優 先し、研究科教授会で決定すること を内規に定めている。本年修了の4 名の審査会でも外部審査員の先生方 から厳正なご指摘をいただき感謝し ている。

その他意見

博士課程に在籍する教員には、本学の教育研究等の業務が最優先されるので、コロキウム(月1~2回)の実施時間帯は18:00~20:00に、論文の集中指導の日程は土曜日および日曜日に設定し、本来業務に支にないないないない教員との公平性を図っている。

指導方法や指導内容等に関しては、 個々の学生の論文のテーマによって それぞれ異なるので、画一的な取り 扱いや内規の制定は難しいと考えて いるが、これに関しては、今後の経 験を踏まえて検討していきたい。

(注)・前年度のAC調査において付された意見への対応状況を具体的に記入するとともに、 その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。

なお、未履行事項がある場合は、今後の実施計画を具体的に記入してください。

- 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される<u>全ての報告書に</u> 記入してください。

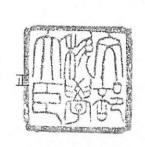


29 文科高第 996 号 平成 30 年 2 月 23 日

大学を設置する関係各地方公共団体の長 関係各国立大学法人学長 関係各公立大学法人の理事長 独立行政法人国立高等専門学校機構理事長 大学を設置する関係各学校法人の理事長

殿

文部科学大臣 林 芳



(印影印刷)

平成29年度設置計画履行状況等調査の結果について(通知)

このことについて、意見は付さないこととしましたので通知します。

今後も設置の趣旨,目的等に沿った教育研究活動を行い,設置計画の着実な履行に努めてください。

なお, 今年度の調査結果については, 文部科学省ホームページに掲載しています。